

StorageTek Enterprise Library Software

VM Client インストール、構成、および管理ガイド

Release 7.3

E71061-01

2015 年 9 月

StorageTek Enterprise Library Software

VM Client インストール、構成、および管理ガイド

E71061-01

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	19
対象読者	19
ドキュメントのアクセシビリティについて	19
関連ドキュメント	19
表記規則	19
表記上の規則	19
構文規則	20
フロー線	20
必須選択	20
1つのオプション選択	20
デフォルト	21
繰り返し	21
キーワード	21
変数	21
代替値	21
オプション	22
区切り文字	22
範囲	22
リスト	24
空白スペース	24
制御文の構文規則	24
新機能	25
1. 概要	27
機能	27
データフロー	28
ACSL5 サーバーへの XAPI Client インタフェース	28

2. インストールの準備	31
IBM VMSES/E	31
VM Client インストールパッケージ	31
VM Client インストールの内容	32
ソフトウェアおよびハードウェアの要件	32
ソフトウェア要件	32
ハードウェア要件	33
MVS の要件	33
アプリケーションプログラムインタフェースの検証	33
DASD ストレージおよびユーザー ID の要件	33
3. VM Client のインストール	37
IBM VMSES/E	37
インストール手順のサマリー	37
ステップ 1: VM Client リソース要件の決定	38
PPF オーバーライドファイルの作成	39
ステップ 2: VM Client リソースの割り当て	40
ステップ 3: VM Client 製品ファイルのインストール	41
ステップ 4: VM Client 実行可能コードのビルド	42
ステップ 5: VM Client サービスマシンの作成	43
ステップ 6: VM Client サービスマシンファイルのカスタマイズ	43
ステップ 7: VM Client のテスト	43
ステップ 8: VM Client の本番環境への配置	43
4. VM Client 保守のインストール	45
IBM VMSES/E	45
インストール手順のサマリー	45
ステップ 1: 保守を受信する準備	46
ステップ 2: 保守の受信	47
ステップ 3: 保守の適用	48
ステップ 4: 新しいレベルのビルド	48
ステップ 5: 新しい保守の本番環境への配置	49

5. VM Client の起動	51
SMCBINT モジュールパラメータ	51
TRACE キーワード値ペア	52
OPERATOR キーワード値ペア	52
MAXRC キーワード値ペア	52
VM Client コマンドファイル	52
SMCPARMS	53
SMCCMDS	53
VM Client カスタマ出口	53
CP DETACH のサポート	54
6. VM Client コマンド	55
VM Client コマンドの発行	55
VM Client コマンド	55
AUTHorize	55
構文	56
パラメータ	56
例	57
CMS	57
構文	57
パラメータ	57
例	57
COMMtest	58
構文	58
パラメータ	58
例	59
CP	59
構文	59
パラメータ	60
例	60
DISMount	60
構文	60

パラメータ	60
例	61
Display DDrive	61
構文	61
パラメータ	61
例	62
Display RC	62
構文	63
パラメータ	63
例	63
Display Volume	64
構文	64
パラメータ	64
例	64
DRIVemap	64
構文	65
パラメータ	65
例	66
DUMP	66
構文	66
パラメータ	66
例	67
DUMPOpts	67
構文	67
パラメータ	67
例	68
EXIT	68
構文	68
パラメータ	68
Help	68
構文	69
パラメータ	69
例	69

LlSt	69
構文	70
パラメータ	70
LOGdisk	70
構文	71
パラメータ	71
例	72
MOunt	72
構文	72
パラメータ	72
例	74
MSGDef	74
構文	74
パラメータ	74
例	76
OPERator	76
構文	76
パラメータ	76
例	77
POOLmap	77
構文	77
パラメータ	77
例	78
READ	78
構文	78
パラメータ	79
例	79
RESYNChronize	79
構文	79
パラメータ	79
例	80
Route	80
構文	80

パラメータ	81
例	81
SERVer	81
構文	81
パラメータ	82
サーバーパスパラメータ	83
例	85
TAPEPlex	85
構文	85
パラメータ	85
例	86
TCPip	87
構文	87
パラメータ	87
tcpip パラメータ	88
例	89
TRace	90
構文	90
パラメータ	90
例	90
7. ELS サーバーに関する考慮事項	93
SMC HTTP サーバーコンポーネント	93
スクラッチサブプール	93
VTCS 管理クラス	94
VM:Tape 割り振り出口	94
8. メッセージ	97
メッセージの説明	97
9. VM Client テープ管理インタフェース	137
TMS の役割	138

ユーザーインタフェース	139
テープリソースの割り当て	139
オペレータインタフェース	140
TMS の決定ポイント	140
TMS の初期化	140
ドライブの割り当て	140
スクラッチの割り当て	140
ボリューム移動	140
ボリュームをスクラッチステータスに戻す	141
TMS に返される TapePlex 情報	141
構成情報	141
ボリュームステータス	141
ボリュームの場所	141
適格なドライブ	142
移動ステータスとエラーコード	142
LSM および ACS のステータス	142
IUCV (Inter-User Communication Vehicle) に関する注意事項	142
その他の考慮事項	145
TMS と VM Client の対話	145
TMS から VM Client への初期接続	146
初期接続ダイアログ	146
ドライブの割り当て	146
割り当ての対話	146
割り当てダイアログ	147
割り当てインタフェースの終了	148
操作メッセージ処理	148
オペレータメッセージの対話	149
オペレータメッセージダイアログ	149
オペレータメッセージインタフェースの終了	150
PROP 検出マウント解除	150
シナリオ A - 通常のマウント解除	150
シナリオ B - マウント解除の自動処理	151
ACSRQ マクロ	152

ACSRQ リクエスト	152
ACSRQ マクロ構文	153
DISMOUNT	155
考慮事項	155
構文	155
パラメータ	156
リクエストの応答	157
EJECT	157
考慮事項	157
構文	158
パラメータ	159
リクエストの応答	161
MOUNT	161
考慮事項	162
構文	162
パラメータ	162
リクエストの応答	165
MOVE	165
考慮事項	165
構文	165
パラメータ	166
リクエストの応答	168
QCAP	169
考慮事項	169
構文	169
パラメータ	169
リクエストの応答	171
QCONFIG	172
考慮事項	172
構文	172
パラメータ	172
リクエストの応答	174
QDRIVES	174

考慮事項	174
構文	174
パラメータ	174
リクエストの応答	176
QDRLIST	176
考慮事項	176
構文	177
パラメータ	177
リクエストの応答	180
QSCRATCH	180
考慮事項	180
構文	181
パラメータ	181
リクエストの応答	183
QVOLUME	183
考慮事項	183
構文	184
パラメータ	184
リクエストの応答	186
QVOLUSE	186
考慮事項	186
構文	186
パラメータ	187
リクエストの応答	188
SCRATCH	188
考慮事項	188
構文	189
パラメータ	189
リクエストの応答	190
SELSCR	191
考慮事項	191
構文	191
パラメータ	191

リクエストの応答	194
UNSCRATCH	194
考慮事項	194
構文	194
パラメータ	195
リクエストの応答	196
インタフェースデータ領域	196
SLX マクロ	196
SLX マクロマッピング	198
相互参照	205
ACSINT リクエスト DSECT	213
相互参照	217
IUB レコード形式	222
IUB - IUCV リクエストブロック	222
相互参照	227
A. MEDia、RECtech、および MODEl の値	229
メディアタイプ (<i>MEDia</i>)	229
記録技法 (<i>RECtech</i>)	233
モデルタイプ (<i>MODEl</i>)	236
B. 診断	239
索引	241

図の一覧

1.1. VM Client のデータフロー	28
6.1. AUTHorize コマンドの構文	56
6.2. CMS コマンドの構文	57
6.3. COMMtest コマンドの構文	58
6.4. CP コマンドの構文	60
6.5. DISMount コマンドの構文	60
6.6. Display DRive コマンドの構文	61
6.7. Display RC コマンドの構文	63
6.8. Display Volume コマンドの構文	64
6.9. DRIVemap コマンドの構文	65
6.10. DUMP コマンドの構文	66
6.11. DUMPOpts コマンドの構文	67
6.12. EXIT コマンドの構文	68
6.13. Help コマンドの構文	69
6.14. LIst コマンドの構文	70
6.15. LOGdisk コマンドの構文	71
6.16. MOunt コマンドの構文	72
6.17. MSGDef コマンドの構文	74
6.18. OPERator コマンドの構文	76
6.19. POOLmap オペレータコマンド	77
6.20. READ コマンドの構文	78
6.21. RESYNChronize コマンドの構文	79
6.22. Route コマンドの構文	80
6.23. SERVer コマンドの構文	82
6.24. TAPEPlex コマンドの構文	85
6.25. TCPip コマンドの構文	87
6.26. TRace コマンドの構文	90
9.1. ACSRQ マクロ構文	153
9.2. ACSRQ DISMOUNT リクエストの構文	155
9.3. ACSRQ EJECT リクエストの構文	158
9.4. ACSRQ MOUNT リクエストの構文	162

9.5. ACSRQ MOVE リクエストの構文	166
9.6. ACSRQ QCAP リクエストの構文	169
9.7. ACSRQ QCONFIG リクエストの構文	172
9.8. ACSRQ QDRIVES リクエストの構文	174
9.9. ACSRQ QDRLIST リクエストの構文	177
9.10. ACSRQ QSCRATCH リクエストの構文	181
9.11. ACSRQ QVOLUME リクエストの構文	184
9.12. ACSRQ QVOLUSE リクエストの構文	187
9.13. ACSRQ SCRATCH リクエストの構文	189
9.14. ACSRQ SELSCR リクエストの構文	191
9.15. ACSRQ UNSCRATCH リクエストの構文	194

表の一覧

2.1. VM Client インストールメディアの内容	32
2.2. VSMC730A ミニディスクのレイアウト	34
3.1. VM Client サービスマシンファイル	43
9.1. SLS マクロ - パラメータマトリックス	197
9.2. SLX マクロの相互参照	205
9.3. ACSINT マクロの相互参照	218
9.4. IUB リクエストブロックリファレンス	222
9.5. IUB の相互参照	227
A.1. メディアタイプ	229
A.2. メディアタイプのデフォルト	232
A.3. 記録技法	233
A.4. 記録技法のデフォルト	236
A.5. モデルタイプ	237

例の一覧

9.1. 初期接続ダイアログ	146
9.2. PROP 検出マウント解除シナリオ A - 通常のマウント解除	151
9.3. PROP 検出マウント解除シナリオ B - マウント解除の自動処理	151
9.4. SLX レコード形式	198
9.5. ACSINT レコード形式	214

はじめに

このドキュメントでは、Oracle の StorageTek VM Client ソフトウェアをインストール、構成、および管理する方法について説明します。

対象読者

このドキュメントは、VM Client の保守を担当するストレージ管理者、システムプログラマ、およびオペレータを対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

関連ドキュメント

StorageTek ライブラリ、テープドライブ、および関連するソフトウェアやハードウェアに関するドキュメントにアクセスするには、次の URL にある Oracle Technical Network (OTN) にアクセスしてください。

<http://docs.oracle.com>

表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用しています。

表記上の規則

次のような表記上の規則があります。

表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェースの要素、またはテキストや用語集で定義される用語を示します。

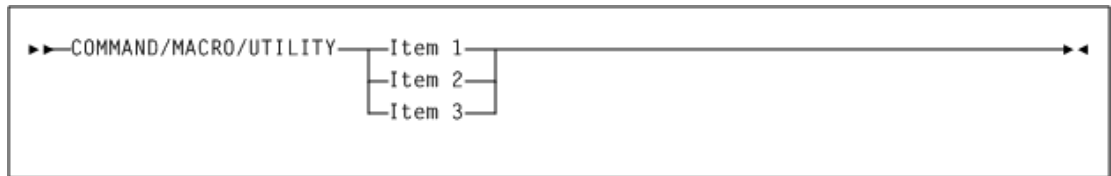
表記規則	意味
斜体	斜体は、マニュアルタイトル、強調、または特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、例のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

構文規則

構文フローダイアグラムでは、次の表記法を使用します。

フロー線

構文ダイアグラムは、水平の基本線と、水平/垂直の分岐線、コマンドを表すテキスト、制御文、マクロ、またはユーティリティーで構成されます。ダイアグラムは、左から右、上から下へ読み取ります。矢印はフローと方向を示しています。例:



必須選択

分岐線 (矢印を繰り返し使用しないもの) は、1つを選択する必要があることを示します。選択項目の1つが基線上にある場合は、選択項目をいずれか1つ必ず選択してください。例:



1つのオプション選択

最初の選択項目が基線より下にある場合は、項目の1つをオプションとして選択できます。例:



デフォルト

デフォルト値およびパラメータは、基本線より上に表示されます。例:



一部のキーワードパラメータには、スタックからの値を選択できます。スタックにデフォルト値が含まれている場合、選択対象のキーワードと値は基本線より下に表示され、これらのキーワードと値がオプションであることが示されます。デフォルト値は、キーワード線より上に表示されます。例:



繰り返し

繰り返し記号は、複数の選択が可能であること、または1つの選択を2回以上実行できることを示しています。次の例では、繰り返しの区切り文字としてカンマを使用する必要があります。例:



キーワード

コマンドキーワードは、すべて大文字で表記するか、大文字と小文字を組み合わせで表記します。コマンドの大文字/小文字が区別されていない場合は、大文字と小文字の組み合わせが使用され、この場合の略字表記には小文字が除外されます。

変数

イタリック体は、変数を表します。

i

代替値

パラメータの代替値は、垂直バー (|) で区切ります。

オプション

大括弧 [] は、コマンドパラメータがオプションであることを示します。

区切り文字

構文図で、項目とともにカンマ (,) やセミコロン (;) などの区切り文字が示されている場合は、文の一部としてこれらの区切り文字を入力する必要があります。

範囲

範囲を表す場合は、同じ長さでデータタイプを有する 2 つの要素 (両要素も範囲内に含まれる) をダッシュで結んで表します。最初の要素は、必ず 2 番目の要素より小さくなければなりません。

16 進数の範囲は、2 つの 16 進数で表します (例: 0A2-0AD または 000-0FC)。

10 進法の範囲は、10 進の数字の組み合わせで構成されます (たとえば、1-9、または 010-094)。先行 0 は不要です。10 進数の部分は増分領域です。増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。

数字の VOLSER 範囲 (vol-range) は、1 桁から 6 桁の 10 進数部分を含む一対の VOLSER 要素で構成されます (たとえば、ABC012-ABC025 または X123CB-X277CB)。10 進数の部分は増分領域です。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2 番目の要素で 112AAB と指定することはできません。
- VOLSER 範囲で 10 進数が 2 か所以上使用されている場合は、あらゆる箇所が増分領域として有効です。例:
 - A00B00 - 指定可能な最大範囲は A00B00 - A99B99。
 - A0B0CC - 指定可能な最大範囲は A0B0CC - A9B9CC。
 - 000XXX - 指定可能な最大範囲は 000XXX - 999XXX。

アルファベットによる VOLSER 範囲 (vol-range) は、増分する 1 - 6 文字のアルファベットを伴う 2 つの VOLSER 要素で構成されます (例: 000AAA-000ZZZ または 9AAA55-9ZZZ55)。この部分は増分領域です。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は2つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2番目の要素で 112AAB と指定することはできません。
- VOLSER 範囲のアルファベット部分は、A - Z と定義されています。複数文字のシーケンスを増分する場合、個々の文字が Z まで増分します。たとえば、ACZ は AAA-AMM 範囲内にあります。次の例を参照してください。

- A00A0-A99A0

VOLSER は A00A0 - A09A0 まで増分し、そのあと、A10A0 - A99A0 まで増分します。

- 9AA9A-9ZZ9A

VOLSER は 9AA9A - 9AZ9A まで増分し、そのあと 9BA9A - 9ZZ9A まで増分します。

- 111AAA-111ZZZ

VOLSER は 111AAA - 111AAZ まで増分し、そのあと 111ABA - 111ZZZ まで増分します

- 999AM8-999CM8

VOLSER は 999AM8 - 999AZ8 まで増分し、そのあと 999BA8 - 999CM8 まで増分します

- A3BZZ9-A3CDE9

VOLSER は A3BZZ9 - A3CAA9 まで増分し、そのあと A3CAB9 - A3CDE9 まで増分します

- AAAAAA-AAACCC

VOLSER は AAAAAA - AAAAAZ まで増分し、そのあと AAAABA - AAACCC まで増分します

- CCCNND-DDDNNN

VOLSER は CCCNND - CCCNNZ まで増分し、そのあと CCCNOA - DDDNNN まで増分します。これは非常に広い範囲になります。

アルファベットによる VOLSER 範囲のボリューム数は、VOLSER 範囲で使用する増分部分の要素数によって決定されます。各文字位置での A - Z 範囲のボリューム数は、増分対象のポジション数の 26 乗になります。

- A-Z は 26^1 (26) 個のボリュームと同じです。

- AA-ZZ は 26^2 (676) 個のボリュームと同じです。
- AAA-ZZZ は 26^3 (17,576) 個のボリュームと同じです。
- AAAA-ZZZZ は 26^4 (456,976) 個のボリュームと同じです。
- AAAAA-ZZZZZ は 26^5 (11,881,376) 個のボリュームと同じです。
- AAAAAA-ZZZZZZ は 26^6 (308,915,776) 個のボリュームと同じです。

リスト

リストは、1 つまたは複数の要素で構成されます。複数の要素を指定する場合は、各要素をカンマまたは空白スペースで区切り、リスト全体を括弧で囲みます。

空白スペース

キーワードパラメータおよび値の区切りには、任意の数の空白スペースを使用できます。

制御文の構文規則

通常、制御文には、次の構文表記法が使用されます。

- 有効な制御文情報域は、列 1 から列 72 までです。列 73 - 80 は無視されます。
- パラメータの区切りには、1 つまたは複数の空白スペースまたはコンマを使用できます。
- パラメータと値の関連は、イコール (=) 記号で示すか、値を括弧で囲み、パラメータの直後に連結させて示します。
- 実際の制御文では、大文字/小文字は区別されません。
- 次行に続く文の場合は、プラス (+) 記号を前行の末尾に加えます。文が続かない場合、制御文は終了します。
- ジョブストリームのコメントを囲むには、/* および */ を使用します。HSC PARMLIB メンバーと定義データセットは次の形式でコメントを指定する必要があります。
 - 任意の PARMLIB メンバーの最初の制御文としてのコメントは必要ありません。
 - コメントは複数行に渡って追加できますが、入れ子にはできません。
- 制御文の最大長は 1024 文字です。

新機能

このリビジョンには、次の更新が含まれています。

- 現在、VM Client は、XAPI サービスが有効な ACSLS サーバー (リリース 8.4 以降) への XAPI Client インタフェースをサポートしています。

詳細は、「[ACSLS サーバーへの XAPI Client インタフェース](#)」を参照してください。また、ELS ドキュメント [ACSLS サーバーへの XAPI Client インタフェース](#) のリファレンスも参照してください。

- ACSLS サーバーへの XAPI Client インタフェースのサポートについて記した *Route* コマンドの説明が更新されています。

詳細は、「[Route](#)」を参照してください。

第1章 概要

この章では、VM Client ソフトウェアの機能とデータフローについて説明します。

機能

VM Client を使用すると、VM システム上で実行しているクライアントから、MVS 上で実行している StorageTek TapePlex サーバーに実際のテープサービスおよび仮想テープサービスをリクエストできます。

TapePlex サーバーを管理できるようにする MVS ソフトウェアについては、ドキュメント『*ELS の概要*』を参照してください。

VM Client ソフトウェアには次の機能があります。

- VM テープ管理インタフェース (VMTMI) の要求を受け入れる IUCV インタフェース

Oracle の StorageTek VM Client は、VM テープ管理システム (TMS) から StorageTek Automatic Cartridge System (ACS) を使用できるようにするインタフェースを提供するコンポーネントとして、VM/HSC の代替となるものです。さらに、VM Client は VM テープ管理システムから StorageTek Virtual Storage Manager (VSM) を使用できるようにするインタフェースを提供します。

VM Client は、VM TMS からの VMTMI 要求のターゲットとして機能します。すべての応答は、TMS に VMTMI 形式で返されます。VM Client は VM Inter-user Communications Vehicle (IUCV) を使用して TMS サービスのマシンと通信します。

すべての VMTMI 要求が VM Client でサポートされているわけではありません。サポートされている VMTMI 要求の完全なリストについては、[9章「VM Client テープ管理インタフェース」](#)を参照してください。

- MVS ベースの TapePlex への TCP/IP インタフェース (HSC)

StorageTek Enterprise Library Software (ELS) は、StorageTek ACS および VTCS システムを制御する XML インタフェース (XAPI) を提供します。XAPI 通信は TCP/IP を介して

行われます。VM Client は VMTMI 要求を新しい XAPI 形式に変換します。XAPI 応答は VMTMI 応答に変換されます。

注:

VM Client は ELS 7.1 以降 (SMC/HSC/VTCS) とのみ通信できます。

- VM Client を制御するオペレータコマンド

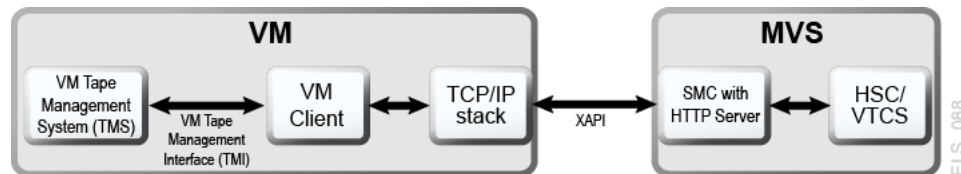
VM Client のコマンドについては、6章「[VM Client コマンド](#)」を参照してください。

データフロー

図1.1「[VM Client のデータフロー](#)」は、次の VM Client のデータフローを示しています。

1. VM テープ管理システム (TMS) の要求が、VM テープ管理インタフェース (VMTMI) を介して VM Client に送信されます。
2. VM Client が VMTMI 要求を XAPI 形式に変換し、その要求を TCP/IP 通信を使用して MVS サーバーにルーティングします。
3. MVS サーバー上の SMC/HSC/VTCS ソフトウェアが要求を処理し、すべての応答を XAPI 形式で VM Client に返します。
4. VM Client が XAPI 応答を VMTMI 形式に変換し、これらの応答を TMS にルーティングします。

図1.1 VM Client のデータフロー



ACSLS サーバーへの XAPI Client インタフェース

XML API (XAPI) は、StorageTek のクライアントとサーバーが、共通のプロトコルを使用して TCP/IP 経由で通信できるようにする Oracle の StorageTek API です。

この XAPI の導入によって、これまで、実際のテープ処理には MVS ベースのサーバー (Oracle の StorageTek Host Software Component) を使用する必要のあったクライアントが、次のように ACSLS 8.4 以降 (XAPI サポートに対応) を使用できるようになりました。

- MVS 上の SMC クライアントから、XAPI サポートに対応している ACSLS サーバーに実際のテープ要求を要求できるようになりました (MVS/CSC は必要ありません)。

- VM Client から、XAPI サポートに対応している ACSLS サーバーに実際のテープサービスを要求できるようになりました。

VM Client を使用して XAPI サポートに対応している ACSLS サーバーに接続する場合は、VM Client の TAPEPlex および SERVer コマンドを使用して ACSLS アプリケーションを TapePlex として定義し、クライアントとサーバー間の TCP/IP 制御パスを定義する必要があります。

- TapePlex コマンドの詳細は、[「TAPEPlex」](#)を参照してください。
- SERVer コマンドの詳細は、[「SERVer」](#)を参照してください。

VM Client と XAPI 対応 ACSLS サーバーの間のクライアント/サーバーの対話の大部分は、エンドユーザーに対して透過的です。ボリューム情報、マウント、マウント解除の要求は VM Client によって自動的に生成され、オペレータの介入なしで処理されます。これらの自動的な対話に加え、XAPI 対応 ACSLS サーバーは、XAPI コンポーネントの管理を可能にする管理者、構成、オペレーターコマンドを追加で提供します。これらのコマンドについては、ELS ドキュメント *ACSLS サーバーへの XAPI Client インタフェース* のリファレンスを参照してください。

第2章 インストールの準備

この章では、VM Client インストールパッケージおよびそのインストール準備要件について説明します。ここでは、次のトピックについて説明します。

IBM VMSES/E

VM Client は、IBM VM/ESA に付属している IBM の VMSES/E (Virtual Machine Serviceability Enhancements Staged/Enhanced) を使用してインストールします。

VMSES/E の操作については、IBM のドキュメント *VMSES/E の概要とリファレンス* を参照してください。

VM Client インストールパッケージ

VM Client インストールパッケージには、VM Client ソフトウェアを含む VM Client インストール用の ZIP ファイルまたは CD-ROM (*SERVLINK* エンベロープ) が含まれています。

インストールの一環として、最新の VM Client の累積保守 (PTF および HOLDDATA) を入手してインストールする必要があります。

注:

PTF および HOLDDATA は ELS リリース時に存在しない可能性があります。しばらくすると、毎月 MOS にリリースされます。

My Oracle Support (MOS) サイトから累積保守をダウンロードします。

<http://www.myoraclesupport.com>

HOLDDATA および PTF 更新についてこのサイトに頻繁にアクセスし、定期的に累積保守更新をインストールします。PTF は、毎月 MOS にリリースされます。

ELS 累積保守のインストールについては、4章「*VM Client 保守のインストール*」を参照してください。

VM Client インストールの内容

表2.1「VM Client インストールメディアの内容」には、VM Client インストール用の ZIP ファイルまたは CD-ROM に含まれているファイルまたは *SERVLINK* グループを一覧表示します。

表2.1 VM Client インストールメディアの内容

CD-ROM SERVLINK グループ	説明
1	ヘッダー
2	ヘッダー
3	<i>VSMC730A</i> (製品 ID ファイル)
4	<i>VSMC730A MEMO</i> (ユーザー向けメモ)
5	サービス適用リスト (<i>AXLIST</i>)
6	<i>PARTLIST</i>
7	サービス (<i>DELTA</i>)
8	サービス (<i>APPLY</i>)
9	ベースコード (<i>BASE</i>)
10	ヘルプファイル (<i>HELP</i>)

ソフトウェアおよびハードウェアの要件

VM Client のソフトウェアおよびハードウェアの要件は次のとおりです。

ソフトウェア要件

オペレーティングシステム: IBM でサポートされる任意のバージョンの IBM z/VM

独立系ソフトウェアベンダーの製品 (オプション):

- ACF/VTAM
- CA-DYNAM/TLMS for z/VM
- DFSORT
- EPIC VSE
- Multi-Image Manager (MIM)
- SYNCSORT

- VM:Tape (下記の「[アプリケーションプログラムインタフェースの検証](#)」を参照)
- IBM Tape Manager for z/VM

ハードウェア要件

VM Client には、IBM z/VM を実行できる IBM または IBM と互換性のあるプロセッサ (IBM でサポートされる任意のバージョン) が必要です。

MVS の要件

VM Client は、MVS 上で実行されている StorageTek TapePlex サーバーと通信します。このサーバーは、SMC、HSC、およびオプションの VTCS を含む Oracle の StorageTek ELS ソフトウェアによって管理されます。

VM Client では、すべての ELS ソフトウェアがリリース 7.1 以降である必要があります。

ELS のハードウェアとソフトウェアの要件については、ドキュメント『[ELS のインストール](#)』を参照してください。

アプリケーションプログラムインタフェースの検証

テープ管理システムとして VM:Tape を使用する場合は、VM:Tape リリース 1.8 以降がインストールされていることを確認してください。

また、VM Client `AUTHorize` コマンドを使用して、VM:Tape を VM Client の承認済みオペレータリストに追加する必要があります。「[AUTHorize](#)」を参照してください。

現在ほかのテープ管理システムがインストールされている場合は、VM Client と通信するために特別なルーチンを作成する必要がある場合があります。推奨される割り当てやメッセージの処理、コマンドや応答、データ領域、割り込み処理など、TapePlex との通信に必要なテープ管理システムへのインタフェースの詳細は、[9章「VM Client テープ管理インタフェース」](#)を参照してください。

DASD ストレージおよびユーザー ID の要件

VM Client では、VM Client インストールユーザー ID と VM Client サービスマシンユーザー ID の両方を VM ディレクトリに追加する必要があります。これらのユーザー ID の要件は、VM Client のインストールプロセス中にさらに定義されます。

デフォルトの VM Client インストールユーザー ID は VSMC730A です。VM Client のインストールと保守には、このデフォルトユーザー ID を使用することをお勧めします。

VM Client のインストールユーザー ID 名を変更することにした場合は、Product Parameter Override (PPF) を作成する必要があります。詳細は、「[PPF オーバーライドファイルの作成](#)」を参照してください。

表2.2「[VSMC730A ミニディスクのレイアウト](#)」では、VSMC730A ミニディスクのレイアウトについて説明します。

表2.2 VSMC730A ミニディスクのレイアウト

所有者 (ユーザー ID)	デフォルトのアドレス	サイズ (3390 Cyl)	ディスクの名前と説明
VSMC30A	2B2	20	BASE すべての VM Client ベースコードが含まれています
VSMC30A	2C2	5	LOCALSAM カスタマイズファイルが含まれています。
VSMC30A	2D2	20	DELTA サービスファイルが含まれています。
VSMC30A	2A6	10	APPLY TEST VM Client のテストサービスレベルを表す AUX ファイルとソフトウェアインベントリテーブルが含まれています。
VSMC30A	2A2	10	APPLY PRODUCTION VM Client の本番サービスレベルを表す AUX ファイルとソフトウェアインベントリテーブルが含まれています。
VSMC30A	29D	10	BUILD4 HELP ファイルが含まれています。
VSMC30A	201	20	BUILD1 VM Client のテストビルドディスク。ロードライブラリとモジュールが含まれています。
VSMC30A	202	20	BUILD2

所有者 (ユーザー ID)	デフォルトのアドレス	サイズ (3390 Cyl)	ディスクの名前と説明
			VM Client の本番ビルドディスク。ロードライブラリとモジュールが含まれています。
VSMC30A	191	10	INST191 インストールユーザー ID 191 ミニディスク
VSMC30A	191	10	VSMC191 VM Client サービスマシン 191 ミニディスク
VSMC30A	200	20	VMSMCRUN VM Client サービスマシン実行ディスク

第3章 VM Client のインストール

この章では、VM Client ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

ELS のインストールに先立ち、ELS 要件が満たされていることを確認し、[2章「インストールの準備」](#)に記載されているインストール前の考慮事項を確認してください。

VM Client がインストールされたあと、VM Client 累積保守を入手してインストールする必要があります。詳細は、[4章「VM Client 保守のインストール」](#)を参照してください。

IBM VMSES/E

VM Client は、IBM VM/ESA のコンポーネントである IBM の VMSES/E (Virtual Machine Serviceability Enhancements Staged/Enhanced) を使用してインストールされます。

VMSES/E には、製品のインストールが整合性を持つように設計された VMFINS インストール支援が含まれています。

VMSES/E 操作の詳細は、IBM ドキュメント『[VMSES/E 入門とリファレンス](#)』を参照してください。

インストール手順のサマリー

インストール手順のサマリーを次に示します。各ステップは、後続のセクションで詳細に説明します。

1. VM Client のリソース要件を決定します。

VMFINS コマンドを使用して、VM Client リソース要件を取得するため、製品 *SRVLINK* ファイルからいくつかの VMSES/E ファイルをロードします。

2. VM Client リソースを割り当てます。

前のステップで取得した情報を使用して、VM Client のインストールおよび使用に必要な適切なミニディスクおよびユーザー ID を割り当てます。

3. VM Client 製品ファイルをインストールします。

VMFINS コマンドを使用して、VM Client 製品ファイルを製品 *SRVLINK* ファイルから *BASE* ミニディスクにロードします。

4. VM Client 実行コードをビルドします。

VMFINS コマンドを使用して、VM Client テスト *BUILD* ミニディスクをビルドします。

5. VM Client サービスマシンを作成します。

VM Client サービスマシンのディレクトリエントリを作成します。

6. VM Client サービスマシンファイルをカスタマイズします。

VM Client サービスマシンサンプルを編集します。

7. VM Client をテストします。

テストビルドディスク上の VM Client をテストします。

8. VM Client を本番環境に配置します。

VM Client のテスト後、VM Client ファイルをテストビルドディスクから本番ビルドディスクにコピーします。

ステップ 1: VM Client リソース要件の決定

VMFINS コマンドを使用して、VM Client のリソース要件を決定します。

1. インストール担当者/計画担当者としてログオンします。

MAINT 5E5 への読み取りアクセス、および VM Client ソフトウェアインベントリを含める *51D* ディスクへの書き込みアクセスでは、任意のユーザー ID を使用します。

2. 次のコマンドを入力して、VMSES/E コードへの読み取りアクセスを確立します。

```
LINK MAINT 5E5 5E5 RR  
ACCESS 5E5 B
```

3. 次のコマンドを入力して、ソフトウェアインベントリディスク (この例では *MAINT 51D*) への書き込みアクセスを確立します。

```
LINK MAINT 51D 51D M  
ACCESS 51D D
```

次の点に注意してください。

- ソフトウェアインベントリディスクは、システムのソフトウェアインベントリディスクとすることができます。*51D* ディスクを保守/インストールユーザー ID (*VSMC730A*) に割り当てることをお勧めします。
- 別のユーザーが現在、書き込みモード (*R/W*) のソフトウェアインベントリディスクにリンクされている場合、*LINK* コマンドは失敗します。これが発生した場合、ほかのユーザーを読み取り専用モード (*RR*) でソフトウェアインベントリディスクに再度リンクさせて、上記の *LINK* および *ACCESS* コマンドを再発行します。ソフトウェアインベントリ (*51D*) ディスクへの読み取り/書き込みリンクを確立するまでは、次に進まないでください。

4. VM Client 製品制御ファイルを *51D* ミニディスクにロードします。

次を入力します。

```
VMFINS INSTALL INFO ( NOMEMO ENV VSMC730A
```

INSTALL INFO コマンドは、さまざまな製品制御ファイルをロードし、*VMFINS PRODLIST* ファイルを作成します。

5. VMCLIENT 用のリソース計画情報を取得します。

次を入力します。

```
VMFINS INSTALL PPF VSMC730A VMCLIENT ( NOMEMO PLAN ENV  
VSMC730A
```

ファイル *VMFINS PLANINFO* は、A-disk 上に作成されます。このファイルには、VM Client のインストールに必要なユーザー ID およびミニディスクに関する情報が含まれています。

6. インストールメッセージログファイル、*\$VMFINS \$MSGLOG*を確認します。すべてのインストールメッセージがインストールユーザーの A-disk に書き込まれます。続行する前にエラーを修正します。

PPF オーバーライドファイルの作成

保守またはサービスマシンのユーザー ID を変更する必要がある場合、次の手順を使用して PPF オーバーライドファイルを作成します。

1. 次のプロンプトで 1 を入力します。

```
VMFINS2601R Do you want to create an override for :PPF VSMC730A
VMCLIENT :PRODID VSMC730A%VMCLIENT?
```

Enter 0 (No), 1 (Yes) or 2 (Exit)

2. 次のプロンプトで 0 を入力します。

```
VMFMK02917R Do you want to use the defaults for this product?
```

Enter 0 (No), 1 (Yes) or 2 (Exit)

3. 「*Make Override Panel*」で VM Client *INSTALL* ユーザーのみ、VM Client *SERVER* のみ、または VM Client *INSTALL* ユーザーと VM Client *SERVER* の両方を更新します。F3 を押してこのパネルを終了します。
4. 「2 - *Save as...*」を選択し、オーバーライドファイルのファイル名を入力します。

オーバーライド \$PPF ファイルおよび PPF ファイルが D-disk (51D) にコピーされます。

これで、VSMC730A PPF ファイルがオーバーライド PPF に置き換えられます。残りのすべてのインストール手順では、VSMC730A のすべてのインスタンスをこのオーバーライド PPF に置き換えます。

ステップ 2: VM Client リソースの割り当て

VSMC730A *PLANINFO* ファイルの計画情報を使用して、VSMC730A のユーザーディレクトリエントリを作成します。

1. VSMC730A のユーザーディレクトリエントリを作成します。

VSMC720A ユーザーディレクトリは、*PLANINFO* ファイルの下部にあります。これらのエントリには、VSMC730A ユーザー ID に必要なリンクおよび特権クラスが含まれます。*PLANINFO* にあるディレクトリエントリを VSMC730A ディレクトリエントリのモデルとして使用します。

2. VSMC720A のディレクトリエントリに *MDISK* 文を追加します。ミニディスクのレイアウトは *PLANINFO* ファイルにあります。
3. システムディレクトリに VSMC730A のディレクトリエントリを追加します。セキュリティーガイドラインに従って、VSMC730A のパスワードを XXXXXX から有効なパスワードに変更します。

4. 新しいディレクトリをオンラインにします。

ステップ 3: VM Client 製品ファイルのインストール

VMFINS コマンドを使用して、VM Client テスト *BUILD* ミニディスクをビルドします。

1. ステップ 2 で作成したインストールユーザー ID *VSMC730A* にログオンします。
2. *MAINT 5E5* および *51D* ミニディスク用の *ACCESS* コマンドを含む *PROFILE EXEC* を作成します。

```
XEDIT PROFILE EXEC A
====> input /**/
====> input 'access 5e5 b'
====> input 'access 51d d'
====> file
```

3. *MAINT* のミニディスクにアクセスするため、プロファイルを実行します。

```
PROFILE
```

4. ソフトウェアインベントリディスクが *R/W* でリンクされていない場合は、書き込みアクセスを確立します。

```
LINK MAINT 51D 51D M
ACCESS 51D D
```

別のユーザーが現在、書き込みモード (*R/W*) でソフトウェアインベントリディスクにリンクされている場合、*LINK* コマンドは失敗します。これが発生した場合、このユーザーを読み取り専用モード (*RR*) でソフトウェアインベントリディスクに再リンクさせ、上記の *LINK* および *ACCESS* コマンドを再発行します。ソフトウェアインベントリ (*51D*) ディスクへの読み取り/書き込みリンクを確立するまでは、次に進まないでください。

5. インストール担当者/計画担当者 191 ディスク上に作成された *VMSES/E* ファイルを *VSMC730A* 191 ディスクにコピーします。これにより、すべての VM Client *VMSES/E* ファイルが 1 つの場所に配置されます。コピーするファイルは次のとおりです。
 - *VSMC730A PLANINFO*
 - *VSMC730A PRODLIST*
6. VM Client をインストールします。

次を入力します。

```
VMFINS INSTALL PPF VSMC730A VMCLIENT (NOMEMO NOLINK ENV
VSMC730A OVERRIDE NO
```

NOLINK オプションは、*VMFINS* が保守ミニディスクをリンクするものではなく、それらが未アクセスの場合のみアクセスすることを示します。

OVERRIDE NO オプションは、*VMFINS* が PPF をオーバーライドしないことを示します。上記のオーバーライド PPF が作成された場合、*VSMC730A* を作成された PPF の名前に置き換えます。

7. インストールメッセージログファイル、*\$VMFINS \$MSGLOG* を確認します。すべてのインストールメッセージがインストールユーザーの A-disk に書き込まれます。必要に応じて、続行する前にエラーを修正します。

ステップ 4: VM Client 実行可能コードのビルド

VMFINS コマンドを使用して、VM Client テスト *BUILD* ミニディスクをビルドします。

1. 次のコマンドを入力してテスト *BUILD* ミニディスクをビルドします。

```
VMFINS BUILD PPF VSMC730A VMCLIENT (ALL NOLINK
```

2. インストールメッセージログ (*\$VMFINS \$MSGLOG*) を確認します。すべてのインストールメッセージログがインストールユーザーの A-disk に書き込まれます。続行する前にエラーを修正します。

VMFINS BUILD ログ内の次のメッセージは正常です。

- *VMFBDC2178I*

Object =.HELPMMSG は提供されていないため再ビルドできません。

- *VMFBDC2178I*

Object =.HELPSMC は提供されていないため再ビルドできません。

- *VMFINB2173I*

この製品の検証 *exec* が見つかりません

ステップ 5: VM Client サービスマシンの作成

VM Client サービスマシンのディレクトリエントリを作成します。VM Client サービスマシンは、`CP MSGNOH` コマンド (特権クラス B) を発行できる必要があります。

マシンおよびミニディスクの要件については、`PLANINFOVSMC730A` ファイルを参照してください。

ステップ 6: VM Client サービスマシンファイルのカスタマイズ

次のファイルを `LOCALSAM` ミニディスクから VM Client サービスマシン 191 ミニディスク (`VMSMC191`) にコピーします。

表3.1 VM Client サービスマシンファイル

サンプル名	操作名	用途
SMCPARMS SAMPLE	SMCPARMS (FILE)	起動パラメータ
SMCCMDS SAMPLE	SMCCMDS (FILE)	起動コマンド
SMCSTART EXEC	SMCSTART EXEC	VM Client 起動 EXEC
SMCPRO SAMPLE	PROFILE EXEC	VM Client PROFILE EXEC

`SMCPARMS` および `SMCCMDS` には、起動のパラメータおよびコマンドが含まれます。これらのファイルのファイル名は `SMCSTART EXEC` の `FIILDEF` 名と一致する必要があります。

VM Client のパラメータおよびコマンドファイルの更新については、「[VM Client コマンドファイル](#)」を参照してください。

ステップ 7: VM Client のテスト

VM Client はテストの準備が整いました。テストする実行可能コードは、`VSMC730A 201` ミニディスクにあります。VM Client を実行するためのオプションは次のとおりです。

- `VSMC730A 201` に LINK し、`SMCSTART` を発行します。
- `VSMC730A 201` を `VMSMC 200` ミニディスクにコピーし、`SMCSTART` を発行します。サンプル `PROFILE EXEC (SMCPRO SAMPLE)` はこのオプションを前提としています。

ステップ 8: VM Client の本番環境への配置

VM Client テスト後に次のコマンドを入力して、VM Client ファイルをテストディスク (201) から本番ディスク (202) にコピーします。

VMFSETUP VSMC730A VMCLIENT

VMFCOPY ** *fm1==fm2* (PRODID VSMC720A%VMCLIENT SPRODID
VSMC730A%VMCLIENT OLDDATE REPLACE

fm1 は *TEST* ビルドディスク (*BUILD1 - 201*) のファイルモードです

fm2 は *PRODUCTION* ビルドディスク (*BUILD2 - 202*) のファイルモードです

PRODUCTION バージョンを使用するには、VM Client サービスマシンを変更する必要があります。オプションは次のとおりです。

- *VSMC730A 202* に LINK し、*SMCSTART* を発行します。
- *VSMC730A 202* を *VMSMC 200* ミニディスクにコピーし、*SMCSTART* を発行します。サンプル *PROFILE EXEC (SMCPRO SAMPLE)* はこのオプションを前提としています。

第4章 VM Client 保守のインストール

この章では、VM Client 保守のインストール手順について説明します。

最新の VM Client 累積保守 (PTF および HOLDDATA) を入手してインストールする必要があります。次の My Oracle Support (MOS) サイトから累積保守をダウンロードします。

<http://www.myoraclesupport.com>

HOLDDATA および PTF 更新についてこのサイトに頻繁にアクセスし、定期的に累積保守更新をインストールします。PTF は、毎月 MOS にリリースされます。

保守のインストールを行う前に、利用可能な最新の保守情報について、Oracle Global Customer Services に問い合わせてください。Oracle サポートの連絡先については、[はじめ](#)にを参照してください。

注:

PTF および HOLDDATA は VM Client リリース時に存在しない可能性があります。しばらくすると、毎月 MOS にリリースされます。

IBM VMSES/E

VM Client 累積保守は、IBM VM/ESA のコンポーネントである IBM の VMSES/E (Virtual Machine Serviceability Enhancements Staged/Enhanced) を使用してインストールされます。

VMSES/E には、製品のインストールが整合性を持つように設計された VMFINS インストール支援が含まれています。

VMSES/E 操作の詳細は、IBM ドキュメント『[VMSES/E 入門とリファレンス](#)』を参照してください。

インストール手順のサマリー

保守のインストール手順のサマリーを次に示します。各ステップは、後続のセクションで詳細に説明します。

1. 保守を受信できるように準備をします。

VMFMRDSK コマンドを使用して、新しい保守を受信する前に代替適用ディスクをクリアし、深刻な問題が発生した場合に保守を簡単に削除できるようにします。

2. 保守を受信します。

VMFREC コマンドによって保守を受信し、Delta ディスク上に配置します。

3. 保守を適用します。

VMFAPPLY コマンドにより、すべてのサービス対象パーツのサービスレベルを特定する、VMSES/E バージョンベクトルテーブル (*VVT*) が更新されます。さらに、*VVT* から、*AUX* ファイルがそれを必要とするパーツ用に生成されます。

4. 新しいレベルをビルドします。

ビルドタスクによって、オブジェクトのサービスレベルが生成され、新しいオブジェクトがテスト *BUILD* (201) ディスクに配置されます。

5. 新しい保守を本稼働環境に配置します。

保守はテストしたあと、新しいサービスを本番ディスク (202) にコピーすることによって本番環境に配置されます。

ステップ 1: 保守を受信する準備

次を実行します。

1. VM Client サービス ID *VSMC730A* にログオンします。
2. ソフトウェアインベントリディスクが *R/W* でリンクされていない場合は、書き込みアクセスを確立します。

```
LINK MAINT 51D 51D M
```

```
ACCESS 51D D
```

注:

別のユーザーが現在、書き込みモード (*R/W*) でソフトウェアインベントリディスクにリンクされている場合、*LINK* コマンドは失敗します。これが発生した場合、このユーザーを読み取り専用モード (*RR*) でソフトウェアインベントリディスクに再リンクさせ、上記の *LINK* および *ACCESS* コマンドを再発行します。ソフトウェアインベントリ (*51D*) ディスクへの読み取り/書き込みリンクを確立するまでは、次に進まないでください。

3. 正しいミニディスクアクセス順序を確立します。

```
VMFSETUP VSMC730A VMCLIENT
```

VSMC730A は、製品に付属している PPF です。独自の PPF オーバーライドがある場合、*VSMC730A* は使用している PPF 名に置き換える必要があります。

4. ドキュメントを受信します。*VMFREC* を *INFO* オプションとともに使用すると、ドキュメントがロードされ、パッケージ内のすべての製品の一覧が表示されます。

次を入力します。

```
VMFREC INFO ( ENV filename
```

5. 受信メッセージログファイル *\$VMFREC \$MSGLOG* で警告およびエラーメッセージを確認します。

```
VMFVIEW RECEIVE
```

6. 代替 *APPLY* ディスクをクリアして、次の保守用にクリーンなディスクを確保します。

```
VMFMRDSK VSMC730A VMCLIENT APPLY
```

VSMC730A は、製品に付属している PPF です。独自の PPF オーバーライドがある場合、*VSMC730A* は使用している PPF 名に置き換える必要があります。

7. マージメッセージログファイル、*\$VMFMRD \$MSGLOG* を確認します。必要に応じて、続行する前にエラーを修正します。

```
VMFVIEW MRD
```

ステップ 2: 保守の受信

次を実行します。

1. 保守を受信します。

次を入力します。

```
VMFREC PPF VSMC730A VMCLIENT ( ENV filename
```

- 受信メッセージログファイル、`$VMFREC $MSGLOG`を確認します。必要に応じて、続行する前にエラーを修正します。

```
VMFVIEW RECEIVE
```

ステップ 3: 保守の適用

次を実行します。

- 新しい保守を適用します。

```
VMFAPPLY PPF VSMC730A VMCLIENT
```

このコマンドは、ここで受信した保守を適用します。バージョンベクトルテーブルがすべてのサービス対象パーツで更新され、必要なすべての AUX ファイルが生成されます。

- 適用メッセージログファイル、`$VMFAPP $MSGLOG`を確認します。必要に応じて、続行する前にエラーを修正します。

ステップ 4: 新しいレベルのビルド

次を実行します。

- サービス対象パーツでビルドステータステーブルをビルドします。

```
VMFBLD PPF VSMC730A VMCLIENT (STATUS
```

- ビルドメッセージログファイル、`$VMFAPP $MSGLOG`を確認します。必要に応じて、続行する前にエラーを修正します。

```
VMFVIEW BUILD
```

- VM Client のサービス対象パーツを再ビルドします。

```
VMFBLD PPF VSMC730A VMCLIENT (SERVICED
```

- ビルドメッセージログファイル、`$VMFAPP $MSGLOG`を確認します。必要に応じて、続行する前にエラーを修正します。

```
VMFVIEW BUILD
```


ステップ 5: 新しい保守の本番環境への配置

VM Client のテスト後、VM Client ファイルをテストディスク (201) から本番ディスク (202) にコピーします。

```
VMFSETUP VSMC730A VMCLIENT  
VMFCOPY ** fm1==fm2(PRODID VSMC730A%VMCLIENT OLDDATE REPLACE
```

fm1 は *TEST* ビルドディスク (*BUILD1* - *201*) のファイルモードです。

fm2 は *PRODUCTION* ビルドディスク (*BUILD2* - *202*) のファイルモードです。

第5章 VM Client の起動

この章では、VM Client ソフトウェアを起動する方法について説明します。

VM Client は、VM Client サービスマシンと呼ばれる独自の CMS 仮想マシン内で実行されます。3章「[VM Client のインストール](#)」では、VM Client サービスマシンの設定、および VM Client サービスマシンソフトウェアのインストールについて説明します。

VM Client サービスマシンをインストールしたら、分散 *SMCSTART* コマンドを発行して VM Client を起動できます。*SMCSTART* コマンドは、VM Client 仮想マシン環境を初期化したあと、*SMCBINT* モジュールを実行する EXEC です。

SMCBINT モジュールは、VM Client コマンドファイルを読み取り、VM Client 環境を初期化してほかの仮想マシンから TMI コマンドを受け取ります。VM Client コマンドファイルの詳細は、「[VM Client コマンドファイル](#)」を参照してください。

SMCBINT モジュールパラメータ

VM Client コマンドファイルに加えて、*SMCBINT* モジュールがオプションのコマンド行パラメータを受け入れます。*SMCBINT* のオプションのコマンド行パラメータを使用すると、VM Client コマンドファイルを読み取る前に VM Client *OPERATOR* と VM Client *TRACE* を設定したり、起動時に VM Client *MAXRC* 処理を有効にしたりできます。

SMCBINT オプションのコマンド行パラメータは、キーワード値ペアとしてモジュール名のあとに入力します。たとえば、次の例では *SMCBINT* パラメータを指定します。

```
SMCBINT TRACE ON OPERATOR VMOPER MAXRC 4
```

コマンド行パラメータの処理中に何らかのエラーが検出された場合、VM Client の初期化プロセスは終了します。

以降のセクションでは、許可される各キーワード値ペアについて詳しく説明します。

TRACE キーワード値ペア

TRACE{ON|OFF}

VM Client のコマンドファイルを処理する前に、VM Client のトレース処理をアクティブにするかどうかを指定します。*ON* は、VM Client *TRACE* をできるだけ早く有効にすることを指定します。

OPERATOR キーワード値ペア

OPERATOR *userid*

VM Client のコマンドファイルを処理する前に、VM Client オペレータを設定するかどうかを指定します。*userid* は、VM Client のメッセージを受け取る仮想マシンの名前を指定します

MAXRC キーワード値ペア

MAXRC *nn*

VM Client *MAXRC* の処理をアクティブにするかどうかを指定します。

MAXRC 処理は、指定されたコマンドのリターンコードを超えた場合に、起動時に VM Client システムを終了するかどうかを決定します。*MAXRC* が指定されていない場合、VM Client は、起動コマンドが失敗したかどうかには関係なく常に初期化を完了しようとします。これはデフォルトの動作です。値 *nn* はリターンコードの最大許容値を指定します。*SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセットから実行された VM Client コマンドがこの値を超えると、*SMC0236* および *SMC0237* メッセージが生成され、VM Client が終了します。有効な値は、0、4、8、および 12 です。

VM Client コマンドファイル

VM Client コマンドは、*SMCPARMS* および *SMCCMDS* コマンドファイルで指定できます。VM Client 初期化中に、これらのコマンドファイルが読み取られ、これらのファイルに含まれるコマンドが実行されます。規則により、コマンドファイルは次のように命名されます。

- *SMCPARMS FILE A1*
- *SMCCMDS FILE A1*

別のファイル名を使用する場合は、*SMCSTART EXEC* 内の *SMCPARMS* および *SMCCMDS* の *FILEDEF* を変更できます。

VM Client コマンドファイル内の制御文は、「[制御文の構文規則](#)」で説明している制御文の標準規則に準拠している必要があります。

SMCPARMS

SMCPARMS コマンドファイルが最初に読み取られます。VM Client がアクティブなときには変更できない、ユーザーが構成した項目に使用されます。*SMCPARMS* は *READ* コマンドを使用して再処理することはできません。

次に、*SMCPARMS* メンバーのエントリの例を示します。

```
OPERATOR ID(nnnn)
LOGDISK ON
MSGDEF CASE(MIXED)
TCPIP TCPNAME(tcpname)
```

SMCCMDS

SMCCMDS コマンドファイルは、VM Client がアクティブなときに変更できる、ユーザーが構成した項目に使用されます。*SMCCMDS* は VM Client *READ* コマンドを使用して再処理できます。このコマンドの詳細は、「[READ](#)」を参照してください。

次に、*SMCCMDS* メンバーのエントリの例を示します。

```
TAPEPLEX NAME(tttttttt)
SERVER NAME(ssssssss) TAPEPLEX(tttttttt) PORT(pppp) +
IPADDRESS(nn.nn.nn.nn)
```

VM Client カスタマ出口

VM Client は、CMS EXEC として実装されている可能性のある次のカスタマ出口を提供します。

- *SMCXIT00* 深夜出口

この出口が実装されている場合は、毎晩深夜に実行されます。

入力パラメータ (存在する場合)、機能、およびインストール手順については、インストールのサンプル *SMCXIT00.samp* を参照してください。

- *SMCXIT01* コマンド承認出口

この出口が実装されている場合は、VM Client コマンドまたは TMI 要求が受信され、VM Client コマンドまたは TMI 要求が適切な VM Client *AUTHorize* コマンドによって承認されていない場合に実行されます。

VM Client *AUTHorize* コマンドについては、「[AUTHorize](#)」を参照してください。入力パラメータ (存在する場合)、機能、およびインストール手順については、インストールのサンプル *SMCXIT01.samp* を参照してください。

注:

VMSES/E のインストールではこれらの出口はインストールされません。インストールの手順については、カスタム出口のそれぞれのサンプルを参照してください。

CP DETACH のサポート

SMCPROP EXEC は、次のタイプのすべてのメッセージを処理する *PRogrammable OPerator (PROP)* アクションルーチンとして使用するために提供され、CP からシステムコンソールに送られます。

TAPE raddr DETACHED....

VM (CP) を使用すると、*CP* コマンド *LOGOFF*、*FORCE*、または *DETACH* によって *DETACH* されたすべてのテープドライブ上で「Rewind Unload」コマンドが実行されます。これにより、StorageTek の *DETACH* された TapePlex ボリュームが、まだ TapePlex の自動トランスポート内にあるときに、「選択された」状態のままになります。このボリュームは、ドライブから削除 (または *DISMOUNT*) されるまで、いずれの要求元からも使用できなくなります。

SMCPROP EXEC は、TapePlex のトランスポートが仮想マシンから *DETACH* された場合に、*VM PROP* サービスから呼び出され、VM Client *DISMOUNT* コマンドを自動的に発行できる「アクションルーチン」で、そうでない場合よりも先にボリュームを利用可能に (つまり選択解除) するものです。*RTABLE SAMPLE* は、*SMCPROP* アクションルーチンを *PROP* で使用するために提供されます。*PROP* サービスについては、*CMS* の計画と管理に関する IBM ドキュメントを参照してください。

SMCPROP EXEC は、*VMOPERATOR* とともに使用して *DETACH* メッセージをトラップすることもできます。*LOGTABLE SAMPLE* には、ユーザーをサポートするためにサンプルの *VMOPERATOR LOGTABLE* 文が含まれています。必要に応じて、サンプルのカスタマイズに関する *VMOPERATOR* ドキュメントを参照してください。VM Client サービスマシンユーザー ID が *VMSMC* でない場合は、*SMCPROP EXEC* を更新する必要があります。

正しく動作させるには、*PROP/VMOPERATOR* マシンで *SMCPROP EXEC* を使用できる必要があります。

第6章 VM Client コマンド

この章では、VM Client オペレータコマンドについて、およびこれらのコマンドの発行に使用する方法について説明します。

VM Client コマンドの発行

次の方法を使用して、VM Client コマンドを発行します。

- 起動時に処理される SMCPARMS または SMCCMDS ファイル内の VM Client コマンドを指定します。詳細は、「[VM Client コマンドファイル](#)」を参照してください。
- CP 特殊メッセージ (SMSG) 機能を使用して、VM Client サービスマシンに VM Client コマンドを送信します。

VM Client サービスマシンに対してコマンドを発行することが承認されている任意の仮想マシンから、次のコマンドを発行します。

```
CP SMSG userid command-string
```

ここでは:

- *userid* は CP ディレクトリ内で定義されている VM Client サービスマシンの名前です。
- *command-string* は、任意の有効な VM Client コマンドを含む文字列です。
- VM Client サービスマシンにログオンし、接続されているコンソールからコマンドを発行します。

VM Client コマンド

このセクションでは、VM Client コマンドについて説明します。

AUTHorize

AUTHorize コマンドを使用すると、TMI および VM Client コマンド要求の実行を承認されている VM ユーザー ID を特定できます。このコマンドは、以前に定義した承認エントリを削除することもできます。

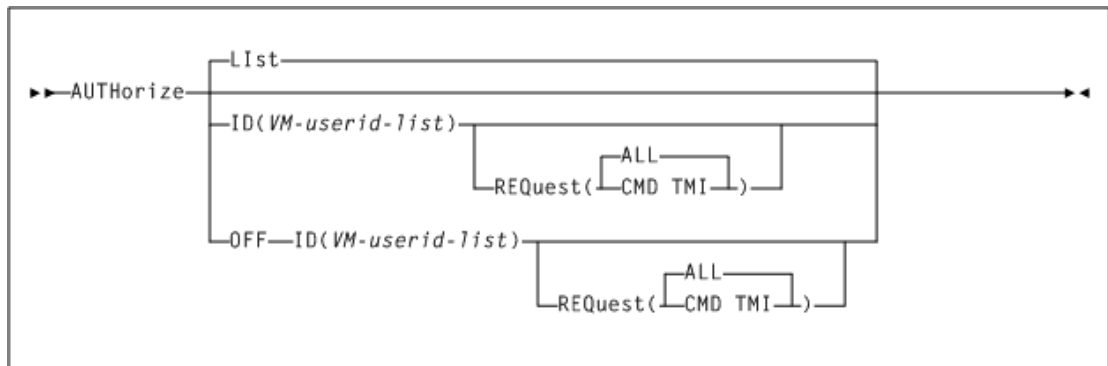
注:

- VM Client にオーバーライド承認機能を追加するため、カスタマ出口 SMCXIT01 が提供されています。承認されていない VM ユーザー ID が VM Client コマンドまたは TMI 要求を実行した場合、SMCXIT01 終了が使用されて、一致する *AUTHorize* コマンドが欠落している場合はオーバーライドし、必要な承認を提供することがあります。
- VM Client インストールの一部としてインストールされているデフォルトの SMCXIT01 EXEC 実行はありません。
- サンプルのカスタマ出口 *SMCXIT01* およびインストール手順は、配布された SMCXIT01.samp ファイルを参照してください。

構文

次の図は、*AUTHorize* コマンドの構文を示しています。

図6.1 *AUTHorize* コマンドの構文



パラメータ

図6.1「*AUTHorize* コマンドの構文」に示すように、*AUTHorize* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、現在のすべての *AUTHorize* マッピングを一覧表示します。

- ほかのパラメータが指定されないときには、*LIst* がデフォルトとなります。
- *LIst* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*LIst* は、ほかのすべてのパラメータが処理されたあとに適用されます。

ID(VM-userid_list)

オプションで、*VM-userid-list* で示されている、承認される VM ユーザー ID を指定します。

OFF ID(VM-userid-list)

オプションで、*VM-userid-list* で指定された VM ユーザー ID の *AUTHorize* エントリを削除します。パラメータ値 "*" はすべての *AUTHorize* エントリを削除します。

REQuest (CMD|TMI|ALL)

オプションで、承認される、または削除される VM Client 特権を指定します。このパラメータは、*ID* または *OFF ID* パラメータのいずれかとともに指定できます。次の値の 1 つまたはすべてを指定する必要があります。

- *CMD* は、SMSG インタフェースを介して受信した Authorize コマンド要求を示します。
- *TMI* は、テープ管理インタフェース API 承認要求を示します。
- *ALL* は、*CMD* および *TMI* 承認要求を示します。これは、*REQuest* が指定されていない場合のデフォルトです。

例

次の例では、*AUTHorize* コマンドがユーザー ID *VMTAPE* を承認して *TMI* 要求を実行し、すべての *AUTHORIZE* エントリを一覧表示します。

```
AUTH REQ(TMI) ID(VMTAPE) LIST
```

CMS

CMS コマンドを使用すると、VM Client を終了せずに、VM CMS (会話型モニターシステム) プログラム環境にコマンドを送信できます。

構文

次の図は、*CMS* コマンドの構文を示しています。

図6.2 *CMS* コマンドの構文

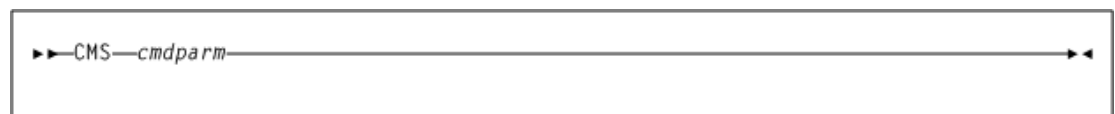
**パラメータ**

図6.2「*CMS* コマンドの構文」に示すように、*CMS* コマンドには次のパラメータが含まれます。

cmdparm

任意の有効な *CMS* コマンドおよびパラメータ文字列です。

例

次の例では、*CMS* コマンドは、有効なファイル定義の問い合わせを指定します。

```
CMS QUERY FILEDEF
```

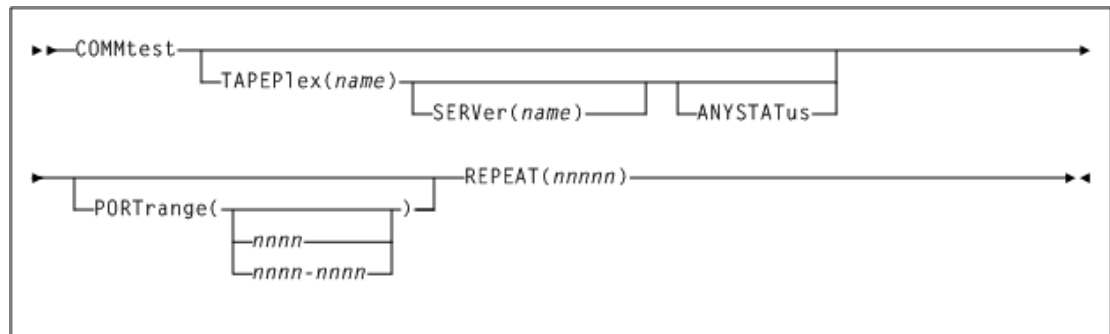
COMMtest

COMMtest コマンドを使用すると、指定された通信パスに対して *QUERY SERVER* コマンドを実行し、結果をまとめることによって、1 つ以上のサーバーへの通信パスをテストできます。

構文

次の図は、*COMMtest* コマンドの構文を示しています。

図6.3 *COMMtest* コマンドの構文



パラメータ

図6.3「*COMMtest* コマンドの構文」に示すように、*COMMtest* コマンドには次のパラメータが含まれます。

TAPEPlex(name)

オプションで、通信テスト用の TapePlex を指定します。このパラメータを指定しない場合、通信はすべての無効にされていない TapePlex についてテストされます。

name は、VM Client *TAPEPlex* コマンドによって定義されている TapePlex 名です。次の規則が適用されます。

- 値は、1 から 8 文字までの長さにする必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

次のサブパラメータを指定できます。

SERV(er)(name)

オプションで、通信テスト用のサーバーパスを指定します。このパラメータを指定しない場合、通信は指定された TapePlex のすべての無効にされていないサーバーパスに対してテストされます。

name は、VM Client *SERVER* コマンドによって定義されているサーバーパス名です。次の規則が適用されます。

- 値は、1 から 8 文字までの長さにする必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

ANYSTATUS

オプションで、オペレータコマンドまたは VM Client によって無効にされたパスを含む、すべての通信パスに対して通信がテストされます。

PORTrange (nnnn|nnnn-nnnn)

オプションで、リモートサーバーパスの通信が、指定されたポートまたは範囲からテストされるように指定します。指定された *PORTrange* は、ファイアウォール設定のテストを許可するための *TCPip PORTrange* 仕様とは異なることがあります。

nnnn または *nnnn-nnnn* は、通信に使用されるポート番号またはポート番号範囲です。各ポート番号には、1 - 65535 の値を指定できます。ただし、指定できる最大のポート番号範囲は 100 です (たとえば、6401 - 6500)。省略された場合、定義されている *TCPip PORTrange* 内のポートが使用されます。そのようなポートが定義されていない場合は、任意の一時的なポートが使用されます。ポート範囲が指定されている場合、通信は各ポート番号で試行されます。

REPEAT (nnnnn)

オプションで、通信テストを繰り返す回数を指定します。*nnnnn* の有効な値は 1 から 99999 です。

例

次の例では、ユーザーは、*SERVER PATHHSC1* によって *COMMtest* コマンドを発行して TapePlex *PRODHSC1* への通信パスをテストし、*XAPI QUERY SERVER* 通信操作を 100 回繰り返します。

```
COMMTEST TAPEPLEX(PRODHSC1) SERVER(PATHHSC1) REPEAT(100)
```

CP

CP コマンドを使用すると、VM Client を終了せずに、コマンドを VM CP (制御プログラム) 環境に送信できます。

構文

次の図は、*CP* コマンドの構文を示しています。

図6.4 CP コマンドの構文



パラメータ

図6.4「CP コマンドの構文」に示すように、*CP* コマンドには次のパラメータが含まれます。

cmdparm

任意の有効な CMS コマンドおよびパラメータ文字列です。

例

次の例では、*CP* コマンドは、有効な CPLEVEL 属性の問い合わせを指定します。

```
CP QUERY CPLEVEL
```

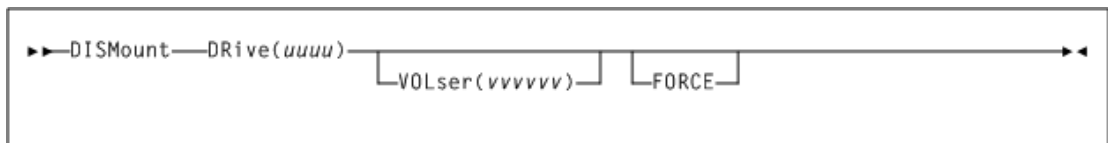
DISMount

DISMount コマンドは、ドライブからボリュームをマウント解除します。

構文

次の図は、*DISMount* コマンドの構文を示しています。

図6.5 DISMount コマンドの構文



パラメータ

図6.5「DISMount コマンドの構文」に示すように、*DISMount* コマンドには次のパラメータが含まれます。

DRive(uuuu)

ボリュームをマウント解除するトランスポートのテープドライブアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

uuuu はテープドライブアドレスです。*DRIVEMAP* コマンドが使用される場合、これが CLIENT アドレスになります。「[DRIVemap](#)」を参照してください。

VOLser (vvvvvv)

ボリュームをマウント解除するトランスポートのテープドライブアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

vvvvvv は、テープドライブアドレス (ボリュームシリアル番号) です。

FORCE

オプションで、ボリュームがマウント解除される前にデバイスをアンロードするよう指定します。このパラメータは、仮想ドライブでは有効ではありません。

例

次の例では、*DISMount* コマンドは、ボリューム AAA001 をドライブ 2900 からマウント解除します。

```
DISMOUNT DRIVE(2900) VOLSER(AAA001)
```

Display DRive

Display DRive コマンドを使用すると、VM Client ドライブ属性と TapePlex 所有権情報を要求できます。

構文

次の図は、*Display DRive* コマンドの構文を示しています。

図6.6 Display DRive コマンドの構文

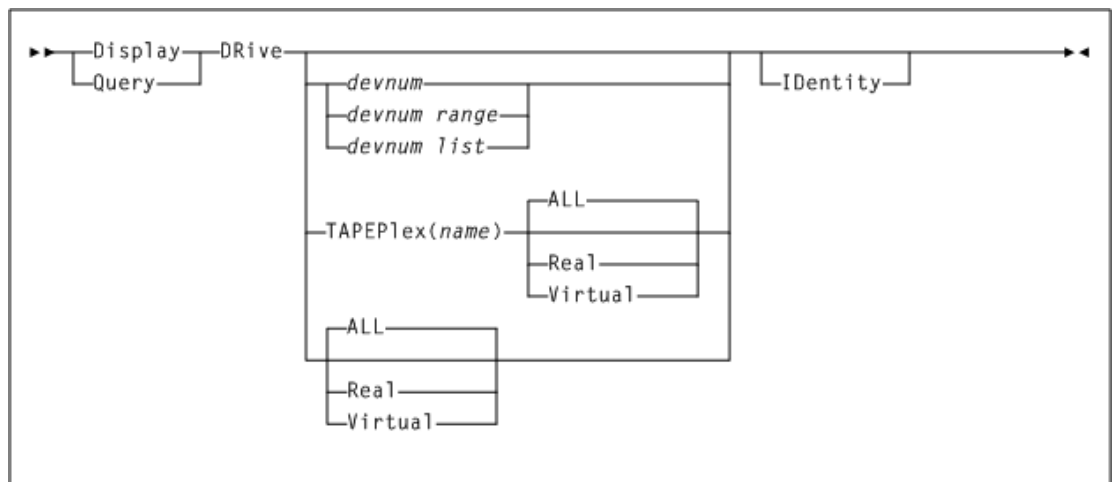
**パラメータ**

図6.6「Display DRive コマンドの構文」に示すように、*Display DRive* コマンドには次のパラメータが含まれます。

devnum, devnum-range, または devnum-list

デバイス番号、デバイス番号の範囲、または表示されるデバイス番号のリストを示します。各デバイス番号は、形式 *ccuu* の有効な 16 進数アドレスである必要があります。*DRIVEmap* コマンドが使用される場合、これが CLIENT アドレスになります。

TAPEPlex(name)

オプションで、指定された TapePlex に所有されるデバイスのみを一覧表示します。このパラメータが指定されない場合、すべての TapePlex 用に所有されているデバイスが表示されます。

name は TapePlex 名です。次の規則が適用されます。

- 値は、1 から 8 文字までの長さにする必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

表示された TapePlex のタイプを制御するため、ALL、Real、または Virtual パラメータを含めることもできます。

ALL

オプションで、SMC 定義された TapePlex に所有されるすべてのデバイスを一覧表示します。これは、パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

Real

オプションで、定義されたすべての TapePlex に所有される「実際の」（つまり、仮想ではない）デバイスのみを一覧表示します。

Virtual

オプションで、定義されたすべての TapePlex に所有される仮想デバイスのみを一覧表示します。

IDentity

オプションで、ドライブシリアル番号を識別する情報を表示します。

例

次の例では、*Display DRive* コマンドは、VM Client が認識している「実際の」（つまり、仮想ではない）デバイスのみを一覧表示します。

```
DISPLAY DRIVE REAL
```

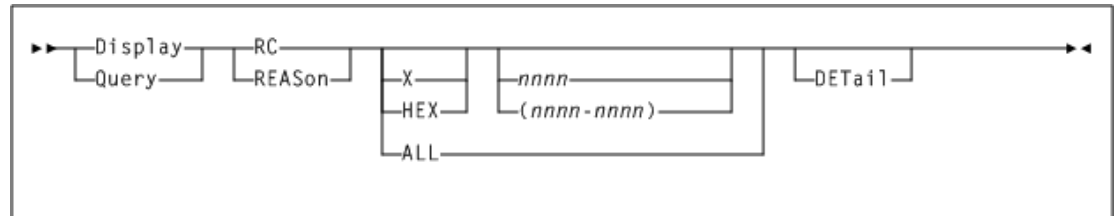
Display RC

Display RC コマンドを使用すると、SMC リターンコードや理由コード、または HSC/VTCS UUI の理由コードの意味についての情報を表示できます。

構文

次の図は、*Display RC* コマンドの構文を示しています。

図6.7 *Display RC* コマンドの構文



パラメータ

図6.7「*Display RC* コマンドの構文」に示すように、*Display RC* コマンドには次のパラメータが含まれます。

X または **HEX**

オプションで、理由/リターンコード値または範囲が 16 進数として指定されることを指定します。

nnnn または **nnnn-nnnn**

オプションで、説明が表示されるリターンコードまたはリターンコードのリストを示します。

- **X** または **HEX** が指定された場合、値には 16 進数文字 0 - 9 および A - F を含めることができます。
- **X** または **HEX** が指定されない場合、値には数字のみを含めることができます。

ALL

オプションで、定義されているすべてのリターンコードまたは理由コードが一覧表示されることを示します。**ALL** は、ユーティリティからのみ許可されます。

注:

ALL と **X/HEX** は相互に排他的です。

DETail

オプションで、要求されたコードについての詳細情報が表示されることを示します。

例

次の例では、*Display RC* コマンドは、SMC リターンコード 302 の情報を表示します。

```
DISPLAY RC 302
```

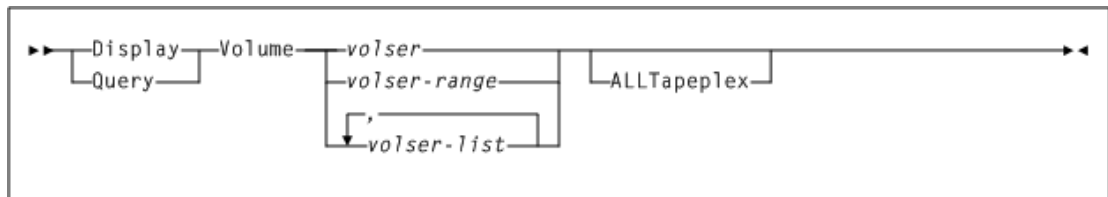
Display Volume

Display Volume コマンドを使用すると、ボリューム属性と TapePlex 所有権情報を要求できます。

構文

次の図は、*Display Volume* コマンドの構文を示しています。

図6.8 *Display Volume* コマンドの構文



パラメータ

図6.8「*Display Volume* コマンドの構文」に示すように、*Display Volume* コマンドには次のパラメータが含まれます。

volser*, *volser-range*, または *volser-list

処理する *volser*, *volser* 範囲、または *volser* リストを示します。複数のボリュームが指定される場合、最初の 100 のみが表示されます。

ALLTapeplex

オプションで、すべてのアクティブの TapePlex が指定された *volser* について問い合わせられるよう指定します。指定された場合、*volser* が複数の TapePlex で定義されていると、同じ *volser* に対して複数の表示行が一覧表示される可能性があります。

このパラメータが指定されない場合、*Display Volume* コマンドは、TapePlex を定義されている順に問い合わせ、ボリュームでの最初の発生のみを一覧表示します。

例

次の例では、*Display Volume* コマンドは、VM Client からアクセス可能な任意の TapePlex にあるボリュームシリアル番号 EVT100 を一覧表示します。

```
DISPLAY VOLUME EVT100 ALLTAPEPLEX
```

DRIVemap

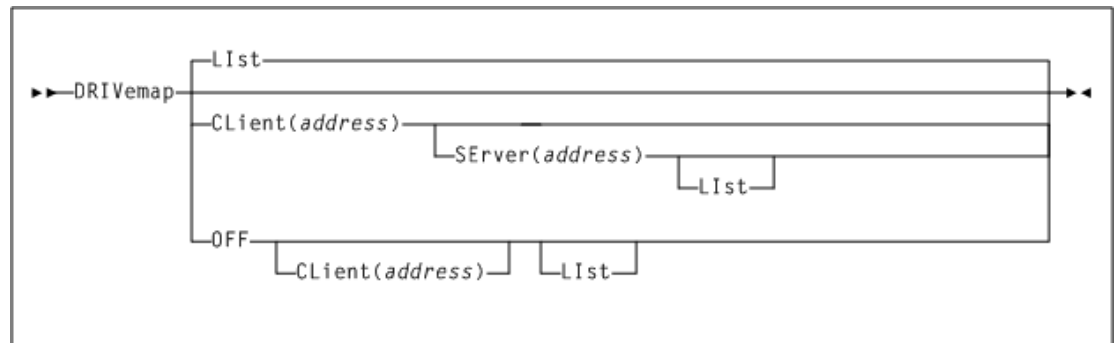
DRIVemap コマンドを使用すると、VM Client デバイスアドレスをサーバーのドライブアドレスにマッピングできます。このコマンドを使用すると、ユーザーは同じ TapePlex の実デバイス

または仮想デバイスに対して VM Client 上およびサーバーホスト上で異なるアドレスを指定できます。

構文

次の図は、*DRIVemap* コマンドの構文を示しています。

図6.9 *DRIVemap* コマンドの構文



パラメータ

図6.9「*DRIVemap* コマンドの構文」に示すように、*DRIVemap* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、現在のすべての *DRIVemap* マッピングを一覧表示します。

CLient(address)

オプションで、*DRIVemap* コマンドによってマッピングされたデバイス番号を指定します。

address は、デバイス番号、デバイス番号範囲、またはデバイス番号リストです。各デバイス番号は 16 進数です。

さらに、*SErver* サブパラメータを含めることができます。

SErver(address)

オプションで、HSC サーバー上で定義されているデバイス番号を指定します。

address は、デバイス番号、デバイス番号範囲、またはデバイス番号リストです。デバイス番号は 16 進数です。

- *CLient* が *OFF* パラメータなしで指定された場合、*SErver* が必要になります。
- *CLient* および *SErver* の両方が指定された場合、*CLient* パラメータは、同等のアドレスリストまたはサーバーパラメータによって指定された範囲を指定する必要があります。

注:

デバイスアドレスを参照する、入力された VM Client コマンド (*DISPLAY DRIVE*、*DISMOUNT*、または *MOUNT* など) は、クライアントデバイスアドレス (または VM Client が認識しているアドレス) を指定する必要があります。

指定されたデバイス番号の *DRIVemap* マッピングを一覧表示するために、*List* パラメータを含めることができます。

OFF

オプションで、すべての *DRIVemap* エントリを削除します。このパラメータが *CLient* パラメータとともに指定された場合、一致する *CLient DRIVemap* マッピングのみが削除されます。アドレス指定 (リストまたは範囲) は、定義している指定と正確に一致する必要があります。

例

次の例では、*DRIVemap* コマンドは、クライアントデバイスアドレス 180 - 188 をサーバーデバイスアドレス 280 - 288 にマッピングします。

```
DRIVEMAP CLIENT(180-188) SERVER(280-288)
```

DUMP

DUMP コマンドを使用すると、サービスマシンストレージのダンプの生成をいつでも強制できます。すべてのサービスマシンストレージがダンプされます。*DUMP* コマンドは、診断を目的としています。StorageTek ソフトウェアサポートの指導を受けた場合のみ使用してください。

ダンプは *CP VMDUMP* コマンドを使用して生成されます。ダンプ先は、サービスマシンのリーダー (クラス V) です。

構文

次の図は、*DUMP* コマンドの構文を示しています。

図6.10 *DUMP* コマンドの構文

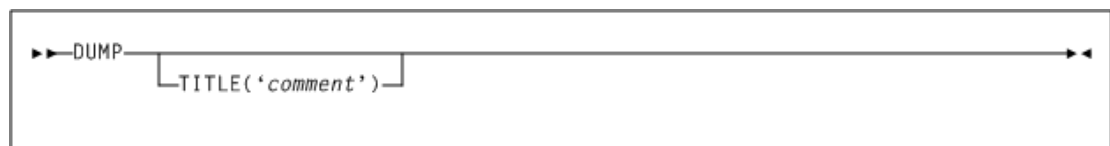
**パラメータ**

図6.10「*DUMP* コマンドの構文」に示すように、*DUMP* コマンドには次のパラメータが含まれます。

TITLE('comment')

オプションで、ダンプについて説明します。

comment はダンプのタイトルで、最大 72 文字の長さとし、一重引用符で囲みます。このタイトルはこの *DUMP* コマンドに対してのみ有効です。デフォルトのタイトルは、'*VM CLIENT DUMP COMMAND*' です。

例

次の例では、*DUMP* コマンドは、指定されたタイトルの VM Client サービスマシンのダンプを指定します。

```
DUMP TITLE('Sample Dump')
```

DUMPOpts

DUMPOpts コマンドを使用すると、生成される *VMDUMP* ダンプの最大数を指定またはリセットできます。このコマンドは、万一、重大な異常終了のサイクルが発生した場合に、VM スプール空間が使い果たされることを防止するのに役立ちます。

構文

次の図は、*DUMPOpts* コマンドの構文を示しています。

図6.11 *DUMPOpts* コマンドの構文

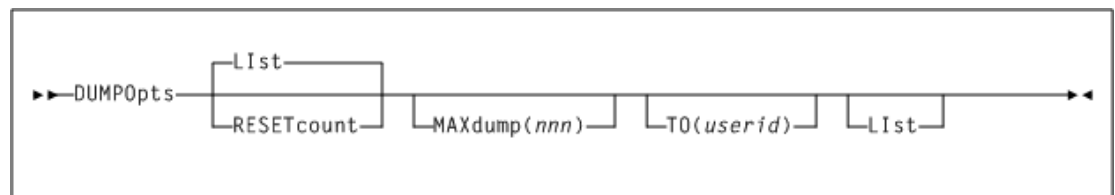
**パラメータ**

図6.11「*DUMPOpts* コマンドの構文」に示すように、*DUMPOpts* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、*DUMPS TAKEN*、*DUMPS MAX COUNT*、および *USERID* を含む、現在の *DUMPOpts* 設定を一覧表示します。

RESETcount

オプションで、生成されたダンプの数を 0 にリセットします。

MAXdump(nnn)

オプションで、ダンプ処理が無効にされるまでの、許可するダンプ数のしきい値カウントを設定します。

nnn はダンプの数です。これは、10 進数の 0 から 999 です。デフォルトは 50 です。

T0(userid)

オプションで、ダンプを受信するユーザー ID を指定します。

userid はユーザー ID です。これは定義された VM ユーザー ID である必要があります。アスタリスク (*) が入力された場合、VM Client サービスのマシン ID に変換されます。デフォルトは VM Client サービスマシンのユーザー ID です。

例

次の例では、*DUMPOpts* コマンドは、生成されたダンプの数をゼロにリセットし、しきい値を 10 に設定します。

```
DUMPOPTS RESETCOUNT MAXDUMP(10)
```

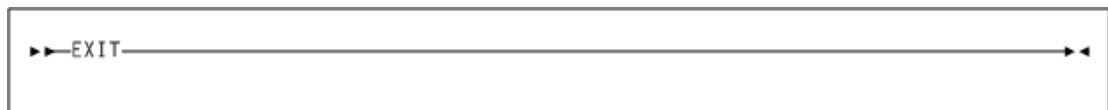
EXIT

EXIT コマンドを使用すると、VM Client サービスマシンを終了できます。

構文

次の図は、*EXIT* コマンドの構文を示しています。

図6.12 EXIT コマンドの構文



パラメータ

なし。

Help

Help コマンドを使用すると、VM Client のコマンドおよびメッセージ情報を表示できます。

注:

パラメータなしで *Help* コマンドを入力した場合、使用可能なすべての VM Client コマンドの情報が表示されます。

構文

次の図は、*Help* コマンドの構文を示しています。

図6.13 *Help* コマンドの構文



パラメータ

図6.13「*Help* コマンドの構文」に示すように、*Help* コマンドには次のパラメータが含まれます。

command-name

オプションで、VM Client のコマンド名を指定します。

nnnn

オプションで、VM Client メッセージ識別子の 4 桁の数値部分を指定します。先行 0 は不要です。

nnnn-nnnn

オプションで、メッセージ識別子の 4 桁の数値部分を使用して指定された VM Client メッセージの範囲を指定します。

SMCnnnn

オプションで、完全な VM Client メッセージ識別子を指定します。

SMCnnnn-SMCnnnn

オプションで、完全なメッセージ識別子を使用して指定された VM Client メッセージの範囲を指定します。

例

次の例では、*Help* コマンドは、VM Client メッセージ SMC0228 についての情報を表示します。

```
HELP SMC0228
```

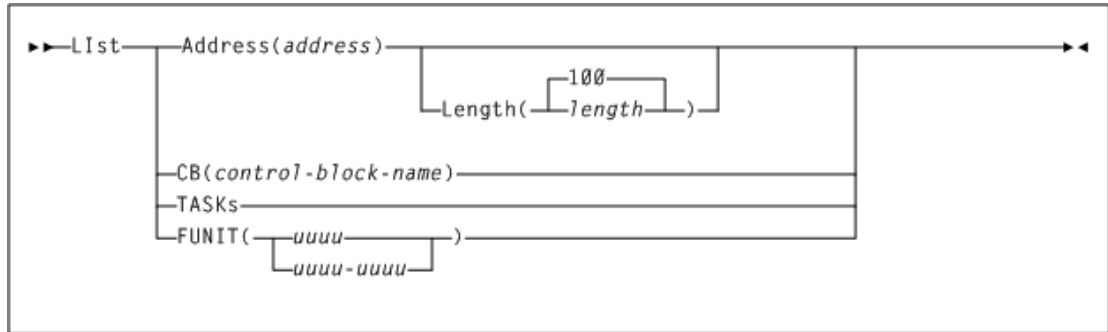
List

List コマンドを使用すると、VM Client 仮想マシン内のストレージの内容を表示できます。このコマンドは、診断を目的としています。StorageTek ソフトウェアサポートの指導を受けた場合のみ使用してください。

構文

次の図は、*LlSt* コマンドの構文を示しています。

図6.14 *LlSt* コマンドの構文



パラメータ

図6.14「*LlSt* コマンドの構文」に示すように、*LlSt* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Address(address)

オプションで、VM Client メモリーの内容の一覧表示を開始するアドレスを指定します。

address は 16 進数アドレスです。

CB(control-block-name)

オプションで、一覧表示する内部の VM Client 制御ブロックを指定します。

control-block-name は制御ブロック名です。

VM Client 制御ブロックが診断目的のために一覧表示されます。StorageTek ソフトウェアサポートによって指導された場合のみ *control-block-name* を指定してください

TASKs

オプションで、アクティブな VM Client システムタスクを一覧表示します。

FUNIT(uuuu | uuuu-uuuu)

オプションで、指定されたユニットアドレスに関連付けられた VM Client 制御ブロックを一覧表示します。

uuuu または *uuuu-uuuu* は単一のユニットアドレスまたはユニットアドレスの範囲です。

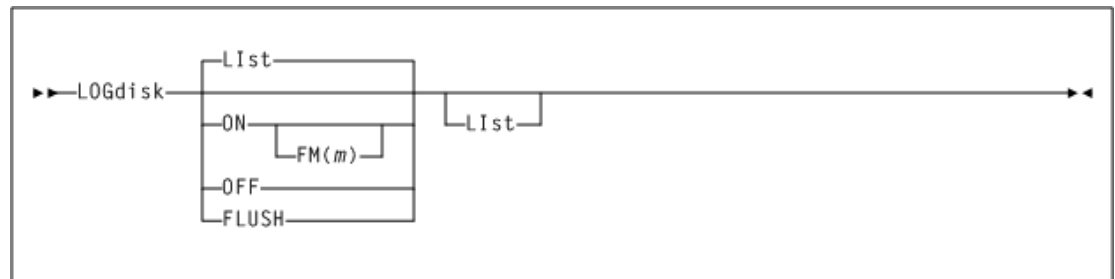
LOGdisk

LOGdisk コマンドを使用すると、YYYYMMDD *LOG* という名前のディスクファイルへのコンソール出力のロギングを制御できます。

構文

次の図は、*LOGdisk* コマンドの構文を示しています。

図6.15 *LOGdisk* コマンドの構文



パラメータ

図6.15「*LOGdisk* コマンドの構文」に示すように、*LOGdisk* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、現在の *LOGdisk* 設定を表示します。

- *LOGdisk* コマンドでパラメータが指定されないときには、*LIst* がデフォルトとなります。
- *LIst* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*LIst* は、ほかのパラメータが処理されたあとに適用されます。

ON

オプションで、一覧表示されているオプションを使用したコンソール出力のロギングを有効にします。ロギングがオンのときは、すべてのコマンドおよびメッセージがログに記録されます。

さらに、次のパラメータを入力できます。

FM(m)

ディスクログファイルを受信するファイルモードを指定します。*FM* は *RW* ミニディスクを指定する必要があります。このパラメータは、*ON* パラメータでのみ有効です。

m はファイルモードです。この値は、英字である必要があります。デフォルトは '*A*' です。

OFF

オプションで、一覧表示されたオプションを使用したコンソール出力のロギングを無効にします。ログファイルは閉じられます。

FLUSH

オプションで、ログファイルをフラッシュします。ファイルは閉じられ、再度開かれます。

すべてのメッセージが VM Client サービスマシンコンソールに書き込まれます。VM Client サービスマシンコンソールの処理は、`CP SPOOL` コマンドによって制御できます。VM Client サービスマシンコンソールは、`PROFILE EXEC` 内で開始し、保守 ID にスプールすることをお勧めします。例:

```
CP SPOOL CON START TO MAINT
```

例

次の例では、`LOGdisk` コマンドがディスクファイルへのロギングを有効にします。

```
LOGDISK ON
```

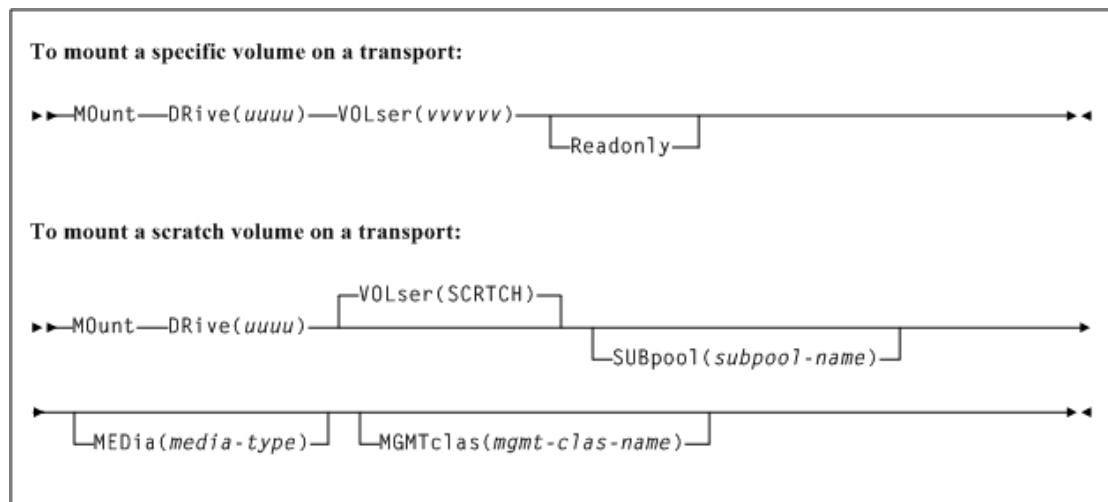
MOunt

`MOunt` コマンドを使用すると、ボリュームをドライブにマウントできます。

構文

次の図は、`MOunt` コマンドの構文を示しています。

図6.16 `MOunt` コマンドの構文



パラメータ

図6.16「`MOunt` コマンドの構文」に示すように、`MOunt` コマンドには次のパラメータが含まれます。

DRive(uuuu)

ボリュームをマウントするトランスポートのテープドライブアドレスを指定します。

uuuu はテープドライブアドレスです。*DRIVemap* コマンドが使用された場合、これが CLIENT アドレスになります。

VOLser (*vvvvvv*)

オプションで、マウントするボリュームを指定します。このパラメータが指定されない場合、スクラッチボリュームがマウントされます。

vvvvvv はボリュームシリアルです。スクラッチボリュームには *SCRTCH* を指定します。

Readonly

オプションで、ボリュームが読み取り専用アクセス用にマウントされることを指定します。このパラメータは、特定のマウントに対してのみ有効です。

SUBpool (*subpool-name*)

オプションで、スクラッチボリュームがスクラッチサブプールから取得されるよう指定します。このパラメータが指定されない場合、動作は、スクラッチプールが HSC サーバー上で定義されている方法によって異なります。詳細は、HSC *MOUNT* コマンドの説明を参照してください。このパラメータは、スクラッチマウントに対してのみ有効です。

subpool-name はサブプール名です。

MEdia (*media-type*)

オプションで、スクラッチボリュームのメディアのタイプを指定します。指定されるメディアは、リクエスト *DRive* との互換性がある必要があります。このパラメータは、スクラッチマウントに対してのみ有効です。

media-type はメディアタイプです。有効なメディアタイプ値のリストについては、[付録 A「MEDia, RECTech, および MODel の値」](#)を参照してください。

注:

MEdia が指定されない場合、メディアタイプにかかわらず次のスクラッチボリュームが選択されます。

MGMTclas (*mgmt-clas-name*)

オプションで、HSC/VTCS *MGMTclas* 制御文で定義されている管理クラスを指定します。このパラメータは、スクラッチマウントに対してのみ有効です。

mgmt-clas-name は管理クラス名です。

例

次の例では、*MOUNT* コマンドは、ボリューム AAA001 をドライブ 2900 にマウントします。

```
MOUNT DRIVE(2900) VOLSER(AAA001)
```

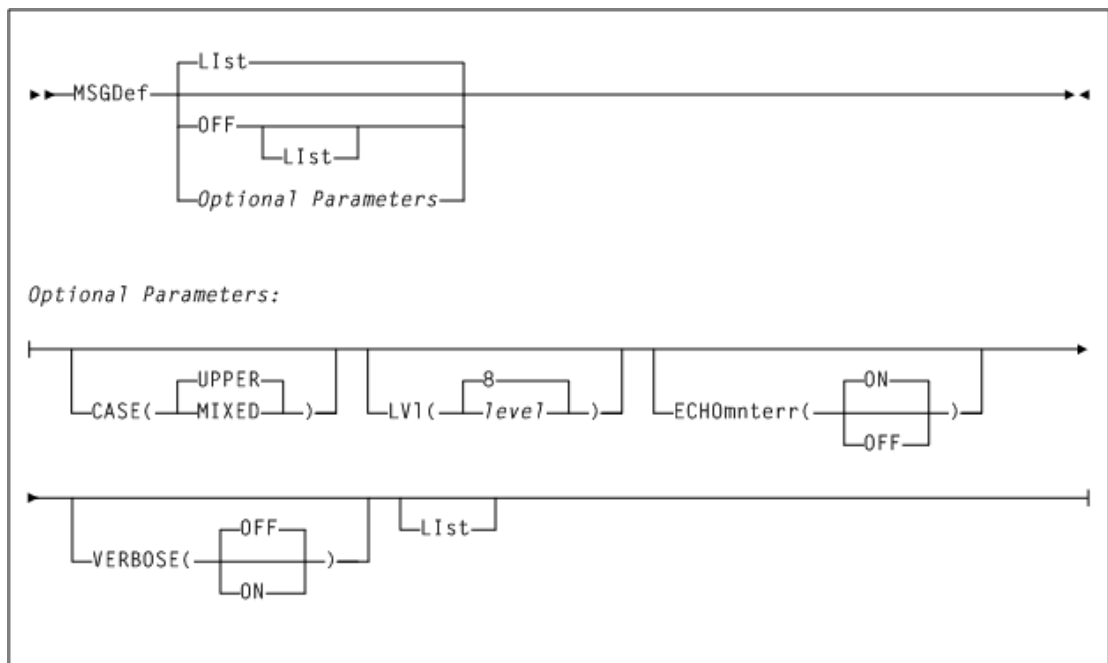
MSGDef

MDGDef コマンドは、VM Client システムメッセージの出現を定義し、どのメッセージが表示され、表示されないかを制御します。

構文

次の図は、*MSGDef* コマンドの構文を示しています。

図6.17 *MSGDef* コマンドの構文



パラメータ

図6.17「*MSGDef* コマンドの構文」に示すように、*MSGDef* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、現在のデフォルトの VM Client メッセージ設定を一覧表示します。

- **MSGDef** コマンドでほかのパラメータが何も指定されないときには、**LlSt** がデフォルトとなります。
- **LlSt** はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、**LlSt** は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

オプションで、すべての **MSGDef** 値を元の VM Client のデフォルト設定にリセットします。これらの設定の一覧を表示するには、**LlSt** をこのパラメータとともに指定します。

CASE(UPPER|MIXED)

オプションで、メッセージの大文字小文字を指定します。有効な値は、**UPPER** または **MIXED** です。

- **UPPER** は大文字を指定します。これがデフォルトです。
- **MIXED** は大文字と小文字の組合せを指定します。

Lvl(level)

オプションで、どの VM Client メッセージが表示、または非表示にされるかの制御に使用されるデフォルトレベルを指定します。

level デフォルトのレベルです。有効な値には次のものがあります。

- 0 - エラーメッセージのみを表示します。
- 4 - VM Client サービスマシンからのエラーおよび警告メッセージを表示します。
- 8 - すべての VM Client サービスマシンメッセージおよび割り当てジョブログ警告メッセージが表示されます。これは **MSGDef** パラメータが指定されない場合のデフォルトです。

注:

8 よりも高いレベルは診断の目的に使用されるため、StorageTek ソフトウェアサポートによって指示された場合にのみ指定してください。

ECHOmnterr(ON|OFF)

オプションで、HSC によって生成されたマウントエラーが VM Client のコンソールに直接エコーされるかどうかを指定します。

- **ON** は、HSC によって生成されたマウントエラーが VM Client のコンソールにエコーされることを指定します。これがデフォルトです。
- **OFF** は、HSC によって生成されたマウントエラーが VM Client のコンソールにエコーされないことを指定します。

VERBOSE(OFF|ON)

オプションで、VM Client 設定が変更されたとき、常に SMC0190 および SMC0191 メッセージが表示されるかどうかを指定します。

- **OFF** は、SMC0190 および SMC0191 メッセージが表示されることを指定します。

- *ON* は、SMC0190 および SMC0191 メッセージが表示されないことを指定します。これがデフォルトです。

例

次の例では、*MSGDef* コマンドは、メッセージが大文字と小文字の組合せで表示され、VM Client サービスマシンからのエラーおよび警告メッセージのみが表示されることを指定します。

```
MSGD CASE(MIXED) LV1(4)
```

OPERator

OPERator コマンドは、VM Client メッセージを受信するよう仮想マシンを指定します。

構文

次の図は、*OPERator* コマンドの構文を示しています。

図6.18 OPERator コマンドの構文



パラメータ

図6.8「[Display Volume コマンドの構文](#)」に示すように、*OPERator* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、現在のオペレータ設定を表示します。

- *OPERator* コマンドでほかのパラメータが何も指定されないときには、*LIst* がデフォルトとなります。
- *LIst* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、一覧は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

ID(VM-userid)

オプションで、VM Client メッセージを受信する仮想マシンの名前を指定します。

VM-userid は仮想マシンのユーザー ID です。これは定義された VM ユーザー ID である必要があります。アスタリスク (*) が入力された場合、VM Client サービスのマシン ID に変換されます。デフォルトは VM Client サービスマシンのユーザー ID です。

例

次の例では、*OPERator* コマンドは、メッセージを受信する *OPER* マシンを指定します。

```
OPERATOR ID(OPER)
```

POOLmap

POOLmap コマンドは、HSC のスクラッチサブプール名を VTCS 管理クラスにマッピングできます。

通常、VM/HSC テープ管理インタフェース (VMTMI) を使用するテープ管理システムは、スクラッチ要求用のサブプール名のみを指定し、管理クラスを指定しません。*POOLmap* コマンドは、スクラッチマウントの管理クラス名を指定する方法を提供します。*POOLmap* コマンドは、特に VM Client が仮想テープマウントを要求としているときにお勧めします。

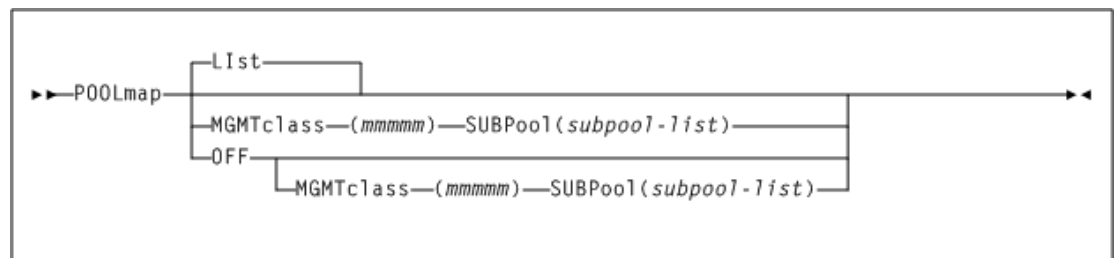
注:

POOLmap コマンドは、TapePlex サーバーと通信することによって、指定されたサブプールと管理クラス名を検証します。したがって、*POOLmap* コマンドは、任意の VM Client の *TAPEplex* および *SERVer* コマンドが処理される前に指定することはお勧めしません。

構文

次の図は、*POOLmap* コマンドの構文を示しています。

図6.19 *POOLmap* オペレータコマンド



パラメータ

図6.19「*POOLmap* オペレータコマンド」に示すように、*POOLmap* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、現在のオペレータ設定を表示します。

- *OPERator* コマンドでほかのパラメータが何も指定されないときには、*LIs*t がデフォルトとなります。
- *LIs*t はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、一覧は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

MGMTclass(mmmmm)

オプションで、HSC サーバー上で定義されている管理クラス名を指定します。

mmmmm は、1 - 8 文字の英数字の管理クラス名です。

OFF

オプションで、すべての *POOLmap* エントリを削除します。

このパラメータが *MGMTclass* または *SUBPool* パラメータとともに指定された場合、一致する *POOLmap* エントリのみが削除されます。

SUBPool(subpool-list)

HSC サーバー上で定義されているスクラッチサブプール名を指定します。

subpool-list は、指定された管理クラス名に関連付けられる、1 つ以上のスクラッチサブプール名です。

例

次の例では、*POOLmap* コマンドは、管理クラス *DAILY* を、スクラッチサブプール *VIRTCART1* および *VIRTCART2* にマッピングします。

```
POOLMAP MGMT(DAILY) SUBP(VIRTCART1,VIRTCART2)
```

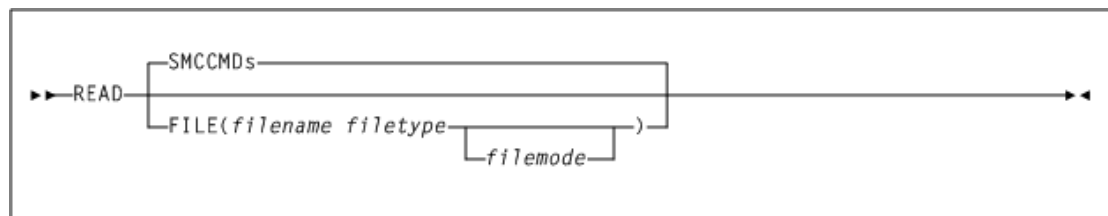
READ

READ コマンドを使用すると、コンソールコマンドの代わりに、入力データセットを使用して一連のコマンドを入力できます。

構文

次の図は、*READ* コマンドの構文を示しています。

図6.20 *READ* コマンドの構文



パラメータ

図6.20「[READ コマンドの構文](#)」に示すように、*READ* コマンドには次のパラメータが含まれます。

SMCCMDS

オプションで、VM Client START 手順の *SMCCMDS FILEDEF* で指定されたデータセットに含まれるコマンドを再処理します。

FILE(filename filetype)、およびオプションで **filemode**。

オプションで、*READ* の対象のファイルを指定します。

- *filename* はファイル名です。
- *filetype* はファイルタイプです。
- *filemode* はファイルモードです。デフォルトは A です。

例

次の例では、*READ* コマンドは、VM Client 起動 EXEC の *FILEDEF SMCCMDS* のコマンドを処理します。

```
READ SMCCMDS
```

RESYNChronize

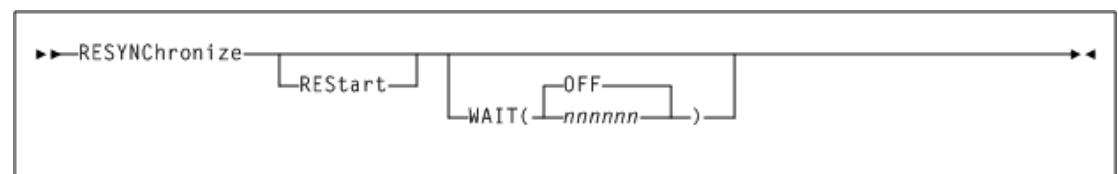
RESYNChronize コマンドを使用すると、すべての TapePlex からドライブ構成情報を取得するために、定義されているすべての TapePlex への接続を再確立できます。

このアクションは、VM Client が最初に TapePlex への新しいパスをアクティブにしたとき、または HSC サーバーが構成の変更を報告したときに自動的に実行されます。

構文

次の図は、*RESYNChronize* コマンドの構文を示しています。

図6.21 *RESYNChronize* コマンドの構文



パラメータ

図6.21「[RESYNChronize コマンドの構文](#)」に示すように、*RESYNChronize* コマンドには次のパラメータが含まれます。

REStart

オプションで、最後のアクティブなパスに関係なく、最初のサーバーで *RESYNChronize* 試行を開始します。

WAIT(OFF|nnnnnn)

オプションで、サーバーが使用可能になるまで待機します。このオプションは、*TAPEPLEX* および *SERVERs* が定義されたあとに役に立ちます。このコマンドは、サーバーが使用可能になるか、指定された時間 *nnnnnn* が期限切れになるまで完了しません。

- *nnnnnn* は 0 - 999999 の分単位の待機時間です。
- *OFF* は、コマンドが使用可能なサーバーを待機しないことを指定します。これがデフォルトです。

例

次の例では、*RESYNChronize* コマンドは、最初のサーバーから通信を再開することを指定します。

```
RESYNC RESTART
```

次の例では、*RESYNChronize* コマンドは、サーバーが使用可能になるまで待機するよう指定します。

```
RESYNC WAIT(9999)
```

Route

Route コマンドを使用すると、VM Client から、定義された TapePlex 名へのトランザクションのルーティングを要求できます。

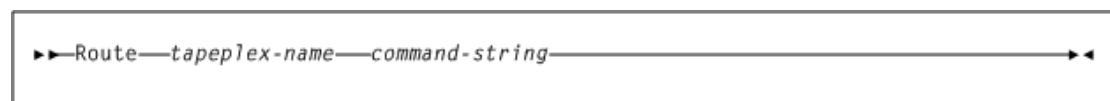
注:

Route コマンドを使用して、VM Client から ACSLS XAPI サーバーへさまざまなコマンドを発行することもできます。詳細は、ELS ドキュメント ACSLS サーバーへの *XAPI Client* インタフェースのリファレンスを参照してください。

構文

次の図は、*Route* コマンドの構文を示しています。

図6.22 Route コマンドの構文



パラメータ

図6.22「Route コマンドの構文」に示すように、*Route* コマンドには次のパラメータが含まれます。

tapeplex-name

VM Client *TAPEPlex* コマンドで定義された TapePlex 名。VM Client は、現在アクティブな TapePlex パスを使用して、指定された TapePlex に要求をルーティングします。

command-string

要求された TapePlex にルーティングされるコマンド文字列。

- VM Client は、指定されたコマンド文字列の検証は試行せず、単に入力したとおりに、コマンド文字列を指定の *tapeplex-name* にルーティングし、応答を表示します。
- VTCS コマンドには接頭辞 *VT* を付けることはお勧めしません。HSC UUI インタフェースは、VTCS コマンドを *VT* 接頭辞なしで正しい機能プロセッサにルーティングします。
- *command-string* は、HSC UUI (*VOLRPT* を除く) によってサポートされているコマンド、または任意の VTCS コマンド (*VTVRPT*、*DISPLAY MSG*、*DISPLAY CMD* を除く) である必要があります。

例

次の例では、*Route* コマンドは、処理のため「*D CDS*」コマンド文字列を TapePlex HSC8 にルーティングします。受信されたすべての応答は、SMC0173 メッセージによって表示されます。

```
R HSC8 DI CDS
```

SERVer

SERVer コマンドは、リモートライブラリサーバーへの名前付きパスを定義します。*SERVer* コマンドは、StorageTek HTTP サーバーへの通信パスについて説明します。*SERVer* コマンドは、VM Client に対して定義されているサーバーを一覧表示することもできます。

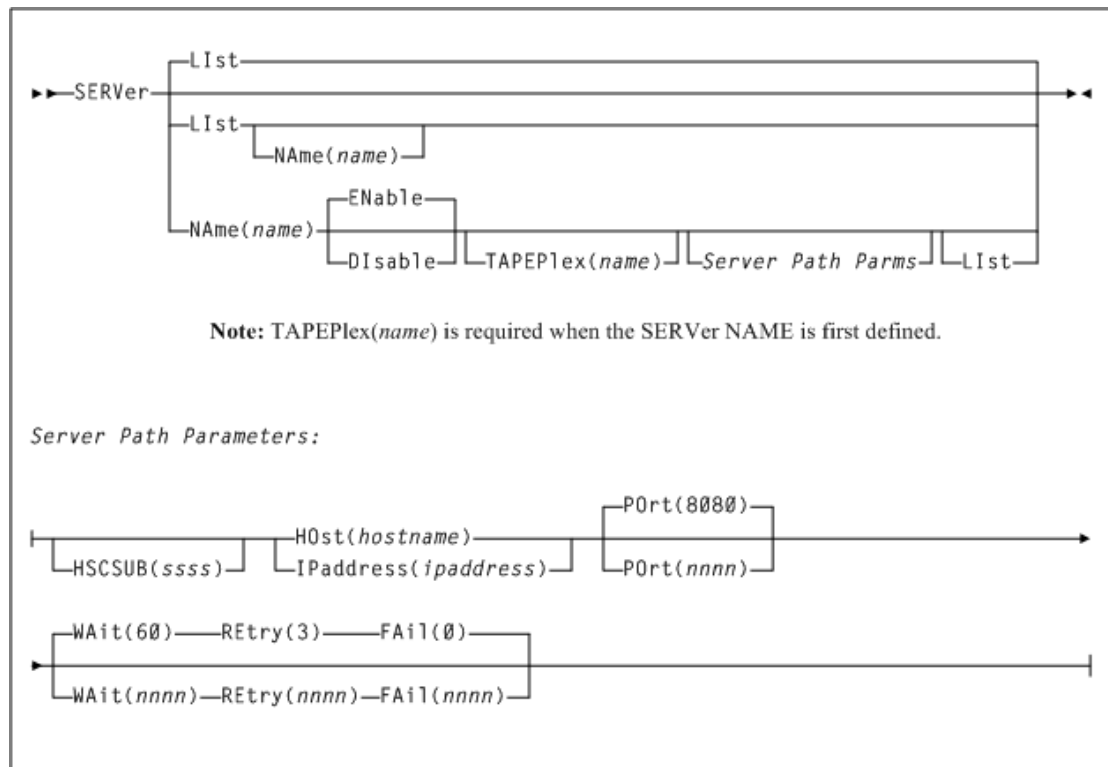
次の点に注意してください。

- *SERVer* を定義する前に、それが参照する TapePlex を *TAPEPlex* コマンドを使用して定義する必要があります。
- *SERVer* に関連付けられた TapePlex 名は変更できません。詳細は、「[TAPEPlex](#)」を参照してください。

構文

次の図は、*SERVer* コマンドの構文を示しています。

図6.23 SERVER コマンドの構文



パラメータ

図6.23「SERVER コマンドの構文」に示すように、SERVER コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、TapePlex サーバーパスのステータス情報を表示します。

- SERVER コマンドでパラメータが指定されないときには、LIst がデフォルトとなります。この場合、すべてのライブラリサーバーパスが一覧表示されます。
- LIst はそのほかのパラメータとともに指定できます。NAME 以外のパラメータとともに指定すると、ほかのパラメータが処理されたあとに、LIst が生成されます。

オプションで、このパラメータとともに NAME (name) を指定することもできます。NAME は、ステータスが表示される TapePlex サーバーパスを指定します。name はサーバーパス名です。

NAME (name)

オプションで、TapePlex サーバーへの通信パスまたは経路を指定します。

name はパスパラメータの識別子です。この名前は通信エラーメッセージで報告されます。次の規則が適用されます。

- 値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

ENable

オプションで、指定されたサーバーパスをマウント要求用に選択できるようにします。

Disable

オプションで、指定されたサーバーパスを無効にします。これが TapePlex への唯一のパスである場合、TapePlex をマウント要求に使用できなくなります。

TAPEPlex(name)

オプションで、ACS ハードウェア構成に関連付けられた TapePlex 名を指定します。新しいサーバーが定義されるときには、*TAPLEPlex* パラメータを指定する必要があります。

name は TapePlex 名です。この名前は、TapePlex サーバーエラーメッセージで報告されます。次の規則が適用されます。

- 値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

注:

1 つの TapePlex に対して複数のパスを定義できます。

サーバーパスパラメータ

HSCSUB(ssss)

オプションで、サーバーに関連付けられている TapePlex を表す HSC サブシステムの名前を指定します。このパラメータは、サーバーホストで実行している複数の HSC サブシステム (MULT モードで実行している HSC) がある場合にのみ必要となります。

ssss は HSC サブシステム名です。

Host(hostname)

オプションで、TapePlex サーバーの IP リゾルバホスト名を指定します。DNS 検索では、VM Client は *TCPIP DATA* ファイルへのアクセス権を持っている必要があります。

hostname は、リモートホストの名前です。

注:

H0st および *IPaddress* は相互に排他的です。

IPaddress(ipaddress)

オプションで、TapePlex サーバーの IP アドレスを指定します。

ipaddress はリモートホストの IP アドレスです。

注:

IPaddress および *H0st* は相互に排他的です。

P0rt(nnnn)

オプションで、サーバーポートを指定します。

nnnn は 0 - 65535 のサーバーポートです。デフォルトは 8080 です。

WAit(nnnn)

オプションで、VM Client が要求をタイムアウトにするまでの、要求の最大デフォルト待機時間を指定します。

nnnn は 0 - 9999 の秒単位の待機時間です。デフォルトは 60 です。

注:

デフォルトの待機時間は、マウント、マウント解除、取り出し、または移動の要求のデフォルトのタイムアウト値が 10 分、10 分、24 時間、1 時間の場合には適用されません。

REtry(nnnn)

オプションで、タスクの再開が許可され、失敗が記録されるまでの、1 つの要求に対する再試行の数を指定します。

nnnn は 0 - 9999 の再試行の回数です。デフォルトは 3 です。

FAil(nnnn)

オプションで、通信確立の成功後、特定のサーバーパスが無効にされる、または使用不可になるまでの、失敗の最大数を指定します。

nnnn は失敗の数を示します。デフォルトは 0 です。

0 が指定された場合、指定された SERVER が通信エラーのために自動的に無効されることはありません。

この値は、指定されたライブラリへのバックアップ SERVER パスがない場合に指定することをお勧めします。

FAIL 制限数は、この SERVER パスで通信の確立が成功したあとにのみ適用されます。

例

次の例では、*SERVER* コマンドは、TapePlex *DENVER* に対して *DENVER1* という名前のサーバーを追加します。

```
SERVER NAME(DENVER1) TAPEPLEX(DENVER) IP(11.22.33.44) PORT(7777)
```

TAPEPlex

TAPEPlex コマンドは、通常 1 つの CDS で表現される特定の StorageTek テープハードウェア構成として、TapePlex を定義します。

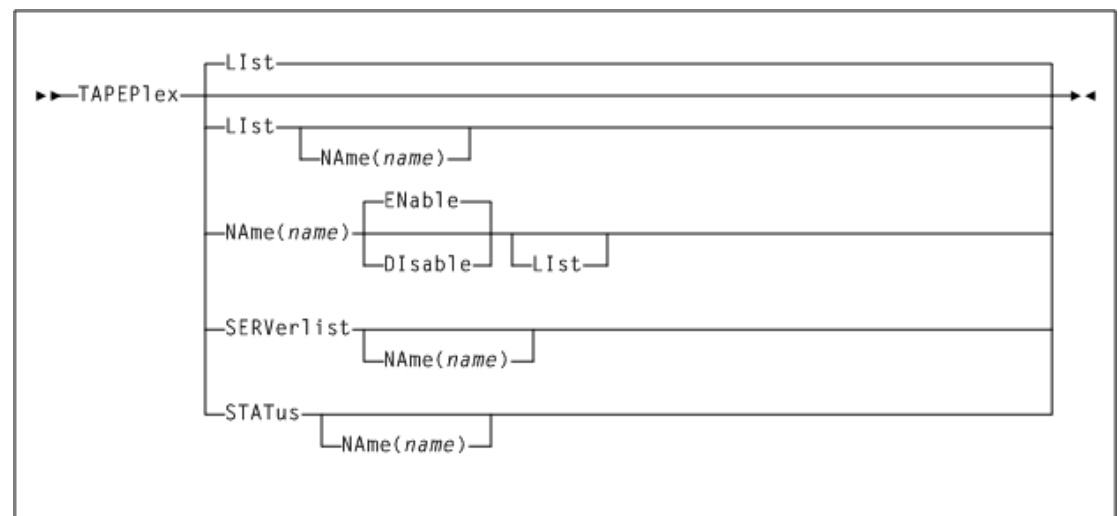
次の点に注意してください。

- HSC TapePlex にアクセスするには、*TAPEPlex* および *SERVER* コマンドが必要になります。
- *TAPEPlex* コマンドは、VM Client が通信を試行する TapePlex を一覧表示し、それらのステータスを報告することもできます。

構文

次の図は、*TAPEPlex* コマンドの構文を示しています。

図6.24 *TAPEPlex* コマンドの構文



パラメータ

図6.24「*TAPEPlex* コマンドの構文」に示すように、*TAPEPlex* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、指定された TapePlex を一覧表示します。

Name (name)

オプションで、定義または変更される TapePlex 名を指定します。

name は TapePlex 名です。この名前は、TapePlex エラーメッセージで報告されます。次の規則が適用されます。

- 値は、1 から 8 文字の長さにする必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字である必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

次のサブパラメータを指定できます。

- *ENable* は、指定された TapePlex をマウント要求用に選択できるようにします。これがデフォルトです。
- *DISable* は、指定された TapePlex を無効にします。TapePlex はマウント要求に使用されません。

SERVERlist

オプションで、定義されている TapePlex、その属性、および関連付けられているサーバーを一覧表示します。*SERVerlist* パラメータは、*NAME* パラメータとともに指定して、表示を 1 つの TapePlex に制限することもできます。

次のサブパラメータを指定できます。

- *NAME* は、サーバーが一覧表示される TapePlex 名を指定します。*name* は、TapePlex 名です。

STATUS

オプションで、すべての TapePlex、または 1 つの指定された TapePlex の現在のステータスを一覧表示します。TapePlex ステータスは、TapePlex がアクティブである、アクティブでない、または無効になっているかどうかを示します。アクティブな TapePlex では、ステータスは現在のサーバーの名前を一覧表示します。*STATUS* は *RESYNChronize* コマンドを実行しません。

次のサブパラメータを指定できます。

- *NAME* は、ステータス情報が一覧表示される TapePlex 名を指定します。*name* は TapePlex 名です。

例

次の例では、*TAPEPlex* コマンドは、(まだ定義されていないものとして) *DENVER* という名前の TapePlex を定義します。

TAPEPLEX NAME(DENVER)

注:

SERVer コマンドは、TapePlex *DENVER* への通信パスを定義するよう指定する必要があります。例については、「[SERVer](#)」を参照してください。

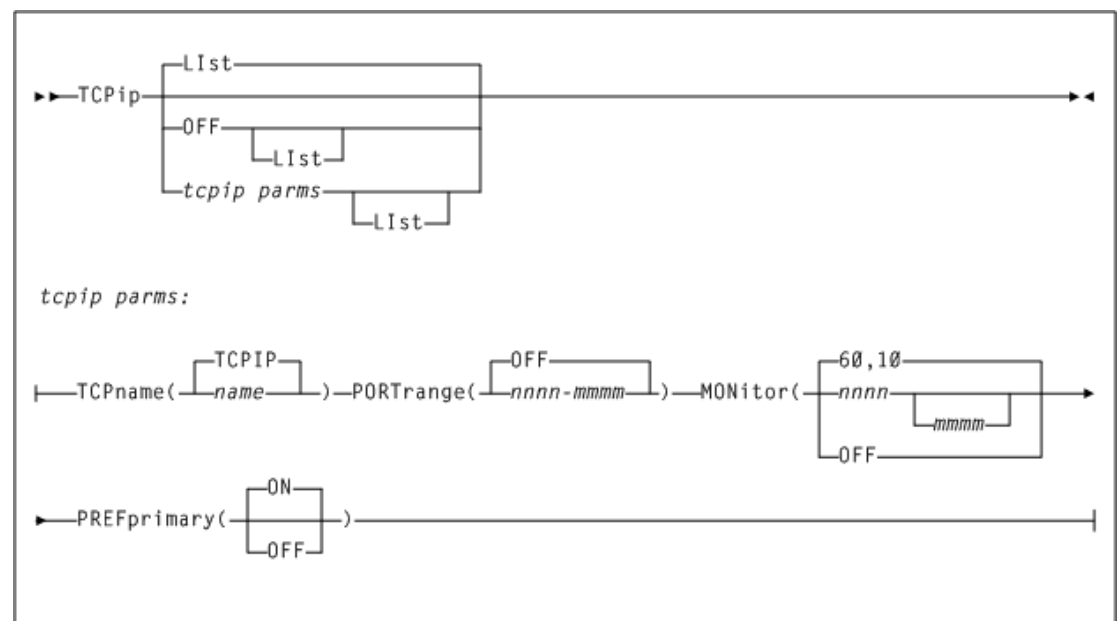
TCPip

TCPip コマンドは、TCP/IP 通信環境の現在の設定を変更または一覧表示します。このコマンドは、TCP/IP 要求を VM ホスト上の特定の TCP/IP スタックに転送できます。*TCPip* コマンドは任意の時点で発行できます。

構文

次の図は、*TCPip* コマンドの構文を示しています。

図6.25 *TCPip* コマンドの構文



パラメータ

図6.25「[TCPip コマンドの構文](#)」に示すように、*TCPip* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、現在の TCP/IP 設定を表示します。*PORTrange* が指定されている場合、*List* は現在バインドされているポート番号、および一度に実行される同時通信サブタスクの最大数を示す最高ポート番号も表示します。

- *TCPip* コマンドでパラメータが指定されないときには、*LIst* がデフォルトとなります。
- *LIst* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*LIst* は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

オプションで、システムのデフォルトが VM Client TCP/IP 通信に使用されることを指定します。

tcpip パラメータ

TCPname (name)

オプションで、VM ホスト上の TCP/IP サービスマシンを指定します。

name は、TCP/IP 通信をターゲットとするための VM 上の TCP/IP サービスマシンのユーザー ID です。デフォルトは *TCPIP* です。

PORTrange (nnnn-mmmm) または (OFF)

オプションで、リモートサーバパスで通信するときに、VM Client 上のソケットを bind() するために VM Client によって使用されるポートの範囲を指定します。

PORTrange が定義されると、VM Client は、クライアントソケットを指定された *PORTrange* 内のいずれかのポートにバインドし、*PORTrange* 外のクライアントポートは使用しません。したがって、VM Client は、通信を既知のポートに制限するファイアウォールの背後で動作できます。ボリューム検索、マウントなどに通信サービスを必要とするそれぞれの同時サブタスクには、一意のポートが必要です。*PORTrange* が定義されない場合、任意の一時的なポートが VM Client に使用されます。

一度にアクティブにできる *PORTrange* は 1 つのみですが、新しい *PORTrange* が古い *PORTrange* と重複する場合であっても、*PORTrange* を動的に再定義できます。

- *nnnn-mmmm* はポート番号の範囲です。各ポート番号には、1 - 65535 の値を指定できます。指定できる最小のポート番号範囲は 10 です (たとえば、6401 - 6410)。指定できる最大のポート番号範囲は 1000 です (たとえば、6401 - 7400)。
- *OFF* は *PORTrange* ロジックを無効にします。その結果、任意の一時的なポートが使用されます。これがデフォルトです。

次の点に注意してください。

- *PORTrange* を指定する場合、TCP/IP のウェルノウンポートと競合しない *PORTrange* を指定することをお勧めします。
- *PORTrange* を指定する場合、通信サービスを要求している同時サブタスクの推定数よりも大きい *PORTrange* を指定することをお勧めします。ほとんどのインストールで

は、40 ポートの *PORTrange* で十分です。ただし、SMC0128 メッセージが「空きポートがありません」と示すリターンコードとともに生成された場合、*PORTrange* をさらに大きくする必要があります。

- *TCPip LIST* コマンドは、一度に実行される同時通信サブタスクの最大数を示す、最高ポート番号の表示に使用できます。

MONitor(nnnn) およびオプションの *mmmm*

オプションで、通信モニターサブタスクスキャン間隔および通信モニターサブタスクメッセージ間隔を指定します。

nnnn は秒単位のモニタースキャン間隔です。通信モニターは、ライブラリ通信の検証を行うため、*nnnn* 秒ごとにウェイクします。10 から 9999 の間の値を指定します。デフォルトは 60 です。

1 分ごとにモニタースキャンを有効にするには、デフォルト設定 60 を保持することをお勧めします。値が小さすぎると、非アクティブなライブラリが存在するときにパフォーマンスが低下する可能性があります。値が大きすぎると、*PREFPRIMARY(ON)* が指定された場合に、プライマリサーバーへの戻りが遅れる場合があります。

mmmm はオプションで、スキャン数でのモニタースキャン間隔を指定します。この間隔に従って通信エラーメッセージが表示されます。0 から 9999 の間の値を指定します。デフォルトは 10 です。

デフォルトの *MONITOR(60, 10)* 設定は、60 秒のモニタースキャン間隔、および 10 スキャンのモニターメッセージ間隔を指定します。スキャンは 1 分ごとに実行されますが、エラーメッセージは 10 スキャンに 1 回のみ生成されます。

mmmm を 0 の値にすると、通信モニターサブタスクによって発行された、回復不能ではない、または無効化されないすべてのエラーメッセージを無効にします。ただし、サーバー通信パスの無効化をまねくエラーは引き続き発行されます。

PREFprimary(ON|OFF)

オプションで、自動プライマリサーバー切り替えを有効または無効にします。自動プライマリサーバー切り替えでは、通信モニターサブタスクがアクティブである必要があります。*MONITOR(OFF)* が指定された場合、プライマリサーバー切り替えは無効にされます。

例

次の例では、*TCPip* コマンドは、任意の一時ポートを使用して *TCPIP* という名前の VM サービスマシンに TCP/IP 要求を転送します。

```
TCPIP TCPNAME(TCPIP) PORTRANGE(OFF)
```

TRace

TRace コマンドは VM Client トレースを有効にします。VM Client トレースファイルは *TRACE FILEDEF* ファイルに書き込まれます。

注:

このコマンドは、システムのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。StorageTek ソフトウェアサポートの指導を受けた場合のみ使用してください。

構文

次の図は、*TRace* コマンドの構文を示しています。

図6.26 *TRace* コマンドの構文



パラメータ

図6.26「*TRace* コマンドの構文」に示すように、*TRace* コマンドには次のパラメータが含まれます。

parameter

LIst

オプションで、現在の VM Client トレース設定を一覧表示します。

- *TRace* コマンドでパラメータが指定されないときには、*LIst* がデフォルトとなります。
- *LIst* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、一覧は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

オプションで、VM Client トレースを無効にします。

ON

オプションで、VM Client トレースを有効にします。

例

次の例では、*TRace* コマンドは、VM Client トレースを有効にします。

```
TRACE ON
```

第7章 ELS サーバーに関する考慮事項

この章では、ELS サーバーの考慮事項について説明します。

VM Client はシンクライアントであり、TCP/IP を介して接続された ELS サーバー TapePlex 内で使用できるリソースに依存します。

注:

ELS サーバーはリリース 7.1 以降である必要があります。

SMC HTTP サーバーコンポーネント

VM Client は、ELS SMC 構成内で定義されているサーバー IP アドレスとポート番号を指定します。SMC *HTTP* コマンドを使用して HTTP サーバーを構成する方法については、ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

次に、SMC *HTTP* コマンドの例を示します。

```
HTTP START PORT 4242
```

スクラッチサブプール

VM/HSC とは異なり、VM Client ではスクラッチサブプールの管理は許可されません。代わりに、スクラッチサブプールは ELS サーバーで定義および管理されます。

VM:Tape などのテープ管理システム (TMS) では、TMI 要求を使用してスクラッチサブプールを定義することはできません。TMS は、ELS サーバー上で定義されている既存のスクラッチサブプールを使用する必要があります。VM:Tape の場合、スクラッチサブプールを定義しようとすると失敗しますが、VM:Tape の初期化は続行されます。

次に、VM:Tape の初期化の例を示します。

```
VMTHSC693I The HSC interface is connecting.  
VMTHSC000I Sending to VMCLIENT: QCONFIG with wrong length  
VMTHSC000I Sending to VMCLIENT: QCONFIG with right length  
VMTHSC000I Sending to VMCLIENT: QDRIVES  
VMTHSC999I VMCLIENT completed QDRIVES command successfully
```

```
VMTHSC000I Sending to VMCLIENT: DEFSCR 5 4
VMTHSC697E HSC server VMCLIENT ACSRQ=DEFSCR RC=16
VTCS Management Classes
Reason=00001004
VMTHSC721E HSC scratch pool initialization failed.
VMTHSC704I The interface to HSC is ready for use.
```

VM:Tape が HSC サーバーに定義されていないスクラッチサブプールを使用しようとする
と、VM Client がゼロ以外の TMI リターンコードと理由コードを返します。例:

```
VMTHSC000I Sending to VMCLIENT: QSCRATCH TEST
VMTHSC697E HSC server VMCLIENT ACSRQ=QSCRATCH
RC=16 Reason=00008036
VMTHSC698R 'QSCRATCH TEST ' to VMCLIENT failed;
Enter RETRY, CANCEL, or NOARM;; Reply 1
```

サブプール内のスクラッチサブプールの名前とボリュームは、お客様の責任で VM TMS と
同期させておいてください。

VTCS 管理クラス

VM Client *POOLmap* コマンドを使用して、仮想テープボリューム (VTV) を含むスクラッチサ
ブプールと VTCS 管理クラスを関連付けることを強くお勧めします。スクラッチサブプール名
を指定する TMI 要求を VM Client が受け取ると、VM Client は *POOLmap* 管理クラスを使用
して VTV を選択およびマウントします。

POOLmap コマンドの詳細は、「[POOLmap](#)」を参照してください。

VM:Tape 割り振り出口

VM:Tape 構成に複数のテープドライブが含まれており、これらのテープドライブが TapePlex
内の複数の ACS で定義されている場合、スクラッチマウントの要求には VM:Tape 割り振り
出口のインストールが必要になります。たとえば、構成に 2 つの 9840C テープドライブが含ま
れており、1 つは ACS00 で定義され、もう 1 つは ACS01 で定義されているとします。

VM:Tape 割り振り出口をインストールするには、次の手順を実行します。

1. *SMCVMTAP* サンプルファイルを、*SMCVMTAP EXEC* のファイル名とファイルタイプで
VMTAPE の 191 ミニディスクにコピーします。このファイル内の VM Client 仮想マシン ID
の変更が必要な場合があります。
2. *VMTAPE* 構成ファイルを変更して割り振り出口を有効にします。例:

```
EXIT ALLOCATE SMCVMTAP EXEC
```

3. *VMTAPE* の *PROFILE EXEC* を変更して VM Client の実行ディスクにアクセスし、*SMCALLOC EXEC* を実行して必要なプログラムをストレージにロードします。*VMTAPE* 起動 *EXEC* を呼び出す前に、これらのコマンドが含まれていることを確認してください。
例:

```
CP LINK VSMC730A 202 202 RR  
ACCESS 202 J  
EXEC SMCALLOC
```

第8章 メッセージ

この章では、VM Client によって発行されるシステムメッセージについて説明します。これらのメッセージは、SMC 接頭辞で識別されます。

メッセージの説明

SMC0000

{{CCCCCCCC}} command string

レベル: 0

説明: VM Client がオペレータの仮想マシンから入力コマンドを受信しました。コマンド文字列のあとに仮想マシン ID が表示されます (可能な場合)。

システムアクション: なし。

ユーザーの対応: なし。

SMC0001

VM Client Vn.n.n system initializing

レベル: 0

説明: VM Client バージョン n.n.n のシステム初期化プロセスが開始されました。

システムアクション: なし。

ユーザーの対応: なし。

SMC0002

CCCCCCCCCCCC failed; return code=XXXX, reason code=XXXX

レベル: 0

説明: オペレーティングシステム機能 CCCCCCCCCC が完了し、指定されたゼロ以外のリターンコードと理由コードが返されました。

システムアクション: エラーのタイプによっては、開始または終了の続行が試みられることがあります。

ユーザーの対応: *SYSLLOG* で IBM 関連のメッセージを探し、該当する IBM ドキュメントの説明を参照してください。

SMC0005

Invalid command CCCCCCCC [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: 未定義のコマンド *CCCCCCCC* が VM Client によって検出されました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0010

Unable to acquire storage for CCCCCCCC; return code=XXXX

レベル: 0

説明: 初期化中に、SMC サブシステムは、指定された動的制御ブロックまたはモジュール *CCCCCCCC* のための十分なストレージを取得できませんでした。

システムアクション: SMC サブシステムは終了します。

ユーザーの対応: 使用可能な CSA ストレージが十分あることを確認します。該当する IBM ドキュメントのリターンコード *XXXX* の説明を参照してください。

SMC0011

Load failed for module MMMMMMMM

レベル: 0

説明: SMC サブシステムは、必要なモジュール *MMMMMMM* をロードできませんでした。

システムアクション: SMC サブシステムは終了します。

ユーザーの対応: SMC 起動プロシージャが、その STEPLIB 連結内のすべての SMC 分散ロードライブラリにアクセスできることを確認します。

SMC0013

TRACE settings:

CCCC....CCCC

レベル: 0

説明: *TRACE* コマンドが *LIST* キーワードとともに指定されました。*SMC0013* の複数行メッセージには、VM Client の現在の設定が一覧表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0014

*Unmatched [quote|or invalid parenthesis] detected; command ignored
[at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]*

レベル: 0

説明: VM Client が、囲んでいる引用符が閉じられていない文字列、または無効な括弧や不揃いの括弧を含むコマンドを検出しました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0015

*Invalid keyword KKKKKKKK for the CCCCCCCC command[at line nnnn of
SMCCMDS|SMCPARMS]*

レベル: 0

説明: VM Client が、無効なキーワード *KKKKKKKK* を指定するコマンドを検出しました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0016

*Invalid value VVVVVVVV for keyword KKKKKKKK of the CCCCCCCC command [at
line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]*

レベル: 0

説明: VM Client が、キーワード *KKKKKKKK* を無効な値 *VVVVVVVV* とともに指定するコマンドを検出しました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0017

Keyword KKKKKKKK of the CCCCCCCC command requires a value [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: VM Client が、キーワード *KKKKKKKK* を (ほとんどのキーワードに必要な) 付随する値なしで指定するコマンドを検出しました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0018

Keyword KKKKKKKK of the CCCCCCCC command is not allowed for EEEEEEEE [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: SMC が、現在のオペレーティング環境 *EEEEEEEE* では有効でないキーワード *KKKKKKKK* を指定するコマンドを検出しました。たとえば、ユーザーが JES2 と JES3 のどちらを実行しているかに応じて、一部のキーワードまたは keyword=value のペアが無効になることがあります。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: 指定されたキーワードが、使用している環境で有効であることを確認します。

SMC0019

Duplicate keyword KKKKKKKK specified for the CCCCCCCC command [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: VM Client が、同じキーワード *KKKKKKKK* を複数回指定するコマンドを検出しました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0020

Keyword KKKKKKKK1 of the CCCCCCCC command is mutually exclusive with keyword KKKKKKKK2 [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: VM Client が、複数のキーワードを指定していて、そのうちの 2 つ (*KKKKKKKK1* と *KKKKKKKK2*) が相互に排他的であるコマンド *CCCCCCCC* を検出しました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0022

Invalid format or missing keywords for the CCCCCCCC command [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: VM Client が、コマンド行に含まれるキーワードが多すぎるか、または少なすぎるコマンド *CCCCCCCC* を検出しました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0023

CCCCCCCC command successfully processed [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: *CCCCCCCC* コマンドが VM Client によって正常に検証および処理されました。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0024

VM Client system initialization complete; RC=nn

レベル: 0

説明: VM Client のシステム初期化プロセスが完了してリターンコードが示され、VM Client システムが要求を受け入れる準備ができています。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0025

No {CCCCCCCC|control block} entries to list

レベル: 0

説明: コマンド CCCCCCCC が LIST キーワードとともに指定されました。ただし、指定されたコマンドの VM Client キュー内にエントリが見つかりませんでした。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0027

Keyword KKKKKKK1 of the CCCCCCCC command requires keyword KKKKKKK2 [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: VM Client が、キーワード KKKKKKK1 を指定するコマンドを検出しましたが、相互に必要なキーワード KKKKKKK2 が指定されていません。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認するか、または修正したコマンドを入力します。

SMC0029

CCCCCCCC command processing error; [matching entry not found|command line truncated; will be ignored|parameter truncated; command ignored] [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: `CCCCCCCC` コマンドの処理中にエラーが見つかりました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認して、修正したコマンドを入力します。

SMC0034

VM Client startup parameter PPPPPPP must have a value

レベル: 0

説明: 初期化中に、VM Client システム初期化プログラムは有効な実行パラメータを検出しましたが、それは値が必要であるにもかかわらずキーワードと値のペアとして指定されていませんでした。

システムアクション: VM Client システムが終了します。

ユーザーの対応: VM Client システム初期化 `exec` を修正して、正しい実行パラメータを指定します。

SMC0035

Error processing VM Client startup parameter PPPPPPP; CCCCCCCCCCCC

レベル: 0

説明: 初期化中に、VM Client システム初期化プログラムが実行パラメータ文字列内のエラーを検出しました。文字列 `CCCCCCCCCCCC` は、検出されたエラーのタイプを示します。

システムアクション: VM Client システムが終了します。

ユーザーの対応: VM Client システム初期化起動 `exec` を修正して、正しい実行パラメータ文字列を指定します。

SMC0036

VM Client startup parameter PPPPPPP successfully processed

レベル: 0

説明: VM Client の初期化中に、実行パラメータ `PPPPPPP` が正常に検証および処理されました。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0037

Invalid VM Client startup parameters; system terminating

レベル: 0

説明: 初期化中に、VM Client システム初期化プログラムは、実行パラメータ文字列の処理エラーを検出しました。

システムアクション: VM Client システムが終了します。

ユーザーの対応: サービスマシンログで VM Client 関連のメッセージを探します。関連するメッセージには、SMC0033 SMC0034、または SMC0035 があります (ただし、これらに限定されるわけではありません)。

SMC0041

{Command|Comment} beginning at line nnnn of {SMCCMDS|SMCPARMS} is unterminated

レベル: 0

説明: 入力コマンドファイルの行 *nnnn* から始まるコマンドまたはコメントが継続文字 (+) で終了しましたが、続きが見つかりませんでした。

システムアクション: 処理が続行されます。終了していない文字列を含むコマンドは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセット内の構文が正しいことを確認します。

SMC0053

***** VM Client U1099 ABEND AT CCCCCCCCn *****

レベル: 0

説明: VM Client タスクが、モジュール CCCCCCCC 内で、異常終了シーケンス番号 *n* で異常終了しました。

システムアクション : TMI 要求の処理中に異常終了が発生した場合、要求は処理されません。

ユーザーの対応: 関連するログとダンプを保存して、StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

SMC0056*nn bytes:*

AAAAAAA +0000 | XX..XX XX..XX XX..XX XX..XX | CC..CC |

レベル: 0

説明: VM Client *LlSt* コマンドが発行されました。*SMC0056* の複数行メッセージには、*nn* バイトのストレージが変換済みの 16 進数 (*XX.XX*) と文字 (*CC.CC*) の形式で一覧表示されます。各行には、16 進数アドレス *AAAAAAA* で始まる次の 16 バイトのストレージが一覧表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0057*No {SMCPARMS|SMCCMDS} DDNAME statement found*

レベル: 0

説明: VM Client の初期化中に、指定された *SMCPARMS DD* または *SMCCMDS DD* が VM Client の起動 *exec* 内にありませんでした。

システムアクション: 初期化を続行します。

ユーザーの対応: なし

SMC0058*Error opening {DDNAME {SMCPARMS|SMCCMDS}|DSNAME DDDDDDD}*

レベル: 0

説明: VM Client が *READ* コマンドを検出しましたが、指定された *DDNAME* または *DSNAME* を開くことができませんでした。

システムアクション: *READ* コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: ログで IBM 関連のメッセージを探し、該当する IBM ドキュメントで詳細を参照してください。

SMC0060*I/O error reading {DDNAME {SMCPARMS|SMCCMDS}|DSNAME DDDDDDD}*

レベル: 0

説明: VM Client が、VM Client 起動 exec で指定された *SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセット、あるいは *READ* コマンドで指定されたデータセットを読み取ろうとしているときに I/O エラーを受信しました。

システムアクション: 示されたデータセットは処理されません。

ユーザーの対応: 正しいデータセット名を指定します。

SMC0061

Command beginning at line nnnn of {SMCCMDS|SMCPARMS} is too long; input ignored

レベル: 0

説明: VM Client が、指定されたファイルの行 *nnnn* から始まる複数行コマンドを検出しました。このコマンドは、長さが 1024 文字を超えています。

システムアクション: 処理が続行されます。複数行の全体が無視されます。

ユーザーの対応: コマンドデータセットの構文が正しいことを確認します。

SMC0062

Command CCCCCCCC [with parameter PPPPPPPP] is not allowed [{from console|at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS}]

レベル: 0

説明: VM Client が、示されたコマンド起点ではサポートされていないコマンドまたはコマンドパラメータを検出しました。

システムアクション: そのコマンドは無視されます。

ユーザーの対応: 有効なコマンド起点からコマンドを発行します。

SMC0063

MSGDEF settings:

CCCC....CCCC

レベル: 0

説明: *MSGDEF* コマンドが *LIST* キーワードとともに発行されました。*SMC0063* の複数行メッセージには、VM Client の現在の設定が一覧表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0084

MMM DD YYYY HH:MM:SS UUUUUUUU active on hostid VVVVVVVV

レベル: 0

説明: 日付 (MMMM DD YYYY)、時間 (HH:MM:SS)、サービスマシンのユーザー ID (UUUUUUUU)、および hostid (VVVVVVVV) が 1 日 1 回、深夜の VM Client 初期化中に表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0086

SMC system tasks:

```
A(PCE) Thread Use C-S Userid Last
-----
AAAAAAAA TTTTTT UUUUUU C-S UUUUUUUU TTTTTTTT
```

レベル: 0

説明: VM Client *LISt TASKs* コマンドが発行されました。SMC0086 複数行メッセージには、すべての VM Client タスクの *SMCPCE* アドレス、スレッド ID、使用カウント、および現在のステータス情報が一覧表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0088

*Unable to [acquire/release] resource CCCCCCCC; attempt by VVVVVVVV
XXXXXXXXX1 owned by XXXXXXXX2*

レベル: 0

説明: 共有された VM Client リソースを正常に取得または解放できませんでした。仮想マシン VVVVVVVV を保守するタスクがリソースを取得または解放しようとしていますが、別のタスクがそのリソースを保持しているためできません。

システムアクション: 仮想マシン VVVVVVVV への要求は正しく処理されない可能性があります。

ユーザーの対応: StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

SMC0093

TCPIP SETTINGS:

```
CCCC...CCCC  
TCPIP TCPNAME=CCCCCCCC
```

レベル: 0

説明: TCPIP *LIst* コマンドが発行されました。*SMC0093* の複数行メッセージには、VM Client システムの現在の設定が一覧表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0105

Keyword KKKKKKKK of the CCCCCCCC command is required

レベル: 0

説明: コマンド *CCCCCCC* が、必要なキーワード *KKKKKKKK* なしで発行されました。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: 必要なキーワードを指定してコマンドを再発行します。

SMC0113

SERVER=SSSSSSSS CCCCCCCC

```
Status={active|never active|inactive|disabled}  
Errors=nnnn  
Messages=nnnn  
Retries=nnnn
```

レベル: 0

説明: *SErVer* コマンドが *LIST* キーワードとともに発行されました。*SMC0113* の複数行メッセージには、VM Client に対して定義されている各サーバーのサーバー設定とステータスが一覧表示されます。パラメータの説明については、*SErVer* コマンドを参照してください。

- *STATUS* は、サーバーのステータスを示します。
- *Errors* は、このサーバーに関するエラーの総数を示します。
- *Messages* は、このサーバーパス上の論理的なメッセージ (ボリューム検索要求、マウント、マウント解除) の数を示します。

- Retries は、試行されたメッセージ再試行の回数を示します。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0116

Cannot find TAPEPLEX P P P P P P P P for SERVER S S S S S S S S [at line n n n n of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: *SERVER* コマンドが、事前に定義されていない TapePlex 名とともに発行されました。

システムアクション: このサーバーは追加も更新もされません。

ユーザーの対応: *TAPEPLEX* コマンドを指定して TapePlex を定義し、*SERVER* コマンドを指定します。

SMC0117

Cannot change TAPEPLEX name for existing SERVER S S S S S S S S [at line n n n n of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: *SERVER* コマンドが既存のサーバーの名前および TapePlex 名とともに発行されましたが、既存のサーバーの TapePlex 名と新しいコマンドの TapePlex 名が一致しませんでした。

システムアクション: そのコマンドは拒否されます。

ユーザーの対応: TapePlex 名を省略するか、TapePlex 名を既存のサーバーに一致するように変更するか、あるいはサーバー名を変更して新しいサーバーを指定の TapePlex に追加します。

SMC0119

SERVER C C C C C C C C now disabled

レベル: 0

説明: VM Client が *FAIL* カウントを超える TCP/IP エラーを検出しました。無効化の理由については、前述の *SMC0128/SMC0129* メッセージを参照してください。

システムアクション: なし。関連付けられたライブラリに対して追加のサーバーパスが定義されていない場合、そのライブラリハードウェアにはアクセスできなくなります。

ユーザーの対応: TCP/IP ネットワーク、サーバー、ホストオペレーティングシステムに関する問題を修正し、SERVer に対して再度 ENABLE を実行します。

SMC0123

Drive range mismatch between CLient(XXXX1-XXXX2) and SERVER (XXXX3-XXXX4)

レベル: 0

説明: DRIVemap コマンドが発行されました。指定された CLient 範囲のいずれかが、対応する SErver 範囲の形式に一致しませんでした。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: CLient パラメータと SErver パラメータの形式およびドライブの数が対応していることを確認して、コマンドを再発行します。

SMC0128

TapePlex error:

```
{Fatal comm error detected|
Initialization error number nn or {nn|unlimited}|
Comm error number nn of {nn|unlimited}
Comm error limit exceeded}
USER=UUUUUUUU TASK=XXXXXXXXXX {MSG=XXXXXXXXX}
TAPEPLEX=TTTTTTTT SERVER=SSSSSSSS REQUEST=FFFF
{Client {IP=NNN.NNN.NNN.NNN} socket=NN port={nnnn|ANY}}
{Server IP=NNNN.NNNN.NNNN.NNNN port=nnnn}
{Bytes out=nnnn in=nnnn}
{Error=EEEE...EEEE}
{Reason=RRRR...RRRR}
{Response from STK HTTP server follows: HHHH...HHHH}
VM Client comm RC=nnnn
```

レベル: 0

説明: VM Client が、TapePlex と通信しようとしているときにインタフェースまたは通信エラーを検出しました。SMC0128 の複数行メッセージには、最初に VM ユーザー ID、トランザクションタイプ、およびエラーに関連付けられた TapePlex 名、そのあとに通信エラーと理由文字列が一覧表示されます。

理由文字列の例には次のものがあります。

- 特定の TCP/IP 機能エラー (接続、送信、受信など)
- データエラー (不完全または無効なデータ応答)
- HSC サーバー機能エラー

- SMC HTTP サーバーエラー

特定の通信エラーによって、次のような HTTP サーバー全体の応答が表示されることがあります。

HTTP 1.0 401 Unauthorized

- メッセージに *Comm error limit (nnn)* の超過が示されている場合、*SMC0128* メッセージのあとに *SMC0119* メッセージが表示され、VM Client によってサーバーパスが無効にされます。
- メッセージに初期化エラーが示されている場合は、指定されたサーバーパスへの正常な通信の前にエラーが発生しました。このようなエラーは、サーバーパス上の累積エラーカウントにはカウントされず、指定されたサーバーは VM Client によって自動的に無効にされません。また、初期化エラーメッセージは要求ごとに生成されるのではなく、そのパスが正常にアクティブ化されるまで 5 分間隔で生成されるだけです。

システムアクション: 割り当てまたはマウントイベントが VM Client によって処理されない可能性があります。

ユーザーの対応: 示されたエラー理由を使用して、問題の原因を特定します。

SMC0129

{ERROR|WARNING}: No cartridge transport(s) for XXXX1- [XXXX2] for {UNITATTR|DRIVEMAP} {ADDRESS|CLIENT}

レベル: 0

説明: UNITATTR または DRIVEMAP コマンドが、デバイス XXXX1 または範囲 XXXX1-XXXX2 を指定して発行されました。指定されたどのデバイスも MVS で定義されたカートリッジトランスポートデバイスではありません。

システムアクション:

- メッセージに *ERROR* が示されている場合、このコマンドは処理されません。
- メッセージに *WARNING* が示されている場合、VM Client はこの値を格納し、それを使用して、MVS で定義されていない RTD デバイスのアドレスを変換する可能性があります。

ユーザーの対応: コマンドで指定されたデバイスを確認し、それが正しくない場合はコマンドを再発行します。

SMC0133

TAPEPLEX=PPPPPPPP

```
CCCC...CCCC
Status={disabled|active|inactive|never active}
Requests=nnnn
[SERVER=SSSSSSSS
Status={disabled|active|inactive|never active}]
```

レベル: 0

説明: **TAPEPLEX** コマンドが **LIST** キーワードとともに発行されました。**SMC0133** の複数行メッセージには、VM Client に対して定義されている各 TapePlex のパラメータとステータスが一覧表示されます。オプションで、**SERVERlist** キーワードが指定された場合は、この TapePlex に関連付けられたすべてのサーバーのサーバーステータスも表示されます。

- TapePlex の status は、TapePlex のステータスを示します。
 - disabled は、オペレータコマンドによって TapePlex が無効にされていることを示します。
 - active は、この TapePlex への最後の通信が成功したことを示します。
 - inactive は、この TapePlex への通信パスが以前はアクティブであったが、現在はアクティブでなくなっていることを示します。
 - never active は、この TapePlex への通信パスが一度も正常に確立されたことがないことを示します。
- Requests は、指定された TapePlex に送信された要求 (構成、ボリューム検索、マウント、マウント解除、およびスワップ) の総数を示します。

SERVER キーワードが指定された場合は、この TapePlex に対して定義されている各サーバーパスも、そのステータスとともに表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0135

Mount/dismount message from TAPEPLEX=PPPPPPPP SERVER=SSSSSSSS

レベル: 0

説明: **ECHOMNTERR(ON)** オプションが有効になっています。HSC TapePlex に対してマウントまたはマウント解除が実行されましたが、正常に完了しませんでした。**SMC0135** メッセージは、マウントまたはマウント解除が要求された TapePlex 名とサーバー名を示します。**SMC0136** メッセージは、単に VM Client 上の HSC サーバーのマウントまたはマウント解除メッセージをエコーします。

注:

メッセージ *SMC0135* および *SMC0136* は、メッセージレベルが 12 以上である場合は、*ECHOMNTERR* の設定には関係なくすべてのマウントおよびマウント解除エラーに対して発行され、またメッセージレベルが 16 以上である場合は、すべての HSC マウントおよびマウント解除メッセージに対して発行されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: HSC マウントまたはマウント解除メッセージに示されている問題を修正します。

SMC0136

HSC mount or dismount message

レベル: 4

説明: *ECHOMNTERR(ON)* オプションが有効になっています。HSC TapePlex に対してマウントまたはマウント解除が実行されましたが、正常に完了しませんでした。*SMC0135* メッセージは、マウントまたはマウント解除が要求された TapePlex 名とサーバー名を示します。*SMC0136* メッセージは、単に VM Client 上の HSC サーバーのマウントまたはマウント解除メッセージをエコーします。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: HSC マウントまたはマウント解除メッセージに示されている問題を修正します。

SMC0138

XML {input|output} parse error RC=nnn; transaction=TTTTTTTT {TAPEPLEX|STORMNGR}=PPPPPPPP

レベル: 0

説明: SMC が XML 解析エラーを検出しました。入力 XML トランザクションを解析できないときは、入力 XML エラーが生成されます。

トランザクション応答データを XML に変換できないときは、出力 XML エラーが発生します。

システムアクション: エラーのタイプやサーバーの特性によっては、割り当てまたはマウントイベントが SMC によって処理されない可能性があります。

ユーザーの対応: StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

SMC0160

Invalid range XXXX1-XXXX2 for keyword ADDRESS of the UNITATTR command

レベル: 0

説明: *UNITATTR* コマンドが、デバイス範囲 *XXXX1-XXXX2* を指定して発行されました。ここで、*XXXX1* は *XXXX2* より大きい値です。

システムアクション: *UNITATTR* コマンドは、このデバイス範囲を処理しません。

ユーザーの対応: 有効な範囲を指定してコマンドを再発行します。

SMC0161

Restoring all default settings for the CCC...CCC command

レベル: 0

説明: *CCC...CCC* コマンドが *OFF* パラメータとともに発行されました。すべての *CCC...CCC* の値が VM Client システムに対して復元されています。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0162

CCC...CCC object successfully {added|updated|deleted}

レベル: 0

説明: *CCC...CCC* コマンドが正常に処理されました。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0163

DRIVEMAP settings:

CLIENT=XXXX1{-XXXX2} SERVER=XXXX3{-XXXX4}

レベル: 0

説明: *DRIVEMAP* コマンドが *LIST* キーワードとともに発行されました。*SMC0163* の複数行メッセージには、現在アクティブな *DRIVEMAP* が一覧表示されます。クライアント/サーバーの範囲ごとに 1 行が生成されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0164

CLIENT range XXXX1{-XXXX2} not found for the OFF keyword of the DRIVEMAP command

レベル: 0

説明: *DRIVEMAP* コマンドが *OFF* パラメータおよび *CLIENT* パラメータとともに発行されました。*CLIENT* パラメータに一致する *DRIVEMAP* 範囲が見つかりませんでした。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0165

Keyword {CLIENT/SERVER} range XXXX1{-XXXX2} overlaps with previous DRIVEMAP entry

レベル: 0

説明: 以前に発行された *DRIVEMAP* コマンドで指定された範囲と重複するクライアントまたはサーバーの範囲を含む *DRIVEMAP* コマンドが発行されました。

システムアクション: *DRIVEMAP* コマンドは処理されません。

ユーザーの対応: *DRIVEMAP LIST* コマンドを発行して、現在アクティブな *DRIVEMAP* 範囲のリストを表示します。新しい範囲を指定するように *DRIVEMAP* コマンドを修正します。または、*DRIVEMAP CLIENT(XXXX1-XXXX2) OFF* コマンドを使用して既存の重複した範囲を非アクティブ化し、一意の範囲を使用してコマンドを再度指定します。

SMC0166

Excessive READ depth at line nn of DSN DDDDDDDD

レベル: 0

説明: ファイルから *READ* コマンドが発行されました。ただし、すでに開かれているコマンドファイルが多すぎるため、*READ* コマンドの深度を超えました。*READ* コマンドの深度は、組み込みの *READ* コマンドのために、同時に開くことのできるファイルの数として定義されます。

システムアクション: *READ* コマンドは処理されません。

ユーザーの対応: *READ* コマンドの深度を減らすようにコマンドファイルを再構築し、参照されるファイルに再帰的なループが含まれないようにします。

SMC0167

CCCCCC summary:

```
TAPEPLEX PPPPPPP is {disabled|inactive|active on
server SSSSSSS}
{All TAPEPLEX(s) active|
n of n TAPE TAPEPLEX(s) active|
WARNING: All TAPEPLEX(s) inactive|
WARNING: No TAPEPLEX(s) defined|
WARNING: No TAPEPLEX(s) enabled}
```

レベル: 0

説明: CCCCCCC コマンドが発行され、TapePlex の再同期が実行されました。各 TapePlex が複数行 WTO 内の 1 行で表され、そのステータスが表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0172

Specified TAPEPLEX PPPPPPP not {defined|HSC|active|enabled|valid for UUI}

レベル: 0

説明: VM Client コマンドが TAPEPLEX PPPPPPP を指定して発行されました。ただし、TAPEPLEX が VM Client に対して定義されていないか、または適格でないため、このコマンドを完了できません。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: 有効な TAPEPLEX を指定するか、あるいは TAPEPLEX ステータスを修正してコマンドを再発行します。

SMC0173

Response from {TAPEPLEX|STORMNGR} PPPPPPP:

```
cccc...cccc
Response RC=nn
```

レベル: 0

説明: TAPEPLEX または STORMNGR PPPPPPP を指定する VM Client *Route* コマンドが発行されました。SMC0173 メッセージには、TAPEPLEX または STORMNGR の名前に続けて応答が表示されたあと、コマンドのリターンコードを表示する SMC0173 メッセージで終了します。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0175

Communication initialized on TAPEPLEX=name SERVER=name

レベル: 0

説明: VM Client が、指定された TapePlex との初回の通信に成功しました。

システムアクション: 処理が続行されます。

ユーザーの対応: なし

SMC0176

No active TAPEPLEX(s) for DISPLAY command

レベル: 0

説明: VM Client *DISPLAY* コマンドが入力されました。ただし、VM Client はどの TapePlex ととも通信を確立できません。

システムアクション: *DISPLAY* (または *QUERY*) *VOLUME* が入力された場合は、要求を送信する TapePlex が存在しないため、このコマンドは終了します。*DISPLAY* (または *QUERY*) *DRIVE* コマンドが入力された場合は、ドライブ情報に TapePlex 所有権が反映されない可能性があります。ありますが、このコマンドは続行されます。

ユーザーの対応: なし

SMC0177

VM Client {DISPLAY|QUERY} VOLUME

Volser TapePlex Location Media Rectech Scr Volume Data

VVVVVV PPPPPPPP {AA:LL} MMMMMMMM RRRRRRRR SSS DDDDDDDD

レベル: 0

説明: VM Client *DISPLAY* (または *QUERY*) *VOLUME* コマンドが入力されました。*SMC0177* メッセージには、要求に一致する *volser* が一覧表示されます。表示されるボリュームの *Rectech* には、ボリュームのメディアタイプ、サーバーの *VOLATTR* 設定 (ある場合)、および密度などのボリュームデータの組み合わせが反映されます。たとえば、*STK1RC* の *Rectech* が表示されているボリュームは、*STK1RC* の *RECTECH* を指定するサーバーの *VOLATTR* が設

定されている場合もあれば、9840Cドライブ上にスクラッチとしてマウントされていることがわかっている場合もあります。Scratch ステータスは「Yes」または「No」として表示されます。ボリュームの Volume Data には、HSC CDS 内に格納されているそのボリュームの既知の密度と暗号化の特性が反映されています。Volume Data *DEN=1* から *DEN=3* は、それぞれ低密度、高密度、最高密度を意味しています。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0178

VM Client {DISPLAY|QUERY} DRIVE

```

Addr TapePlex Location          Model    Serv VM Client Status
-----
AAAA P P P P P P P P {AA:LL:PP:DD}  M M M M M M M M S S S S C C C C C C C C

```

または:

```

Addr TapePlex Location          Model    Serv S Serial Number
-----
AAAA P P P P P P P P {AA:LL:PP:DD}  M M M M M M M M S S S S Z N N N N N N N N N N N N

```

レベル: 0

説明: VM Client *DISPLAY* (または *QUERY*) *DRIVE* コマンドが入力されました。*SMC0178* メッセージには、要求に一致するドライブが一覧表示されます。アドレス *AAAA* には、CP に認識されているドライブアドレスが反映されます。VM Client は、ドライブの VM Equivalency ID (EQID) と XAPI 構成要求で返されたシリアル番号を一致させようとしています。処理されない場合は、*DRIVEMAP* エントリを使用してサーバーアドレス (*SSSS*) がクライアントアドレス (*AAAA*) にマッピングされます。

DISPLAY DRIVE IDentity オプションは、「VM Client Status」フィールドを「S Serial Number」で置き換えます。ここでは:

- Z は、シリアル番号のソースまたはステータスを識別します。
 - NNNNNNNNNNNN - ドライブシリアル番号、または使用できない場合は空白
 - M - XAPI 構成に一致した EQID シリアル番号
- NNNNNNNNNNNN - ドライブシリアル番号、または使用できない場合は空白

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0179

{TAPEPLEX|ESOTERIC} VVVVVVV not defined for CCCCCCCC

レベル: 0

説明: TAPEPLEX または ESOTERIC VVVVVVV を指定する CCCCCCCC コマンドが入力されました。ただし、VVVVVVV が SMC または MVS に対して定義されていません。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: 指定されたコマンドを修正して再入力します。

SMC0189

CCCCCCCC entry EEEEEEE not found for {list|update|delete}

レベル: 0

説明: エントリ EEEEEEE の一覧表示、削除、または更新を指定する CCCCCCCC コマンドが入力されました。ただし、EEEEEEE に一致するエントリが見つかりませんでした。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: CCCCCCCC コマンドを LIST オプションとともに発行して、すべての CCCCCCCC エントリを一覧表示します。次に、正しいエントリ名を指定してコマンドを再発行します。

SMC0190

CCCCCCCC 00000000 set to {ON|OFF|XXXXXXXX}

レベル: 0

説明: オプション 00000000 を ON、OFF、または指定された値 XXXXXXXX に設定するように指定する CCCCCCCC コマンドが入力されました。1 つの CCCCCCCC コマンドで複数のオプションが指定された場合は、指定されたオプションごとに 1 つずつ、複数の SMC0190 メッセージが発行されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

注:

SMC0190 メッセージは、MSGDef VERBose(ON) が指定されている場合にのみ表示されます。

SMC0191

CCCCCCCC 00000000 set to {ON|OFF|XXXXXXXX} for entry EEEEEEEE

レベル: 0

説明: CCCCCCCC のエントリ EEEEEEEE に対して、オプション 00000000 を ON、OFF、または指定された値 XXXXXXXX に設定するように指定する CCCCCCCC コマンドが入力されました。1 つの CCCCCCCC コマンドで複数のオプションが指定された場合は、指定されたオプションごとに 1 つずつ、複数の SMC0191 メッセージが発行されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

注:

SMC0191 メッセージは、MSGDef VERBose(ON) が指定されている場合にのみ表示されます。

SMC0195

READ processing started for {SMCPARMS|SMCCMDS|data set name}

レベル: 0

説明: VM Client が、指定されたファイル内のコマンドの処理を開始しました。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0196

READ processing complete; RC=nn from {SMCPARMS|SMCCMDS|data set name}

レベル: 0

説明: VM Client が、指定されたファイル内のコマンドの処理を完了しました。どのコマンドも、最大のリターンコードは nn です。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

注:

SMC0196 メッセージは、VM Client MSGDef VERBose(ON) が指定されている場合にのみ表示されます。

SMC0203

COMMTEST:

```
USER=UUUUUUUU TASK=XXXXXXXXXXXXXXXXX {MSG=XXXXXXXXX}
TAPEPLEX=LLLLLLLL SERVER=SSSSSSSS REQUEST=FFFF
Client {IP=NNN.NNN.NNN.NNN} socket=NN port={nnnn|ANY}
Server IP=NNNN.NNNN.NNNN.NNNN port=nnnn
Bytes out=nnnn in=nnnn
Error=EEEE...EEEE
Reason=RRRR...RRRR
{Response from STK HTTP server follows: HHHH...HHHH}
Current LIBPATH status=
{active|inactive|never active|disabled}
VM Client comm RC=nnnn elapsed time=nn.nn
```

レベル: 0

説明: *COMMtest* コマンドが入力されました。*SMC0203* メッセージは、試行された通信パスごとに表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0204

No eligible COMMPATH(s) found

レベル: 0

説明: *COMMtest* コマンドが入力されましたが、指定された *TAPEplex*、*SERver*、ステータスの各パラメータにより、テスト用に適切な通信パスが選択されませんでした。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: *COMMtest* コマンドを修正して再発行します。

SMC0205

Disabling bind to PORTRANGE nnnn-nnnn; any ephemeral port will be used

レベル: 0

説明: *TCPip PORTrange (OFF)* コマンドが入力されました。ソケットは *nnnn-nnnn* の固定されたポート範囲にバインドされなくなりますが、任意の一時的なポートが使用されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0206

No PORTRANGE currently defined

レベル: 0

説明: *TCPip PORTrange (OFF)* コマンドが入力されましたが、現在、どのアクティブな *PORTrange* も無効にするように指定されていません。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0207

Specified SERVER SSSSSSSS not {found|defined for TAPEPLEX=TTTTTTTTT}

レベル: 0

説明: 特定の TapePlex とサーバーを指定する *COMMtest* コマンドが入力されました。ただし、そのサーバーが VM Client に対して定義されていないか、指定された TapePlex に対して定義されていません。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: *COMMtest* コマンドを修正して再発行します。

SMC0226

Path switch from server=SSSSSSSS to PPPPPPPP for TAPEPLEX=TTTTTTTT

レベル: 0

説明: VM Client が、TAPEPLEX *TTTTTTTT* の通信パスをセカンダリサーバー *SSSSSSSS* からプライマリサーバー *PPPPPPPP* に自動的に切り替えました。

システムアクション: 処理が続行されます。

ユーザーの対応: なし

SMC0227

Keyword KKKKKKKK of the CCCCCCCC command ignored; RRRRRRRR

レベル: 0

説明: *CCCCCCCC* コマンドで、受け入れられなくなったキーワードが指定されました。キーワード *KKKKKKKK* は、この製品の現在のバージョンで廃止されているか、または現在の処理環境では受け入れられない可能性があります。

システムアクション: キーワード *KKKKKKKK* とそれに関連付けられたすべての値が破棄されますが、コマンドの残りの部分は引き続き処理されます。

ユーザーの対応: このキーワードが現在のリリースで廃止されている場合は、今後のリリースでエラーとしてフラグが付けられ、コマンド全体が無効にされる可能性があるため、コマンドからこのキーワードを削除します。

SMC0228

Copyright nnnn, nnnn, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved

レベル: 0

説明: VM Client システムを初期化しています。

システムアクション: 処理が続行されます。

ユーザーの対応: なし

SMC0232

Warning: No TAPEPLEX command processed

レベル: 0

説明: VM Client システムが初期化を完了しましたが、*TAPEPLEX* コマンドが *SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセットのどちらにも見つかりませんでした。

システムアクション: 処理が続行されます。

ユーザーの対応: *TAPEPLEX* および *SERVER* コマンドを入力します。

SMC0236

CCC...CCC command RC=XX exceeds MAXRC=NN at startup

レベル: 0

説明: VM Client が *MAXRC* 起動パラメータで起動され、VM Client の初期化中に、*CCC...CCC* コマンドが *MAXRC* の指定を超える完了コードを返しました。

システムアクション: *SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセットで指定されたコマンドの残りの部分について処理を続行します。ただし、VM Client システムの初期化は、*SMCPARMS* または *SMCCMDS* 処理の完了時に *SMC0237* メッセージで終了します。

ユーザーの対応: 指定された *CCC...CCC* コマンドを修正し、VM Client を再起動します。

注:

前の *SMC0236* メッセージには関係なく、*SMCPARMS* および *SMCCMDS* データセット内のすべての VM Client コマンドが起動時に処理されるため、起動時には複数の *SMC0236* メッセージが生成される可能性があります。

SMC0237

VM Client terminating due to MAXRC=nn exceeded at startup

レベル: 0

説明: VM Client が *MAXRC* 起動パラメータで起動され、VM Client の初期化中に、*SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセット内の VM Client コマンドが *MAXRC* の指定を超える完了コードを返したことを示す *SMC0236* メッセージが発行されました。

システムアクション: VM Client は終了します。

ユーザーの対応: エラー状態にあるコマンドを示す *SMC0236* メッセージがないかどうかを VM Client ログで確認し、示されたコマンドを修正し、VM Client を再起動します。

SMC0242

Cannot add STORMNGR CCC...CCC before TAPEPLEX(es)

レベル: 0

説明: *STORMNGR* コマンドは、*TAPEPLEX* コマンドのあとに入力する必要があります。

システムアクション: 処理が続行されます。

ユーザーの対応: *TAPEPLEX* コマンドは、*STORMNGR* コマンドの前に入力します。

SMC0243

CCCCCCC command specifies {TAPEPLEX|STORMNGR} NNNNNNNN; but NNNNNNNN is a {STORMNGR|TAPEPLEX} [at line nnnn of {SMCCMDS|SMCPARMS}]

レベル: 0

説明: *CCCCCCC* コマンドが入力され、示された *TAPEPLEX* または StorageTek Storage Manager が指定されました。ただし、*NNNNNNNN* が、記述されているエンティティのタイプではありません。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: エンティティタイプを *TAPEPLEX* から *STORMNGR* またはその逆に変更し、コマンドを再発行します。

SMC0244

METADATA command not supported for {non-UUI origin|non-XML responses|command CCCC}

レベル: 0

説明: *METADATA* コマンドが処理されましたが、そのコマンドは次のいずれかの理由で無効です。

- non-UUI origin

このコマンドがオペレータコンソール、あるいは *SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセットから受信されたことを示します。*METADATA* コマンドは、UUI インタフェースからのみ許可されます。つまり *SMCUUUI* または *SMCUSIM* ユーティリティからか、あるいは UUI プログラムインタフェースからのどちらかです。

- non-XML responses

この *METADATA* コマンドが UUI インタフェースから受信されたが、XML 応答が要求されなかったことを示します。*METADATA* は、XML 応答としてのみ有効です。

- command CCCC

指定されたコマンド *CCCC* が XML 出力を生成しないため、メタデータが使用できないことを示します。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: *METADATA* コマンドを修正します。

SMC0245

Code nnnn (X'xxxx'): sssssssssss

レベル: 0

説明: 理由コード *nnnn* または 16 進数の理由コード *xxxx* を指定する *Display RC* コマンドが処理されました。対応する理由が表示されます。*DETAIL* オプションが指定された場合は、理由コードの説明も表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0260

TAPEPLEX|STORMNGR CCCCCCC compath PPPPPPP inactive; RC=RRRR, EEEEEEEEEEE

レベル: 0

説明: SMC が、指定された通信パス *PPPPPPP* を使用して TAPEPLEX または STORMNGR と通信できません。ここで、*PPPPPPP* はサーバー名または (local) です。値 *RRRR* は 10 進数のリターンコードであり、変換された説明 *EEEEEEEEEEEE* を含みます。

システムアクション: このメッセージは、定義されているローカルの通信パスまたは SERVER ごとに発行され、SMC が TAPEPLEX と通信できないかぎりスクロールできません。

ユーザーの対応: 少なくとも 1 つの通信パスについて、報告されたエラーを修正します。

SMC0261

TAPEPLEX|STORMNGR CCCCCCC inactive; no available communication paths

レベル: 0

説明: TAPEPLEX または STORMNGR *CCCCCCC* に定義された通信パスがないか、またはすべてのパスが無効のステータスになっています。

システムアクション: TAPEPLEX または STORMNGR への通信は試行されません。

ユーザーの対応: 通信パスを追加するか、または既存のローカルパスまたは SERVER を有効にします。

SMC0268

Unrecognized XML tag=TTTTTTTT for command=CCCCCCC

レベル: 0

説明: XML 形式の入力要求に、このコマンドでは有効として認識されなかったタグが含まれていました。

このメッセージは、現在のソフトウェアレベルが以前のレベルでは有効であったタグをサポートしていないか、または新しいタグをサポートするようにアップグレードされていない場合に表示されることがあります。

システムアクション: パラメータは無視されます。

ユーザーの対応: コマンドが正しく指定されていることを確認します。

SMC0269

Value=VVVVVVV is invalid type for keyword or tag=KKKKKKK in command=CCCCCCC [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: 入力コマンドに、必要なタイプではないキーワードまたは XML タグの値 (たとえば、有効な数値ではないか、またはリストを許可しないパラメータに対するリスト) が含まれていました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: エラーを修正し、要求を再度指定します。

SMC0270

Keyword or tag=KKKKKKK may not have a value in command CCCCCCC [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: 入力コマンドに、値を許可しないキーワードまたは XML タグに対する値が含まれていました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: エラーを修正し、要求を再度指定します。

SMC0271

Length of value=VVVVVVV is invalid for keyword or tag=KKKKK in command CCCCCCC [at line nnnn of SMCCMDS|SMCPARMS]

レベル: 0

説明: 入力コマンドに、必要な長さより短い、または長いキーワードまたは XML タグの値が含まれていました。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: エラーを修正し、要求を再度指定します。

SMC0272

Error parsing XML values for XML tag=TTTTTTT in command=CCCCCCCC; RC=nnn

レベル: 0

説明: XML コマンドに、表示されたタグに関連した値または解析エラーが含まれていました。解析のリターンコードは、診断のためにメッセージに含まれています。

システムアクション: 処理が続行されます。コマンドは無視されます。

ユーザーの対応: エラーを修正し、要求を再度指定します。

SMC0300

Message | Command nnnnn Help Text :

レベル: 0

説明: *Help* コマンドが発行されました。メッセージまたはコマンドのヘルプテキストが表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0301

HELP for XXXXXX not found

レベル: 0

説明: *Help* コマンドが発行されました。サブジェクト *XXXXXX* が見つかりません。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: 有効なサブジェクトを指定して *Help* コマンドを再入力します。

SMC0302

XXXXXX is an invalid range

レベル: 0

説明: *Help* コマンドが発行されました。サブジェクト *XXXXXX* は無効な範囲です。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: 有効なサブジェクトを指定して *Help* コマンドを再入力します。

SMC0805

VM Client failed setting ANCHOR: rc=nnn

レベル: 0

説明: *CMS ANCHOR SET* マクロの実行中にゼロ以外のリターンコードを受け取りました。

システムアクション: VM Client は終了します。

ユーザーの対応: StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

SMC0806

TCP/IP server available: id=YYYYYY

レベル: 0

説明: VM Client が TCP/IP ID YYYYYY との接続に成功しました。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0807

TCP/IP server is unavailable; id=YYYYYY errno=NNN errmsg

レベル: 0

説明: YYYYYY とのソケット接続を確立しようとしているときに、VM Client TCP/IP 機能がエラーを返しました。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: *SMCPARMS* ファイル内で指定されている TCP/IP ID を修正して VM Client を再起動します。TCP/IP ID が正しい場合は、StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

SMC0810

Dynamic Allocation NOT supported

レベル: 0

説明: *READ* コマンドが読み込むファイルを動的に割り当てようとした。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: 起動 *FILEDEF* から *SMCCMDS* ファイルを指定して、*READ* コマンドを再入力します。

SMC0811

cp command

レベル: 0

説明: CP コマンドからの出力が表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0812

LOG command requires CONSOLE or DISK

レベル: 0

説明: LOG コマンドで、CONSOLE または DISK の入力を求められています。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: 正しいオプションを指定した LOG コマンドを再入力してください。

SMC0813

*mmmm+nnnn - aaaaa - PSW data ppppEvent eeee - Data dddd - Thread nnnnData at
PSW addr - xxxx<>xxxx*

レベル: 0

説明: 異常終了が検出されました。

- *mmmm+nnnn* は異常終了したモジュールおよび置換を示します
- *aaaa* は異常終了コードを示します
- *pppp* は異常終了時の PSW を示します
- *eeee* はエラーイベントによって返される VMERROR データのアドレスを示します
- *dddd* はエラーイベントによって返されるデータエリアのアドレスを示します
- *nnnn* は異常終了したスレッド ID を示します
- *xxxx<>xxxx* は PSW アドレスのデータを示します
- *<>* は PSW アドレスをマークします

異常終了時のレジスタは次に従います

システムアクション: コマンドまたは TMI 要求は終了します。

ユーザーの対応: StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

SMC0814

Dump sent to nnnnn ddd dumps remain

レベル: 0

説明: *DUMP* コマンドへの応答として、または異常終了の問題のために、システムがストレージダンプを生成しました。

システムアクション: ダンプファイルがユーザー ID *nnnnn* に転送されます。

ユーザーの対応: 許可されたダンプの数 (*ddd*) が 0 に近づいたら、*DUMPOPTS RESET* コマンドを発行して許可されたダンプの数をリセットするか、ダンプの最大限度を変更するか、あるいはその両方を行います。このメッセージが *DUMP* コマンドへの応答でない場合は、StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

SMC0815

Dump not taken due to dump Max Count - nnnn

レベル: 0

説明: *DUMPOPTS* コマンドで許可された最大数のダンプが生成されました。

システムアクション: このダンプ要求は無視されます。*DUMPOPTS RESET* コマンドを受信するまで、ダンプ要求は受け付けられません。

ユーザーの対応: *DUMPOPTS RESET* コマンドを発行して取得するダンプの数をリセットするか、ダンプの最大限度を変更するか、あるいはその両方を行います。

SMC0816

DUMPOPTS settings:

DUMPS TAKEN=*tttt*
DUMPS MAX COUNT=*mmmm*
TO=*uuuuuuuuu*

レベル: 0

説明: *DUMPOpts* コマンドが *LIST* キーワードとともに発行されました。*DUMPOPTS* 設定が一覧表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0817

LOG settings:

CONSOLE=ON|OFF
CLASS=c
TO=uuuuuuuu
DISK=ON|OFF
FM=a

レベル: 0

説明: LOG コマンドが LIST キーワードとともに発行されました。LOG 設定が一覧表示されま
す。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0818

OPERATOR settings:

ID=uuuuuuuuu

レベル: 0

説明: OPERator コマンドが LIST キーワードとともに発行されました。OPERATOR 設定が一覧
表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0819

Disk FM mis READONLY

レベル: 0

説明: FM パラメータに指定されたディスクが読み取り専用です。ディスクは書き込み可能であ
る必要があります。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: 正しいパラメータを指定してコマンドを再入力してください。

SMC0820

Disk FM mis not defined

レベル: 0

説明: FM パラメータで指定されたディスクが定義されていません。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: 正しいパラメータを指定してコマンドを再入力してください。

SMC0821

UUUUUU is not a defined VM userid

レベル: 0

説明: 入力された値が定義された VM ユーザー ID ではありません。

システムアクション: そのコマンドは処理されません。

ユーザーの対応: 正しいパラメータを指定してコマンドを再入力してください。

SMC0822

XXXXXXXX has initiated VM Client termination

レベル: 0

説明: EXIT コマンドを XXXXXXXX ソースから受け取りました。

システムアクション: VM Client が終了プロセスを開始しています。

ユーザーの対応: なし

SMC0823

UUUUUUUU is not authorized for VM Client ZZZ requests

レベル: 0

説明: VM ユーザー ID UUUUUUUU から受信した VM Client ZZZ 要求が拒否されました。

ユーザー ID は ZZZ 要求を実行する権限がありません。

システムアクション: VM Client は要求を無視して処理を続行します。

ユーザーの対応: AUTHORIZE コマンドを使用して VM ユーザー ID が VM Client TMI およびコマンド要求を実行できるようにします。もうひとつのオプションは、VM Client 検証カスタマ 出口、SMCXIT01 を使用する方法です。

SMC0824

MOUNT|DISMOUNT command failed; RC=NNNN - Reason=MMMM

レベル: 0

説明: *MOUNT* または *DISMOUNT* コマンドが失敗し、リターンコード *NNNN* が返されました。理由コード (*MMMM*) は、失敗の理由を説明する HSC メッセージ番号であることがあります。

システムアクション: コマンドは失敗しました。

ユーザーの対応: HSC マウントまたはマウント解除メッセージに示されている問題を修正します。

SMC0825

FORCE parameter invalid for virtual drive DDDD

レベル: 0

説明: *DISMOUNT FORCE* パラメータは仮想デバイスではサポートされていません。

システムアクション: マウント解除は処理されません。

ユーザーの対応: *FORCE* パラメータを指定せずに *DISMOUNT* コマンドを再発行してください。必要に応じて、*CMS TAPE RUN* または *CP DETACH* コマンドを発行してドライブをアンロードします。

SMC0826

Authorized users: UUUUUUUU Requests: req1 req2 ...

レベル: 0

説明: *AUTHorize* コマンドが *LIST* キーワードとともに発行されました。承認されたユーザーと、承認の対象である要求のタイプが表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0827

POOLMAP SCRATCH MANAGEMENT

SUBPOOL	CLASS
PPPPPPPPPPPP	MMMMMMMM

レベル: 0

説明: *POOLmap* コマンドが *LIST* キーワードとともに発行されました。スクラッチサブプール名 *PPPPPPPPPPPP* が、対応する管理クラス名 *MMMMMMMM* とともに表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0828

POOLMAP validation failed; reason

レベル: 0

説明: *POOLmap* コマンドが管理クラスとサブプール名を HSC サーバーと検証しているときにエラーを受信しました。

考えられる理由は次のとおりです。

- 管理クラスが無効です
- サブプール名が無効です
- HSC サーバーを使用できません

システムアクション: なし

ユーザーの対応: 無効なパラメータを修正して、コマンドを再発行します。

SMC0829

Mount of volume VVVVVV complete on drive DDDD

レベル: 0

説明: テープボリューム *VVVVVV* がテープドライブ *DDDD* に正常にマウントされました。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC0830

Waiting for a TapePlex SSSS server to become active

レベル: 12、16、20、24、28

説明: *RESYNC* コマンドに *WAIT* オプションが指定され、使用できる TapePlex サーバーがない場合にこのメッセージが表示されます。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし

SMC9999

MMMMMMMM Variable text

レベル: 0

説明: **SMC9999** メッセージは、StorageTek ソフトウェアサポートで問題を特定して解決するためのものです。*MMMMMMMM* は発行したモジュール名です。

システムアクション: なし

ユーザーの対応: なし。12 以上のメッセージレベル (*LVL*) は、通常、StorageTek ソフトウェアサポートから指示された場合にのみ指定するようにしてください。

第9章 VM Client テープ管理インタフェース

この章では、VM Client テープ管理インタフェース (VMTMI) について説明します。

TapePlex は、実際のカートリッジのライブラリリソースと仮想ボリュームの VSM リソースを含む、StorageTek ソフトウェアによって管理される複合リソースを表します。

TapePlex は単一の HSC CDS によって管理されるハードウェアとして定義されます。VM Client は単一の TapePlex へのアクセスを提供します。VM Client は TCP/IP を使用して、z/OS で実行している HSC サーバーにトランザクションをルーティングします。複数のホスト上の HSC の複数のインスタンスは、冗長性を提供するサーバーとして定義できます。VM Client と HSC サーバーの間のトランザクションは、XAPI と呼ばれる XML ベースの API を使用します。VM Client ソフトウェアは、テープ管理インタフェーストランザクションをサーバーで解釈される XAPI 形式に変換し、これらのトランザクションの出力を応答のための TMI 形式に変換します。

テープ管理インタフェースは、クライアントコンポーネントと対話するようになり、それにより、z/OS 上の HSC (および VTCS) とインタフェースをとるようになったため、以前のリリースでサポートされていた一部の TMI コマンドはサポートされなくなりました。場合によっては、コマンドの機能がクライアント/サーバー環境でサポートされず、ほかのコマンドが将来のリリースでサポートされる可能性があります。

次の TMI コマンドは VM Client 7.3 でサポートされていません。

- *DEFSCR* と *DEFPOOL*

これらのコマンドは、ELS 7.0 で導入された HSC *POOLPARM*/ *VOLPARM* 機能に置き換えられています。この機能の詳細については、HSC および VTCS の構成に関するドキュメントを参照してください。

- *QEJECT*
- *QREQUEST*
- *SETOPER*

VM Client はオペレータの応答をサポートしていません。したがって、すべてのコマンドは、*SETOPER* コマンドが発行されたものとして処理されます。これまで *WTOR* メッセージが生成されていたような状況は、エラーメッセージとして返されます。

- *STOP*

また、VM Client はメディアおよび記録技法の値の選択については、ジョブ名、ステップ名、プログラム名、データセット名などの *TAPEREQ* 検索キーの使用もサポートしていません。

テープ管理システム (TMS) と VM Client 間のインタフェースの一般的な説明には、次のトピックが含まれます。

- TMS の役割

このセクションでは TMS が提供するサービスについて説明します。

- TMS の決定ポイント

このセクションでは、TapePlex との対話が TapePlex 管理リソースに対する TMS サービスに役立つ状況について説明します。

- TMS に返される TapePlex 情報

このセクションでは、TapePlex との対話によって返される情報について説明します。

- IUCV (Inter-User Communication Vehicle) に関する注意事項

このセクションでは、IUCV マクロで使用されるパラメータについて説明します。

- TMS と VM Client の対話

このセクションでは、TMS と VM Client の対話に関するさまざまなシナリオについて説明します。

以降のセクションでは、これらのトピックについて詳しく説明します。

TMS の役割

テープ管理システムには 3 つの主な機能があります。

- ユーザーインタフェース
- テープリソースの割り当て
- オペレータインタフェース

ユーザーインターフェース

通常、エンドユーザーはテープ管理システム (TMS) からサービスをリクエストすることによって間接的に TapePlex 機能をリクエストします。このようなリクエストは、TMS によって VM Client に、さらに TapePlex サーバーにルーティングされます。エンドユーザーと VM Client 間の直接の対話は、エンドユーザーが VM Special Message (SMSG) 機能を使用して VM Client コマンドを直接発行するか、VMTMI を直接呼び出す場合にのみ行われます。例として、配布された VMTMI SAMPLE を参照してください。

テープリソースの割り当て

TMS の制御下にあるリソースには次が含まれます。

- トランスポート

TMS は通常 AVR (Automatic Volume Recognition) のトランスポートの所有権を持ち、テープサービスをリクエストしているユーザーにトランスポートを割り当てます。TMS は割り当てリクエストに対して、テープトランスポートの可用性を判断します。さらに、TMS はトランスポートがサポートするメディアタイプと密度も認識します。VM Client は必要に応じて、TapePlex 制御トランスポートの選択で TMS を支援します。

- データセット

TMS はデータセットをテープボリュームにマップし、外部ラベルを内部ラベルにマップできます。TapePlex にはそのような情報が含まれていません。

- スクラッチボリューム

TMS はボリュームのスクラッチステータスに関する最終権限です。このステータスには、スクラッチサブプールメンバーシップも含まれます。TMS の「不特定」マウント (VOLSER を指定しないスクラッチボリュームのリクエスト) を生成するマウント処理を自動化するため、TapePlex でも独自のスクラッチステータス情報を保持します。TMS スクラッチステータスリストは、使用可能なすべてのスクラッチのリストとみなされませんが、使用可能なスクラッチボリュームの合計数のサブセットとみなされます。

- 特定のボリューム

TMS は特定のボリュームにアクセスできるユーザーを制御します。TapePlex は承認されたオペレータまたは TMS のリクエスト時に、それが制御するボリュームを処理します。

オペレータインタフェース

テープのマウント、マウント解除、スクラッチプールの選択は TMS とオペレータ間のメッセージトラフィックを通じて処理されます。VM Client はオペレータへのメッセージ内に提供された情報を使用して、マウント、マウント解除などを指示します。

TMS の決定ポイント

TapePlex サーバーは、TMS が VM Client 経由で TapePlex サービスを使用できるタイミングに関する TMS の決定に影響することがあります。TapePlex サーバーは次のポイントで TMS の決定に影響します。

TMS の初期化

TMS の初期化時に、TMS に VM Client マシンへの IUCV パスを確立させ、VM Client と TapePlex サーバーの両方が動作し、通信しているかどうかを判断します。TMS の起動時に VM Client マシンが動作していない場合は、VM Client および TapePlex の初期化後にできるだけ早く IUCV パスを確立します。接続はトランザクションごとに確立および切断できますが、これにより、不要な処理が発生します。IUCV を効率的に使用するには、TMS 通信セッション全体を通してパスを確立し、維持する必要があります。

ドライブの割り当て

VM Client は、割り当て時に特定のボリュームのメディアと場所およびスクラッチカウントに関する情報を提供できます。TMS はクエリーの結果を使用して、割り当てリクエストに対して互換性のある最適なドライブを選択できます。

スクラッチの割り当て

TMS のリクエストがあれば、*MOUNT* リクエストの前に VM Client がスクラッチボリュームの *VOLSER* を提供できます。この選択は拒否することも、それ以降のマウントに使用することもできます。この情報が必要でない場合、不特定の *MOUNT* リクエストによって、スクラッチボリュームが選択されます。

ボリューム移動

ボリュームのマウント、マウント解除、またはその他の移動が必要な場合、TMS は、TapePlex でアクションを実行するかどうか、または手動操作が必要かどうかを決定します。VM Client はボリューム移動リクエストのステータス情報を返します。

ボリュームをスクラッチステータスに戻す

TMS と TapePlex のスクラッチステータスを同期させておく必要があります。もっとも早い時間はマウント解除時で、もっとも遅い時間は TMS スクラッチプルリストの生成時です。このアクティビティを調整するために、TMI リクエストと VM Client コマンドを使用できます。

TMS に返される TapePlex 情報

返される TapePlex 情報には次が含まれます。

構成情報

構成情報には次のものが含まれます。

- 最大の ACS 内のトランスポートの最大数
- ライブラリ制御下にあるトランスポートの数
- ACS の数
- LSM の数
- レスポンス領域サイズ

ボリュームステータス

ボリュームステータス情報には、次のものが含まれます。

- セル内のボリューム
- ドライブ内のボリューム
- ライブラリ内にないボリューム
- アクセス不能なボリューム
- ボリュームの場所が不確実 (エラー)

ボリュームの場所

ボリュームの場所情報には、次のものが含まれます。

- ACSid
- LSMid
- パネルの場所
- 行の場所
- 列の場所

適格なドライブ

TapePlex の観点から適格なドライブとは、ボリュームと同じ ACS または VTSS 内にあり、ボリュームと互換性のある記録技法を使用したドライブです。実際のドライブの可用性 (接続可能性、オンラインステータス) は考慮されません。

移動ステータスとエラーコード

ボリュームの移動リクエストは操作が成功したことを示すコードを返します。エラーが発生した場合、オペレータに発行されたメッセージに対応する追加のコードも返されます。

LSM および ACS のステータス

LSM のステータスは、オンラインまたはオフラインです。オンラインは、自動マウントを実行できることを示します。オフラインは手動マウントのみが可能であることを示します。

ACS のステータスは接続または切断です。切断は、ACS にこのホストからアクセスできず、すべてのアクティビティを別のホストから処理する必要があることを示します。

- スクラッチ管理用の VOLSER

スクラッチの選択がリクエストされた場合、TapePlex 制御データセット内のスクラッチとマークされた VOLSER が返されます。この選択により、ボリュームが非スクラッチとマークされます。

- 仮想ドライブおよびボリュームのライブラリに関する注記

VM Client を使用することにより、TMS は仮想ドライブおよび仮想ボリュームにアクセスできます。テープ管理インタフェースは、TMS が仮想ドライブおよびボリュームを実際のボリュームのように処理できるように、各 VTSS を ACS ID と一連の LSM ID にマップします。VM Client は VTSS と ACS のマッピングを提供し、VTSS を表す ACS ID が実際の ACS と重複しないようにします。*EJECT*、*MOVE*、*ENTER* などのボリュームの移動操作は、仮想ボリュームには許可されません。

IUCV (Inter-User Communication Vehicle) に関する注意事項

IUCV (Inter-User Communication Vehicle) は IBM が提供する通信インタフェースです。

注:

VMTMISAMPLE は、VM Client テープ管理インタフェースの使用を示すサンプルプログラムです。*MAINTSTK* ユーザー ID で見つけることができます。

IUCV を使用してリクエストを発行するには、次の手順に従います。

1. IUCV *CONNECT* 関数を使用して、VM Client サービスマシンへの接続を確立します。
 - 承認された仮想マシンのみが VM Client サービスマシンへのコマンドを発行できます。権限を取得するために、TMI または VM Client コマンドを発行する仮想マシンは、起動時に *SMCPARMS* または *SMCCMDS* ファイルで、または以前に承認されている仮想マシンから、VM Client サービスマシンに発行された VM Client *AUTHorize* コマンドによって特権が与えられている必要があります。
 - さらに、仮想マシンは、その CP ディレクトリエントリ内の IUCV 制御文によって、CP に対して承認されている必要があります。これは一般に、システムプログラマまたは管理者によって行われます。*OPTION MAXCONN* が使用できる十分なパスを指定していることを確認します。
 - この IUCV 接続 (パス) を確立するには、IUCV マクロを次のパラメータで発行します。

```
IUCV CONNECT,
      PRMLIST=addr,          * address of IUCV parm list
      USERID=addr,         * address of CL8 'userid'
      USERDATA=addr,      * address of CL16 'ddname'
      PRMDATA=NO           * no parm data in IPARML
```

ここでは:

userid は VM Client サービスマシンの名前を示します。

ddname は、接続のためにリクエストされる VM Client IUCV インタフェースの名前を示します。これは次のような 16 バイトの領域です。

```
DC CL8'SLSTLMS'          ddname
DC CL8' '                reserved
```

関数の実行時に、PSW 条件コードを確認します。条件コードが 0 の場合、IPARML 領域からマクロに渡されるパス ID を保存します。プログラムはメッセージを送信する前に、VM Client サービスマシンが保留中の接続を IUCV *ACCEPT* するまで待機する必要があります。「*connection complete*」または「*path severed*」が返されない場合、VM Client がアクティブでないか、完全に初期化されていないか、または IUCV *CONNECT* リクエストが無効なパラメータを指定しています。

- IUCV *SEND* 関数を使用して、VM Client サービスマシンにメッセージを送信します。IUCV マクロに次のパラメータを指定します。

```
IUCV SEND,  
    PATHID=adpid,  
    TYPE=2WAY,  
    BUFLen=bufLen,  
    RBUF=reply,  
    RLEN=reply length
```

ここでは:

- *adpid* は IUCV パス ID を含むデータ領域のアドレスです。
 - TYPE=2WAY は IUCV の応答が想定されていることを指定します。
 - *bufLen* は「バッファ」の長さです。
 - *reply* は、応答を含むバッファのアドレスです。
 - *reply length* は応答バッファの長さです。
- VM Client サービスマシンへの接続の使用が完了したら、IUCV *SEVER* 関数を使用してパスを解放します。

次の IUCV パラメータはこのインタフェースでサポートされていません。

TYPE=1WAY

VM Client によって、IUCV *REPLY* が発行される必要があります。

TRGCLS= TRGCLS

は VM Client によって無視されます。

DATA=PRMMSG CP

は *SEND* の実行を許可しません。

PRMMSG=address

CP は *SEND* の実行を許可しません。

PRTY=YES

CP はこれを使用して、VM Client サービスマシンへの待ち行列を変更します。VM Client サービスマシンは、メッセージに特別な処理を加えません。

ほかのすべての IUCV パラメータを必要に応じて使用できます。

その他の考慮事項

IUCV パラメータリスト (IPARML) の 3 つのフィールドは特に注意が必要です。

USERID=

このパラメータは、VM Client を実行しているサービスマシンの名前を指定します。ユーザー ID は容易に変更できるように、ハードコードするよりも、変更可能にすることをお勧めします。

USERDTA=

このパラメータは、TMS 通信 (ACSINT) を受信するサービスマシンの名前を指定します。これは *SLSTLMS* である必要があります。

UWORD=

このパラメータは割り込み時に R0 に表示される単語を指定します。これは、一般的なデータ領域へのアドレス指定機能を確認する際に役立ちます。これには、別のルーチン内で参照される保留中のリクエスト、パスのステータス、および構成値を一覧表示する領域が含まれます。

IUCV インタフェースおよび上記のパラメータに関する追加情報については、IBM の *VM/SP* システムのプログラミングの機能または *VM/XA CP* プログラミングサービスに関するドキュメントを参照してください。

TMS と VM Client の対話

VM Client には、テープ管理システム (TMS) との複数のインタフェースポイントが必要です。

- TMS から VM Client への初期接続
- ドライブの割り当て
- オペレータメッセージ処理

TMS は、VM Client とユーザー間のフロントエンドを提供し、割り当て、データセット、およびスクラッチプールサービスを管理します。VM Client は、TMS のマウント/マウント解除処理およびスクラッチボリュームの選択を可能にし、TapePlex 制御下のそれらのボリュームとドライブの割り当てに影響を与えます。

呼び出しマクロ (ACSRQ) は TMS と VM Client 間で通信するために、IUCV (Inter-User Communications Vehicle) への呼び出しを準備します。IUCV 呼び出し自体は、TMS によって行われます。

次のテープ管理システムの機能が通信をサポートします。

- 割り当て時にデバイスタイプおよびスクラッチ情報を提供するインタフェース

- メッセージ時に、通常オペレータに表示されるメッセージを処理するインタフェース
- トランスポートドライブアドレスおよび対応するメディアと場所の情報のリスト
- IUCV 割り込みハンドラ

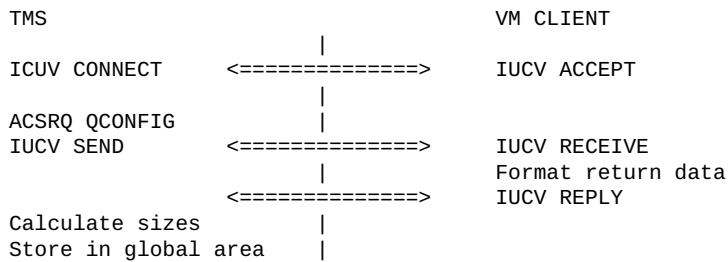
TMS から VM Client への初期接続

初期接続時、一部が長い応答で返されるデータ領域のサイズを決定するために役立ちます。これらは TapePlex 構成によって異なります。これらの領域は使用する必要がある前に割り当てられます。

初期接続ダイアログ

接続時に、*QCONFIG* リクエストを発行して、ほかのリクエストに必要な応答データ領域のサイズを決定するようにしてください。例:

例9.1 初期接続ダイアログ



ドライブの割り当て

TMS はドライブの割り当てをすべて担当しますが、VM Client および TapePlex は特定のボリュームおよびスラッチボリュームのマウントを満たす適合性の順にドライブのリストを提供することによって、このプロセスを支援します。

次のセクションでは、TMS 割り当てインタフェースと VM Client 間の対話について説明します。

割り当ての対話

TMS サービスマシンは仮想マシンからボリュームをマウントするリクエストを受け取り、割り当てインタフェースルーチンを呼び出します。

VM Client サービスマシンへの IUCV パスが確立されていない場合、テープ管理システムがそれを確立しようとします。この試行に失敗した場合、割り当ての支援が行われず、リターンコードにはその状況が示され、特別な割り当てが行われていないためにオペレータのメッ

ページ処理を実行できないことをメッセージインタフェースに知らせるフラグが設定されることがあります。

割り当てダイアログ

1. TMS 割り当てインタフェースは IUCV メッセージを使用して、VM Client サービスマシンにリクエストを送信します。

```
ACSRQ QDRLIST,VOLSER=voladr
```

代替のリクエストは次のようになります。

```
ACSRQ QDRLIST,VOLSER=voladr,COUNT=,LIST=
```

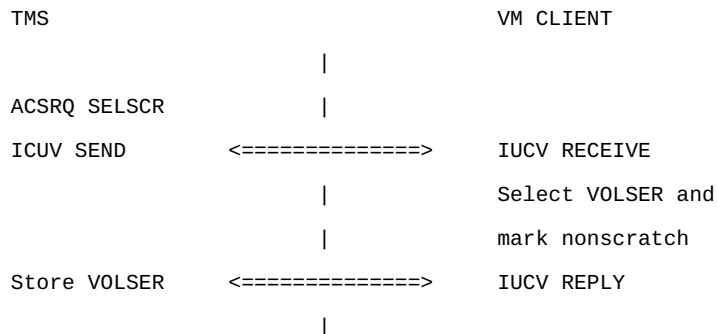
上のリクエストには、*COUNT=* と *LIST =* パラメータが含まれています。これらの2つのパラメータは TMS によって適格とみなされるデバイスのリストを示しています。この情報は、VM Client に渡されます。

TMS		VM CLIENT
ACSRQ QCONFIG		
IUCV SEND	<=====>	IUCV RECEIVE
		Format lists of
		drives and status
Select drive	<=====>	IUCV REPLY

2. 割り当てインタフェースは、IUCV *REPLY* を待機します
3. VM Client ルーチンは、データを収集し、応答をフォーマットして、IUCV *REPLY* を発行します。IUCV *REPLY* は、*SLX* マクロによってマップされます。
4. TMS IUCV サポート関数は、応答が受信されたことを待機中の割り当てプロセスに通知します。
5. 割り当てインタフェースルーチンは、応答をドライブ設定リスト (TMS 依存形式) に再フォーマットし、TMS 管理の利用可能なドライブへの応答を比較して、インタフェースを終了します。
6. スクラッチ選択が必要な場合は、次を発行します。

ACSRQ SELSCR, DRIVE=drivadr

これは VOLSER を返し、ボリュームを制御データセット内の非スクラッチとしてマークするか、または使用できるスクラッチボリュームがないことを示します。



割り当てインタフェースの終了

割り当てインタフェースルーチンが処理を完了すると、制御が TMS に戻されます。

操作メッセージ処理

このセクションでは、TMS メッセージインタフェースと VM Client 間の対話について説明します。「オペレータメッセージダイアログ」セクションでは、*MOUNT* リクエストの処理の概要を示します。その他のメッセージインタフェースポイントリクエスト (*DISMOUNT*、*SCRATCH* など) は、イベントと同様の順序に従い、個別に説明していません。TMS はプロセスの完了に基づいて、メッセージを抑制または変更することがあります。

DISMOUNT リクエストは、TMS によって検出された、ボリュームのマウント解除を必要とする状況 (たとえば、マウントされたボリュームがリクエストされたものでない) に対応して、または TMS が使用後に常にマウント解除する場合に発行されます。

SCRATCH リクエストは、TMS によって「作業」ボリュームをスクラッチステータスに戻すために発行されます。サーバー上の HSC 制御データセットがこれらの変更を反映して更新されます。

オペレータメッセージの対話

TMS サービスマシンは仮想マシンからボリュームをマウントするリクエストを受け取りま
す。TMS サービスマシンは、VM Client にコマンドを送信するために、IUCV パスが確立され
ている必要があります。ドライブはすでに選択されています。

オペレータメッセージダイアログ

1. メッセージインタフェースコードは、リクエストがドライブに対するものであるかを判断しま
す。
2. メッセージインタフェースは、IUCV メッセージを使用して VM Client サービスマシンにリ
クエストを送信し、位置情報を取得できます。

```
ACSRQ QVOLUME,VOLSER=voladr
```

3. メッセージインタフェースは *IUCVREPLY* を待機します
4. VM Client は、ボリュームステータスを判断し、場所データを追加して、*IUCVREPLY* を発
行します。ボリュームステータス情報が割り当てルーチンから保持される場合は、前の 4
つの手順を省略できます。
5. ボリュームが TapePlex にある場合、オペレータメッセージインタフェースは IUCV メッ
セージを使用してサービスマシンにリクエストを送信し、マウントされるボリュームおよび
使用されるドライブを指定します。

```
ACSRQ MOUNT,VOLSER=volser,DRIVE=drivadr,PROTECT=
```

6. メッセージインタフェースは *IUCVREPLY* を待機します
7. VM Client *MOUNT* ルーチンは、サーバーにマウントを実行するようにリクエストし、成功/
失敗の応答をフォーマットして、応答を発行します。元のメッセージへの *IUCV REPLY*
は、*SLX* マクロによってマップされます。

注:

アンロードされたボリュームを含むトランスポートドライブに送信された *MOUNT* リクエストによって、
そのボリュームのマウント解除のあとに、リクエストされたマウントが行われます。

8. TMS IUCV サポートルーチンは、待機中のメッセージインタフェースに、応答を受信した
ことを通知します。
9. メッセージインタフェースルーチンは応答を調べて、マウントが成功したかどうかを判断
し、適切な戻りコードを設定して、インタフェースを終了します。

オペレータメッセージインタフェースの終了

メッセージインタフェースルーチンが処理を完了すると、制御がテープ管理システムに戻ります。

PROP 検出マウント解除

仮想マシンに接続された StorageTek ドライブが切り離されるか、または仮想マシンがログオフされると、*DETACH* メッセージが VM システムオペレータに発行されます。ライブラリまたは仮想ボリュームがマウントされている間にドライブが切り離された場合、TMS は通知されず、通常の *DISMOUNT* メッセージを VM クライアントサービスマシンに発行しません。

マウント解除を正しく処理するには、VM *PROP* (PRogrammable OPerator) 機能で特定のメッセージをインターセプトし、それに従って処理するようにしてください。

注:

TMS マシンと同様に、*PROP* マシンは、VM Client サービスマシンによってコマンドに対して承認されている必要があります。*PROP RTABLE* を使用して呼び出される関数には、利用可能な VM Client サービスマシンの名前が必要です。

SMCPROP EXEC、*LOGTAPE SAMPLE*、*RTABLE SAMPLE* が例として提供されています。*EXEC* は変更しないまま、または環境に合わせて変更して使用できます。これらは次の順序のように実行するように設定してください。

1. *PROP* は *DETACH* メッセージを検出し、ルーチン (*SMCPROP EXEC*) を呼び出して、ライブラリ (または仮想) ボリュームがすでにドライブにマウントされている (*SMCPROP EXEC* を使用して保存されている) かどうかを確認します。その場合は、次のコマンドを実行します。

```
CP SMSG vmclientuser DISMOUNT DRIVE cuu
```

2. *SMCPROPEXEC* は、*CPSMSG* インタフェースを使用して、VM Client サービスマシンにコマンドを発行します。
3. VM Client はマウント解除リクエストを受け取ります。

シナリオ A - 通常のマウント解除

ボリュームがドライブにある場合は、マウント解除が正常に処理され、プロセスが完了します。
例:

例9.2 PROP 検出マウント解除シナリオ A - 通常のマウント解除

```

PROP                                | VM CLIENT
Receive msg:                        |
.SLS#124I MOUNT OF vvvvv1 ON       |
    DRIVE cuu - COMPLETE           |
Save volume and transport address   |
Receive msg:                        |
    TAPE cuu DETACHED ...          |
Use drive address to get saved      |
volume.                             |
If a volume was previously saved    |
for the transport, issue dismount: |
CP SMSG smcuser DISMOUNT DRIVE cuu ==> Receive dismount request
                                    |
                                    | Process dismount
                                    | DISMOUNT OF vvvvv1 FROM
                                    | DRIVE cuu COMPLETE

```

シナリオ B - マウント解除の自動処理

ドライブがすでに再割り当てされていて、マウントリクエストが発行された場合、VM Client はドライブ上の以前のボリュームを検出し、そのボリュームのマウント解除処理を自動的に開始します。この自動マウント解除が完了すると、新しいボリュームがマウントされます。例:

例9.3 PROP 検出マウント解除シナリオ B - マウント解除の自動処理

```

PROP                                | VM CLIENT
Receive msg:                        |
.SLS#124I MOUNT OF vvvvv1 ON       |
    DRIVE cuu - COMPLETE           |
Save volume and transport address   |
Receive msg:                        |
    TAPE cuu DETACHED ...          |
Use transport address to get        |
save volume.                       |
                                    |
                                    | Receive mount for vvvvv2
                                    | from TMS
                                    |
Issue msg:                          |
.SLS##81I VOLUME vvvvv1           |
    FOUND MOUNTED                  |
    ON DRIVE cuu                    |
    ATTEMPTING DISMOUNT.            |
                                    |
Process automatic dismount          |
of vvvvvv1                          |
                                    |
Process mount of vvvvv2|
Issue dismount:                    |
CP SMSG smcuser DISMOUNT DRIVE cuu =====> Receive dismount for vvvvv1
                                    | from PROP|
Receive msg:                        |

```

```

.SLS0124I MOUNT OF vvvvv2 ON |
          DRIVE cuu - COMPLETE |
Save volume and transport address. |

```

ACSRQ マクロ

テープ管理システムインタフェースは、*ACSRQ* 呼び出しマクロを使用して、VM Client へのリクエストを含む *IUCV* メッセージを準備します。*ACSRQ* マクロがその呼び出し元に制御を返したあとに、TMS ルーチンは *IUCV SEND* を発行する必要があります。

ACSRQ リクエスト

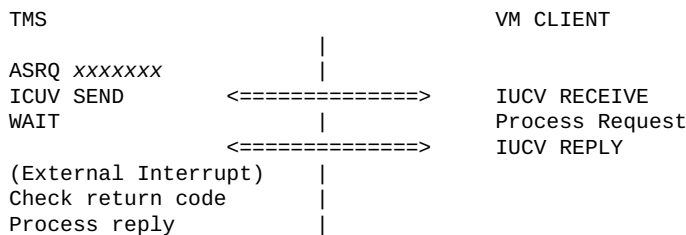
ライブラリとの対話に使用するリクエストのタイプには次が含まれます。

- クエリー情報
- 環境パラメータの設定
- ボリューム処理

ACSRQ マクロ命令を介して、すべての VM Client リクエストを呼び出します。一般に、実行する関数の名前、送信するデータ領域のアドレス (*ACSINT*)、および必要なその他のキーワードパラメータを指定します。

ACSRQ マクロは ACS インタフェースブロック (*ACSINT*) を構築し、オプションで *IUCV SEND* の *IPARML* を構築します。構築された *IPARML* を参照する *IUCV* 命令は、*ACSRQ* マクロのあとにコーディングするようにしてください。*ACSINT* の受信により、VM Client で正しいルーチンを読み出し、*IUCV REPLY* を使用して、送信者に情報を返します。

IBM の VM/SP システムのプログラミング機能および VM/XA CP プログラミングサービスに関するドキュメントに記載されている *IUCV* の制限が適用されます。データ領域サイズのため、*PRMMSG* はサポートされていません。*BUFLIST* および *ANSLIST* もサポートされていません。



応答領域のマッピングについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

ACSRQ マクロ構文

ASRQ マクロの構文は次のとおりです。

図9.1 ACSRQ マクロ構文



Function は次のいずれかです。

- *DISMOUNT*
- *EJECT*
- *MOUNT*
- *MOVE*
- *QCAP*
- *QCONFIG*
- *QDRIVES*
- *QDRLIST*
- *QSCRATCH*
- *QVOLUME*
- *QVOLUME*
- *SCRATCH*
- *SELSCR*

Parameter は次のいずれかです。

- *,ACCT1=acct1addr*
- *,ACCT2=acct2taddr*
- *,CAP=capidaddr*
- *,COL=coladdr*
- *,COUNT=countaddr*
- *,DRIVE=driveaddr*

- *,HOSTID=hostidaddr*
- *,IPARML=YES*
- *,LIST=listaddr*
- *,LSM=lsmidaddr*
- *,MEDIA=medaddr*
- *,MGMTCLS=mgmtcls*
- *,NOTIFY=INSDEL/NOINSDEL*
- *,PAN=paneladdr*
- *,PATHID=pathaddr*
- *,PROTECT=YES*
- *,RECTECH=recaddr*
- *,ROW=rowaddr*
- *,RSPADDR=bufadr*
- *,RSPLLEN=buflen*
- *,SCRATCH=YES*
- *,SUBPOOL=subpooladdr*
- *,TEXT=textaddr*
- *,TOLSM=lsmidaddr*
- *,TOPAN=paneladdr*
- *,USER=useridaddr*
- *,VOLSER=voladdr*

ユーザーが VM Client からのクエリー情報、ボリュームの移動、スクラッチボリューム制御サービスをリクエストできるテープ管理インタフェース (TMI) には、メディアと記録技法を指定できるリクエストが含まれます。

メディアと記録技法情報を使用できるリクエストには、次が含まれます。

- *MOUNT*
- *QDRLIST*
- *QSCRATCH*
- *SELSCR*

これらのリクエストは、次のページで説明されています。

TMI は、*MEDIA* および *RECTECH* パラメータを直接使用して、リクエストのメディアと記録技法の値を判断します。

注:

DSECT=YES が指定されている場合、ほかの関数やパラメータは有効ではありません。*ACSINTDSECT* が構築されます。

DISMOUNT

DISMOUNT リクエストにより、カートリッジが特定のドライブから取り外されます。ライブラリカートリッジが (HSC によって選択された) LSM セルに移動され、将来のリクエストに使用できるようになります。仮想ボリュームは VTSS 内に存在したままになり、*MGMTCLAS* 定義を使用して、移行、レプリケーション、バッファ常駐ポリシーを決定します。

考慮事項

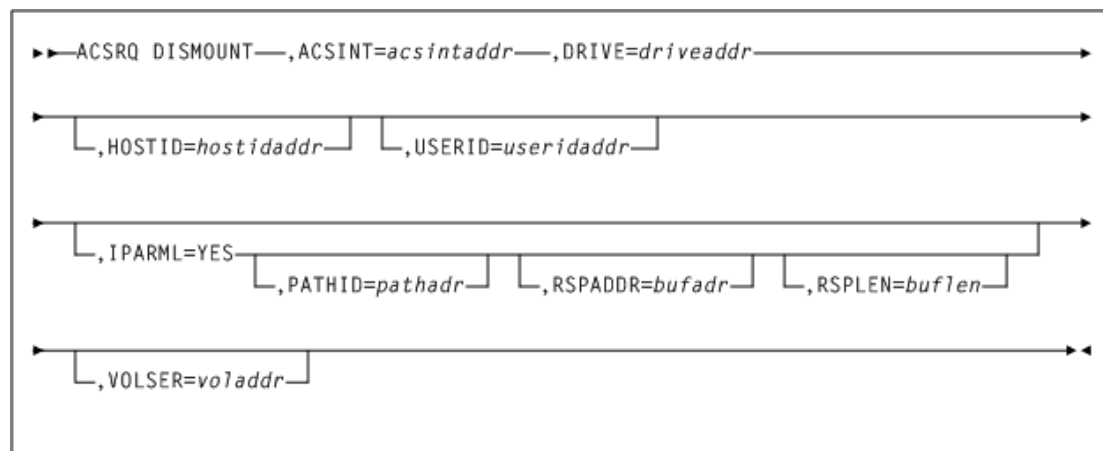
DISMOUNT リクエストの成功は、ボリュームが *REWIND/UNLOAD CCW* を受信したかどうかによって決まります。ドライブがまだ *REWIND/UNLOAD CCW* を受信していない場合は、*DISMOUNT* リクエストが中止されます。

DISMOUNT リクエストは、同じドライブに対する以前の *MOUNT* リクエストを取り消すことがあります。

構文

次の図に、*ACSRQ DISMOUNT* リクエストの構文を示します。

図9.2 ACSRQ DISMOUNT リクエストの構文



パラメータ

ACINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*ACSRQ* は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

DRIVE=driveaddr

ボリュームをマウント解除するドライブを指定します。このパラメータは必須です。

driveaddr は 2 バイトのドライブ指定のアドレスです (*ccua*) です。データの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号を指定します。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確立していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buf1en は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

VOLSER=voladdr

オプションで、マウント解除されるボリュームの *VOLSER* を指定します。

voladdr は 6 文字のボリュームラベルのアドレスで、データの RX タイプアドレス、またはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

マウントされたボリュームに別の *VOLSER* があると、エラーが発生します。

リクエストの応答

DISMOUNT リクエストへの応答は、リクエストに関連付けられたすべてのカートリッジ移動が完了したときに生成されます。応答には応答ヘッダーおよびメッセージテキスト要素が含まれます。応答ヘッダー (*SLXSRC*) 内の理由コードは、*DISMOUNT* リクエストが完了したときに発行された HSC メッセージを示すバイナリメッセージ番号です。メッセージテキスト要素には、理由コードに指定されたメッセージの完全なテキストが含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

EJECT

EJECT リクエストは、1 つまたは複数 (最大 500) のカートリッジのライブラリからの取り外しを開始します。オペレータが取り出せるように、カートリッジは LSM セルから、最優先の CAP またはリクエストに指定された CAP に移動されます

考慮事項

仮想ボリューム、または制御データセット内に定義されていないボリュームを取り出すリクエストは無効であるとみなされます。

パラメータ

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

CAP=capidaddr

オプションで、リクエストを満たすために使用される CAP のアドレスを指定します。

capidaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

形式は *AALLCC00* で、*AA* は ACS 番号 (00-99 の 10 進数)、*LL* は LSM 番号 (00-99 の 10 進数)、および *CC* は 10 進数の CAP 番号です。これらの識別子は常に後ろに *00* が続きます。

COUNT=countaddr

オプションで、*LIST* パラメータによって指定されたリスト内の *VOLSER* の数を格納する 2 バイトフィールドのアドレスを指定します。

countaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

LIST パラメータには *COUNT* が必要で、*VOLSER* パラメータと相互に排他的です。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確立していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

LIST=listaddr

オプションで、要素のリストのアドレスを指定します。

listaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このリスト内の各要素は、6 バイトの *VOLSER* です。

このパラメータの特殊な形式の *LIST = ** は *ACSRQ* に対し、リストがすでに *ACSINT* データ領域に追加されており、移動する必要がないことを示しています。

COUNT パラメータには *LIST* が必要で、*VOLSER* パラメータと相互に排他的です。

LSMID=lsmidaddr

オプションで、ボリュームが取り出される LSMid のアドレスを指定します。指定された LSM で CAP が使用できない場合、リクエストは失敗します。ユーザーが LSM を指定しない場合、HSC はリストの最初のボリュームの ACS 内の単一の CAPid を選択します。LSMid の形式は *AALL* で、*AA* は ACS 番号 (10 進数)、*LL* は LSM 番号 (10 進数) です。たとえば、0102 は ACS 01、LSM 02 です。

lsmidaddr はデータの RX アドレスまたは LSMid のアドレスを格納するレジスタの番号です。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

SEQ=NO|YES

オプションで、CAP の取り出し処理で、CAP セルを順番に充填していくか、ホーム位置の距離によって充填していくかを指定します。

- *NO* は、*EJECT* プロセスで、リクエストされたボリュームをホーム位置によって順序付けることを指定します。*EJECT* は、CAP までのボリュームホーム位置の距離に従っ

て、CAP またはマガジン (SL8500 の場合) を充填します。つまり、CAP にもっとも近いボリュームが最初に取り出されます。

- **YES** は、**EJECT** プロセスで、使用可能なもっとも上の CAP セルから順番に、カートリッジを CAP に配置することを指定します。

注:

SEQ パラメータは、すべての LSM タイプに有効ですが、主に SL8500 環境に使用されます。ほかの LSM タイプで順番どおりにする必要がある場合は、**SEQ=YES** とコーディングする必要があります。

TEXT=textaddr

オプションで、リクエストとの関連付けに 32 文字のテキスト文字列を指定します。

textaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

USERID=userisaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

VOLSER=voladdr

オプションで、6 文字のボリュームラベルのアドレスを指定します。

voladdr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

VOLSER は **LIST** および **COUNT** パラメータと相互に排他的です。**VOLSER** または **LIST** と **COUNT** のどちらかを指定する必要があります。

リクエストの応答

EJECT リクエストからの応答は、1 つの応答ヘッダーと 1 つのボリューム情報要素、およびリクエストに指定された **VOLSER** ごとに 1 つのメッセージテキスト要素で構成されます。ボリューム情報要素およびメッセージテキスト要素は、リクエスト内の **VOLSER** と同じ順序で表示されます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

MOUNT

MOUNT リクエストは、ボリュームを特定のドライブにマウントさせます。

考慮事項

自動マウント解除は、アンロードされたカートリッジが含まれているドライブに *MOUNT* リクエストが送信された場合に行われます。

構文

次の図に、*ACSRQ MOUNT* リクエストの構文を示します。

図9.4 ACSRQ MOUNT リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ MOUNT リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*ACSRQ* は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

DRIVE=driveaddr

ボリュームをマウントするドライブを指定します。2 バイトのドライブ指定のアドレス (*ccua*)。このパラメータは必須です。

driveaddr データの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

MEDIA=medaddr

オプションで、マウントされるカートリッジのメディアタイプを格納する 8 バイト文字フィールドのアドレスを指定します。

MEDIA が指定されていない場合、メディアタイプに関係なく、次に互換性のあるスクラッチカートリッジがマウントされます。

medaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

MGMTCLAS=mgmtclas

オプションで、左揃えの空白がパディングされた管理クラスを含む 8 文字フィールドのアドレスを指定します。

mgmtclas はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

SUBPOOL が指定されていないが、*MGMTCLS* が指定されている場合、*MGMTCLS* は VM Client *POOLmap* コマンドに基づいて設定できます。

IPARM=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確認していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

PROTECT=YES

オプションで、ボリュームを書き込み保護すると指定します。*PROTECT=YES* が指定されていない場合、サムホールの物理的な位置によって、ボリュームが書き込み保護されるかどうかが決まります。

PROTECT=YES は *VOLSER* が指定されている場合にのみ有効です。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は *RX* タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの *RX* タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

SCRATCH=YES

オプションで、リクエストは不特定の (スクラッチ) ボリュームに対するものであることを指定します。スクラッチ *VOLSER* がこの時点で選択され、指定されたトランスポートにマウントされます。

SCRATCH =YES または *VOLSER* を指定する必要があります。

SUBPOOL=subpoolname

オプションで、スクラッチサブプールの名前を含む 13 文字フィールドのアドレスを指定します。

subpoolname はデータの *RX* タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*SCRPOOL* (サブプールインデックス) はサポートされなくなります。*SUBPOOL* パラメータを使用してスクラッチプールを選択する必要があります。

SUBPOOL は *SCRATCH=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*SUBPOOL* が指定されているが、*MGMTCLS* が指定されていない場合、*MGMTCLS* は VM Client *POOLmap* コマンドに基づいて設定できます。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

VOLSER=voladdr

オプションで、6 文字のボリュームラベルのアドレスを指定します。

voladdr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

VOLSER または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。このパラメータは、マウントされるボリュームの *VOLSER* を指定します。*VOLSER* または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。

リクエストの応答

MOUNT リクエストへの応答は、リクエストに関連付けられたすべてのカートリッジ移動が完了したときに生成されます。応答には、応答ヘッダー、メッセージテキスト要素、およびリクエストに *SCRATCH =YES* が指定されている場合は、ボリューム情報要素が含まれます。応答ヘッダー (*SLXSRC*) 内の理由コードは、*MOUNT* リクエストが完了したときに発行された HSC メッセージを示すバイナリメッセージ番号です。メッセージテキスト要素には、理由コードに指定されたメッセージの完全なテキストが含まれます。ボリューム情報要素は、リクエストに *SCRATCH=YES* が指定されている場合に存在し、マウントされたスクラッチボリュームについて記述します。

MOVE

MOVE リクエストは、ボリュームを ACS 内の特定の位置に移動させます。

考慮事項

MOVE 関数は、単一のボリュームを ACS 内の別の場所に移動できます。ボリュームの移動先は同じ LSM でも別の LSM でもかまいません。

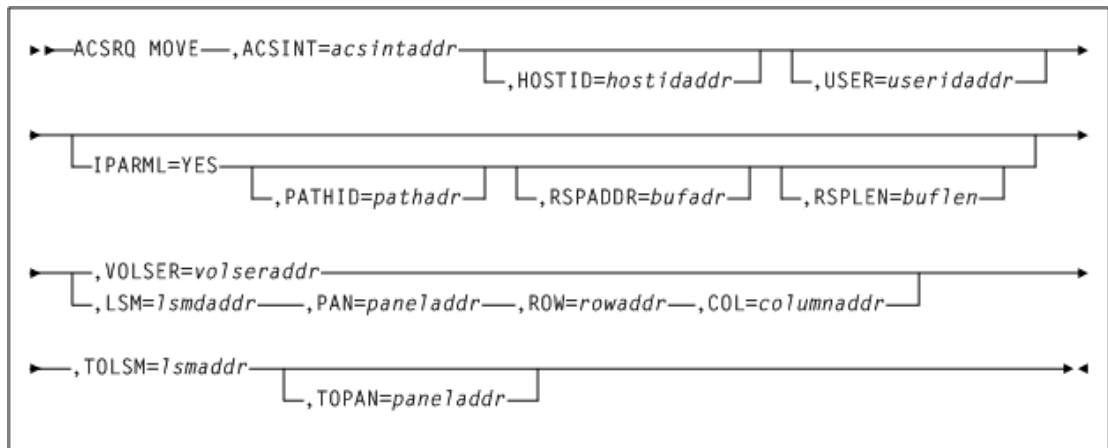
MOVE 関数は、ボリュームの移動および改善されたテープ管理を制御します。

仮想ボリューム、または制御データセットに定義されていないボリュームを移動するリクエストは無効であるとみなされます。

構文

次の図に、*ACSRQ MOVE* リクエストの構文を示します。

図9.5 ACSRQ MOVE リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ MOVE リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある ACSINT を参照します。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

USER=useriddaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useriddaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが IUCV IPARML へのアドレス指定機能を確立していることと IPARML が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの IUCV パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

VOLSER=volseraddr

オプションで、6 文字のボリュームラベルのアドレスを指定します。

voladdr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

VOLSER または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。このパラメータは、マウントされるボリュームの *VOLSER* を指定します。*VOLSER* または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。

LSM=lsmaddr

オプションで、LSMid のアドレスを指定します。LSMid の形式は *AALL* で、*AA* は ACS 番号 (10 進数) および *LL* は LSM 番号 (10 進数) です。たとえば、0110 は ACS 01、LSM 10 です。

lsmaddr は LSMid の RX タイプアドレスまたは LSMid のアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

COL、*PAN*、および *ROW* パラメータには、*LSM* パラメータと一緒に指定する必要があります。このパラメータは、*VOL* が指定されていない場合に必須です。

PAN=paneladdr

オプションで、パネル番号のアドレスを指定します。パネル番号の形式は *pp* で、*pp* は 10 進数です。

paneladdr はパネルの RX アドレスまたはパネルのアドレスを格納するレジスタ (2-12) です。

LSM が指定されている場合 *PAN* は必須です。

ROW=rowaddr

オプションで、行番号のアドレスを指定します。行番号の形式は *rr* で、*rr* は 10 進数です。

rowaddr は行の RX アドレスまたは行番号のアドレスを格納するレジスタ (2-12) です。

LSM が指定されている場合 *ROW* は必須です。

COL=columnaddr

オプションで、列番号のアドレスを指定します。列番号の形式は *cc* で、*cc* は 10 進数です。

coladdr は列の RX アドレスまたは列番号のアドレスを格納するレジスタ (2-12) です。

LSM が指定されている場合 *COL* は必須です。

TOLSM=lsmidr

ボリュームが移動される *LSMid* のアドレスを指定します。*LSMid* は形式 *AALL* の 2 つの 16 進数バイト値で、*AA* は ACS 番号 (00-FF の 16 進数) および *LL* は *LSM* 番号 (*LL* は 00-17 の 16 進数) です。このパラメータは必須です。

lsmidr は *LSMid* の RX タイプアドレスまたは *LSMid* のアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

TOPAN=paneladdr

オプションで、パネル番号のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

paneladdr はパネルの RX アドレスまたはパネルのアドレスを格納するレジスタ (2-12) です。

リクエストの応答

MOVE リクエストへの応答は、リクエストに関連付けられたすべてのカートリッジ移動が完了したときに生成されます。応答には、応答ヘッダー、メッセージテキスト要素、およびリクエストが成功しなかった場合の 1 つのボリューム情報要素が含まれます。応答ヘッダー (*SLXSRC*) 内の理由コードは、*MOVE* リクエストが完了したときに発行された HSC メッセージを示すバイ

ナリメッセージ番号です。メッセージテキスト要素には、理由コードに指定されたメッセージの完全なテキストが含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

QCAP

このリクエストでは CAP の容量およびステータスを照会できます。

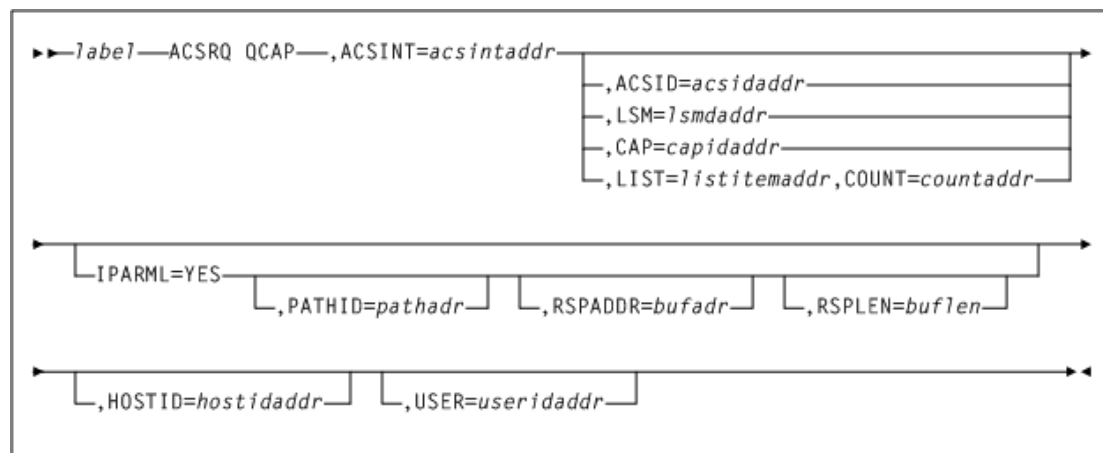
考慮事項

ACSID、LSM、CAP、または LIST と COUNT が指定されていない場合、返されるデータはすべての CAP に対するものです。

構文

次の図に、ACSRQ QCAP リクエストの構文を示します。

図9.6 ACSRQ QCAP リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ QCAP リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSID=acsidaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある ACSINT を参照します。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

CAP=capidaddr

オプションで、リクエストを満たすために使用される CAP のアドレスを指定します。

capidaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

capidaddr の形式は *AALLCC00* で、*AA* は ACS 番号 (10 進数)、*LL* は LSM 番号 (10 進数)、および *CC* は CAP 番号です。これらの識別子は常に後ろに *00* が続きます。

CAP が指定されている場合、指定された CAP についての情報が返されます。

COUNT=countaddr

オプションで、*LIST* パラメータによって指定されたリスト内の CAPID の数を格納する 2 バイトフィールドのアドレスを指定します。

countaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

LIST パラメータには *COUNT* が必須です。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確立していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

LIST=listitemaddr

オプションで、照会する CAP のリストのアドレスを指定します。

listitemaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

LIST が指定されている場合、リスト内のすべての CAP に関する情報が返されます。

LSM=lsmidaddr

オプションで、LSMid のアドレスを指定します。LSMid の形式は *AALL* で、*AA* は ACS 番号 (00-FF の 16 進数) および *LL* は LSM 番号 (*LL* は 00-17 の 16 進数) です。たとえば、0102 は ACS 01、LSM 02 です。すべての値が 16 進数形式です。

lsmidaddr は LSMid の RX タイプアドレスまたは LSMid のアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

LSM が指定されている場合、返されるデータは特定の LSM に対するものです。ACSID、LSM、CAP、または LIST と COUNT が指定されていない場合、返されるデータはすべての CAP に対するものです。

PATHID=pathidaddr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの IUCV パス ID のアドレスを指定します。

pathaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、IUCV SEND PATHID 文で使用されます。

PATHID は IPARML=YES が指定されている場合にのみ有効です。PATHID が指定されていない場合、後続の IUCV SEND でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、IUCV 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは IUCV SEND ANSBUF 文で使用されます。

RSPADDR は IPARML=YES が指定されている場合にのみ有効です。RSPADDR が指定されていない場合、後続の IUCV SEND でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、IUCV 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、IUCV SEND ANSLEN 文で使用されます。

RSPLEN は IPARML=YES が指定されている場合にのみ有効です。RSPLEN が指定されていない場合、後続の IUCV SEND でそれを指定する必要があります。応答の長さは、QCONFIG によって、SLXZDISM に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

リクエストの応答

QCAP リクエストへの応答には、応答ヘッダー、およびリクエストされた各 CAP に関する情報を含む CAP 情報要素が含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

QCONFIG

QCONFIG リクエストでは、TapePlex 構成に関するサマリー情報とその他の TMS インタフェースリクエストの推奨される回答バッファ長を取得できます。

考慮事項

QCONFIG リクエストは、その応答に各タイプの TMS インタフェースリクエストの推奨される回答バッファ長 (応答の長さ) が含まれるため、IUCV 接続が確立されたあとに最初に発行されるリクエストにしてください。

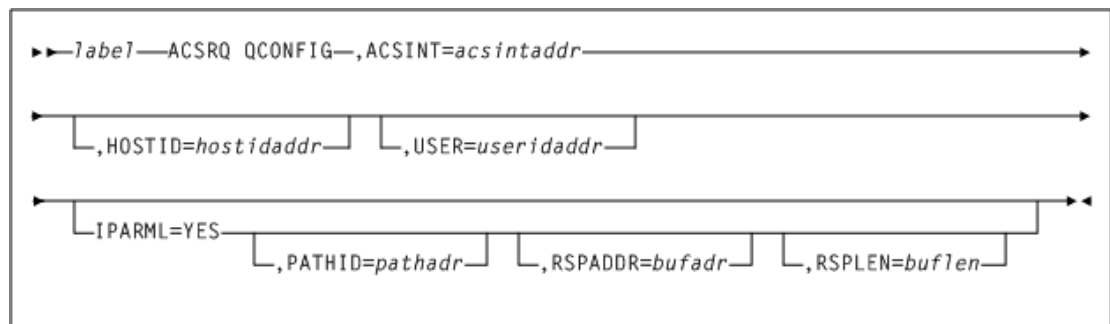
QCONFIG 応答の長さは、リリースごとに異なる場合があります。TMS は QCONFIG リクエストの推奨される回答バッファ長を取得するために、次の手法を使用します。

1. 10 進数 16 の回答バッファ長で QCONFIG リクエストを発行します。このリクエストからの応答は、16 バイトに切り詰められた応答ヘッダーで構成されます。ヘッダー内のリターンコードは 4 で、回答バッファが小さすぎて、応答全体が含まれていないことを示します。10 進数 12 のオフセットにある単語の SLXCRLN には、QCONFIG リクエストの推奨される回答バッファ長が含まれます。
2. 推奨される回答バッファ長を使用して、QCONFIG リクエストを再発行します。

構文

次の図に、ACSRQ QCONFIG リクエストの構文を示します。

図9.7 ACSRQ QCONFIG リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ QCONFIG リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*ACSRQ* は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確立していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufaddr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

リクエストの応答

QCONFIG 応答には応答ヘッダーおよび構成サマリー要素が含まれます。各タイプの応答要素 (ボリューム要素など) の長さが *QCONFIG* によって応答ヘッダーで返されます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

QDRIVES

QDRIVES リクエストでは、ライブラリまたは特定の ACS に関連付けられたすべてのトランスポートと LSM に関する詳細情報を取得できます。

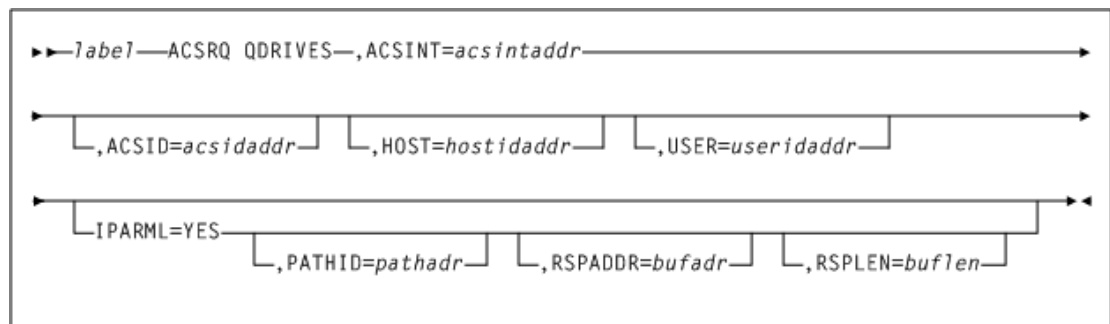
考慮事項

なし。

構文

次の図に、*ACSRQ QDRIVES* リクエストの構文を示します。

図9.8 *ACSRQ QDRIVES* リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ QDRIVES リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSID=acsidaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確立していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

リクエストの応答

QDRIVES の応答は、応答ヘッダー、ドライブ情報セクション、および LSM 情報セクションで構成されます。ドライブ情報セクションには、ライブラリまたは ACS 内のトランスポートごとに 1 つのドライブ情報要素が含まれます。LSM 情報セクションには、ライブラリまたは ACS 内の LSM ごとに 1 つの LSM 情報要素が含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

QDRLIST

QDRLIST リクエストでは、後続の *MOUNT* リクエストに指定するライブラリトランスポートの TapePlex 推奨事項を取得できます。

考慮事項

VM Client は、最初の要素が使用にもっとも適したトランスポートを示し、2 番目の要素が 2 番目に最適なトランスポートを示すというように順序付けされたドライブ情報要素のリストを返して、その推奨事項を作成します。

QDRLIST リクエストで特定のカートリッジを指定した (つまり、*VOLSER* が指定された) 場合、ドライブ情報要素は、カートリッジを格納する LSM にもっとも近い (または同じ) LSM 内にあるトランスポートがリストの先頭にくるように配置されます。リストの最後に表示されるトランスポートは、カートリッジを格納する LSM からもっとも遠い LSM 内にあります。カートリッジと同じ ACS 内のトランスポートのみ、ドライブ情報セクションに表示されます。

QDRLIST リクエストでスクラッチボリュームを指定した (つまり、*SCRATCH=YES* が指定された) 場合、ドライブ情報要素は、もっとも多くのスクラッチボリュームを格納する LSM 内に

あるトランスポートがリストの先頭にくるように配置されます。リストの最後に表示されるトランスポートは、もっとも少ないスクラッチボリュームを格納する LSM 内にあります。すべての ACS 内のすべてのトランスポートが、ドライブ情報セクションに表示されます。

特定の仮想ボリュームに対するリクエストの場合、ボリュームが存在するか、取り消し可能な VTSS 内のドライブが返されます。仮想スクラッチボリュームに対するリクエストの場合、リクエストされた管理クラスをサポートしている VTSS 内のドライブが返されます。

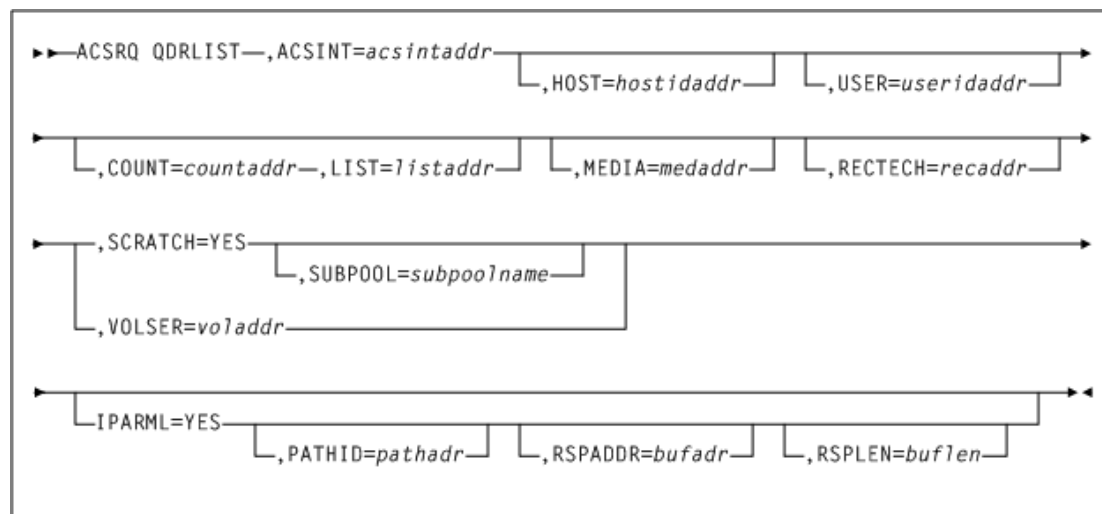
VM Client はドライブ情報要素を順序付けるときに、トランスポートがすでにボリュームをマウントしているかどうか、またはオフラインの LSM または ACS 内にあるかどうかを無視します。

QDRLIST リクエストではオプションのトランスポートアドレスのリストを提供できます。リストが提供されている場合、VM Client はその応答の構築時にそれを選別地使用します。ドライブ情報要素は、リストにトランスポートアドレスが存在する場合にのみ、応答に含まれます。

構文

次の図に、ACSRQ *QDRLIST* リクエストの構文を示します。

図9.9 ACSRQ *QDRLIST* リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ *QDRLIST* リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*ACSRQ* は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

COUNT=countaddr

オプションで、*LIST* パラメータによって指定されたリスト内の *CAPID* の数を格納する 2 バイトフィールドのアドレスを指定します。

countaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

LIST パラメータには *COUNT* が必須です。

MEDIA=medaddr

オプションで、マウントされるカートリッジのメディアタイプを格納する 8 バイト文字フィールドのアドレスを指定します。

MEDIA が指定されていない場合は、メディアタイプに関係なく、次に互換性のあるスラッチカートリッジがマウントされます。

medaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

RECTECH=recaddr

オプションで、テープ面へのデータトラックの記録に使用される記録技法を格納する 8 バイトフィールドのアドレスを指定します。

RECTech が指定されていない場合、指定された *MEDIA* タイプに応じて、トランスポートが選択されます。

recaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

有効な記録技法の値のリストについては、「[記録技法 \(RECTech\)](#)」を参照してください。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確認していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

LIST=listaddr

オプションで、要素のリストのアドレスを指定します。

listaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

このリスト内の各要素は、2 バイトのドライブアドレス (*ccua*) です。

このパラメータの特殊な形式の *LIST = ** は *ACSRQ* に対し、リストがすでに *ACSINT* データ領域に追加されており、移動する必要がないことを示しています。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

SCRATCH=YES

オプションで、リクエストは不特定の (スクラッチ) ボリュームに対するものであることを指定します。スクラッチ *VOLSER* がこの時点で選択され、指定されたトランスポートにマウントされます。

SCRATCH =YES または *VOLSER* を指定する必要があります。

SUBPOOL=subpoolname

オプションで、スクラッチサブプールの名前を含む 13 文字フィールドのアドレスを指定します。

subpoolname はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。*SCRPOOL* (サブプールインデックス) はサポートされなくなります。*SUBPOOL* パラメータを使用してスクラッチプールを選択する必要があります。

SUBPOOL は *SCRATCH=YES* が指定されている場合にのみ有効です。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

VOLSER=voladdr

オプションで、6 文字のボリュームラベルのアドレスを指定します。

voladdr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

VOLSER または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。このパラメータは、マウントされるボリュームの *VOLSER* を指定します。*VOLSER* または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。

リクエストの応答

QDRLIST の応答には常に応答ヘッダーとドライブ情報セクションが含まれます。*VOLSER* が指定されている場合、応答にはボリューム情報要素も含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

QSCRATCH

QSCRATCH リクエストでは、ライブラリまたは特定の ACS に関連付けられたすべての LSM に関する詳細情報を取得できます。この情報には、各 LSM 内のスクラッチボリュームの数が含まれています。

考慮事項

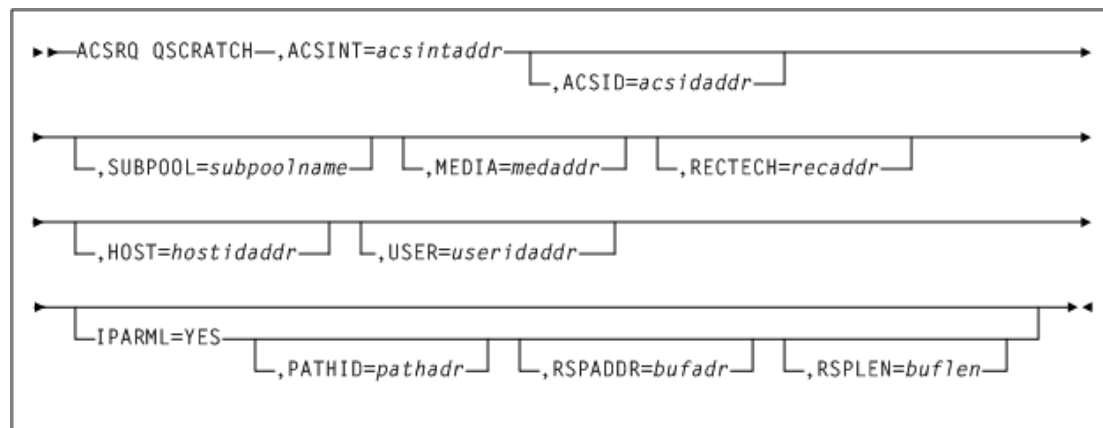
ライブラリとその関連付けられた制御データセットが複数の HSC で共有されている場合、ほかのプロセッサの最新のスクラッチボリュームアクティビティを考慮していないことがあるため、報告されたスクラッチ合計は実際の合計と異なる場合があります。ただし、各 HSC は

制御データセットからそのスクラッチボリュームの合計を 5 分ごとにリフレッシュするため、差異がわずかになります。

構文

次の図に、ACSRQ QSCRATCH リクエストの構文を示します。

図9.10 ACSRQ QSCRATCH リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ QSCRATCH リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSID=acsidaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある ACSINT を参照します。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある ACSINT を参照します。

MEDIA=medaddr

オプションで、リクエストされたスクラッチカートリッジのメディアタイプを格納する 8 バイト文字フィールドのアドレスを指定します。

MEDIA が指定されていない場合は、スクラッチカートリッジはメディアタイプに関係なく選択されます。

medaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

有効なメディアタイプ値のリストについては、「[メディアタイプ \(MEDia\)](#)」を参照してください。

RECTECH=recaddr

オプションで、テープ面へのデータトラックの記録に使用される記録技法を格納する 8 バイトフィールドのアドレスを指定します。

このパラメータはオプションです。*RECTech* が指定されていない場合、指定された *MEDia* タイプに応じて、スクラッチカートリッジが選択されます。

recaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

有効な記録技法の値のリストについては、「[記録技法 \(RECTech\)](#)」を参照してください。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確認していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buf1en

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buf1en は 2 バイトフィールドの *RX* タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

SUBPOOL=subpool1name

オプションで、スクラッチサブプールの名前を含む 13 文字フィールドのアドレスを指定します。

subpool1name はデータの *RX* タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号を指定します。*SCRPOOL* (サブプールインデックス) はサポートされなくなります。*SUBPOOL* パラメータを使用してスクラッチプールを選択する必要があります。

SUBPOOL は *SCRATCH=YES* が指定されている場合にのみ有効です。

USER=user1addr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

user1addr はデータの *RX* タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

リクエストの応答

QSCRATCH 応答には応答ヘッダーおよび各 LSM の LSM 情報要素が含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

QVOLUME

QVOLUME リクエストでは、1 つまたは複数 (最大 500) のカートリッジの現在のライブラリステータスを取得できます。

考慮事項

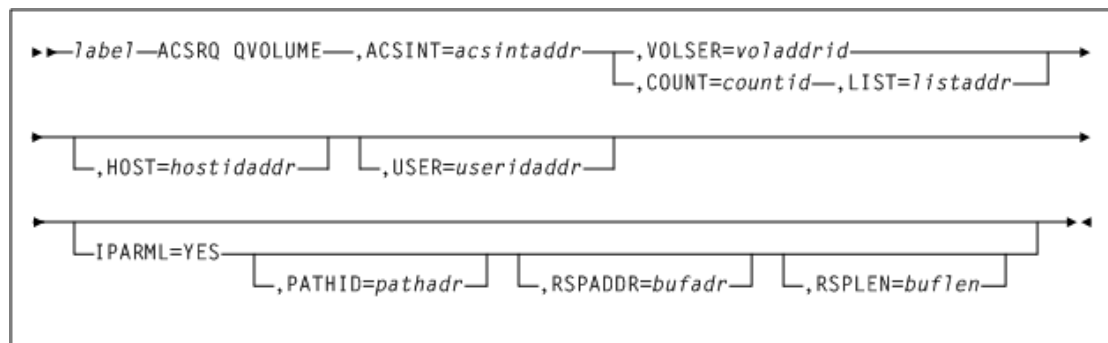
応答の長さは、リクエストに指定されたボリュームの数によって大幅に異なることがあります。いくつかの値は、特定の *QVOLUME* リクエストに適切な回答バッファの長さの判断に使用する、*QCONFIG* リクエストからの応答に使用できます。これらの値が含まれます。

- *SLXZQVOL* には単一のボリュームに対する *EJECT* の応答の長さが含まれます。この値は、*QVOLUME* リクエストで *VOLSER* または *COUNT=1* を指定する場合の回答バッファの長さに使用します。
- *SLXXVOLL* には単一のボリューム情報要素の長さが含まれます。*QVOLUME* リクエストで *COUNT=n* を指定する場合、回答バッファの長さは、式 $((n-1) * (SLXXVOLL + SLXXMSGL)) + SLXZEJC1$ を使用して計算されます。
- リクエストリストに *VOLSER* の最大数 (500) が指定されている場合、*SLXZVOL* には *QVOLUME* の応答の長さが含まれます。この値は、上の式を使用できない場合、およびリクエストがリクエストに大量のストレージ (約 16K バイト) をコミットすることを許容できる場合に、回答バッファ長に使用します。

構文

次の図に、ACSRQ *QVOLUME* リクエストの構文を示します。

図9.11 ACSRQ *QVOLUME* リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ *QVOLUME* リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

COUNT=countid

オプションで、*LIST* パラメータによって指定されたリスト内の *CAPID* の数を格納する 2 バイトフィールドのアドレスを指定します。

countaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

LIST パラメータには *COUNT* が必須です。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確認していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

LIST=listaddr

オプションで、要素のリストのアドレスを指定します。

listaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

このリスト内の各要素は、2 バイトのドライブアドレス (*ccua*) です。

このパラメータの特殊な形式の *LIST = ** は *ACSRQ* に対し、リストがすでに *ACSINT* データ領域に追加されており、移動する必要がないことを示しています。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

VOLSER=voladdrid

オプションで、6 文字のボリュームラベルのアドレスを指定します。

voladdr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

VOLSER または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。このパラメータは、マウントされるボリュームの *VOLSER* を指定します。*VOLSER* または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。

リクエストの応答

QVOLUME の応答は、応答ヘッダーおよびリクエストに指定された *VOLSER* ごとのボリューム情報要素で構成されます。リクエスト内の *VOLSER* と同じ順序でボリューム情報要素が表示されます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

QVOLUME

QVOLUME リクエストでは、マウントされたボリュームの現在のステータスを取得できます。

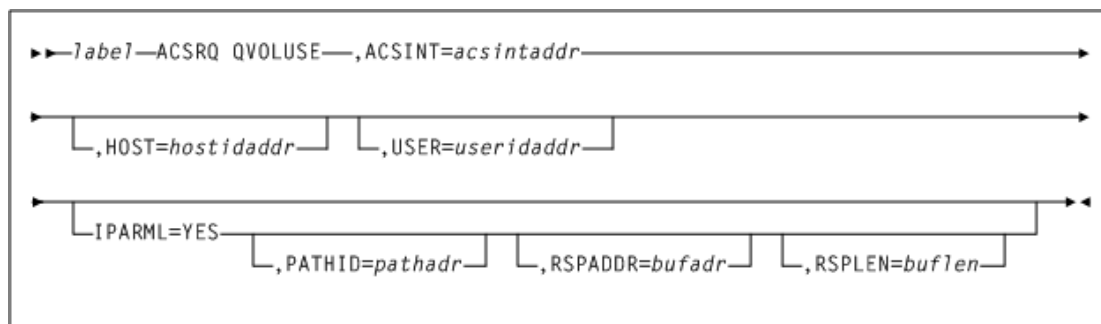
考慮事項

応答の長さは、リクエストによって返されるボリュームの数によって大幅に異なることがあります。

構文

次の図に、*ACSRQ QVOLUME* リクエストの構文を示します。

図9.12 ACSRQ QVOLUSE リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ QVOLUSE リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある ACSINT を参照します。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが IUCV IPARML へのアドレス指定機能を確立していることと IPARML が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの IUCV パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、IUCV SEND PATHID 文で使用されます。

PATHID は IPARML=YES が指定されている場合にのみ有効です。PATHID が指定されていない場合、後続の IUCV SEND でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、IUCV 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

リクエストの応答

QVOLUME の応答は、応答ヘッダー、およびリクエストによって返された *VOLSER* ごとのボリューム情報要素で構成されます。リクエストによって返された *VOLSER* と同じ順序でボリューム情報要素が表示されます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

SCRATCH

SCRATCH リクエストによって、ボリュームがサーバー制御データセット内のスクラッチステータスに配置されます。

考慮事項

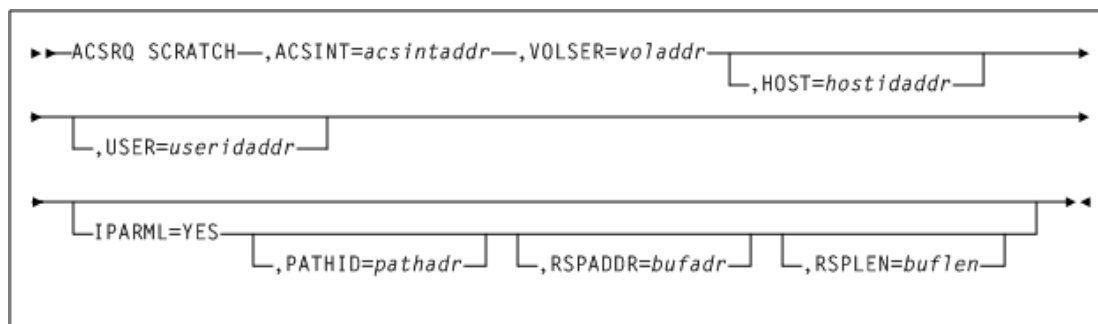
指定されるカートリッジはすでにライブラリ内にある必要があります。*SCRATCH* リクエストの結果として、カートリッジ移動は発生しません。ただし、*SCRATCH* リクエスト処理では、その状態を変更するカートリッジを選択する必要があります (つまり、カートリッジの排他的使

用を取得する必要があります)。結果として、カートリッジがドライブにマウントされている場合、*SCRATCH* リクエストは失敗します。

構文

次の図に、*ACSRQ SCRATCH* リクエストの構文を示します。

図9.13 *ACSRQ SCRATCH* リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ SCRATCH リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*ACSRQ* は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確認していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は *RX* タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの *RX* タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの *RX* タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

VOLSER=voladdr

オプションで、6 文字のボリュームラベルのアドレスを指定します。

voladdr はデータの *RX* タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

VOLSER または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。このパラメータは、マウントされるボリュームの *VOLSER* を指定します。*VOLSER* または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。

リクエストの応答

SCRATCH への応答には、応答ヘッダーのみが含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

SELSCR

SELSCR リクエストは、サーバーにライブラリスクラッチボリュームを選択させて、制御データセット内のスクラッチステータスからそれを削除させます。

考慮事項

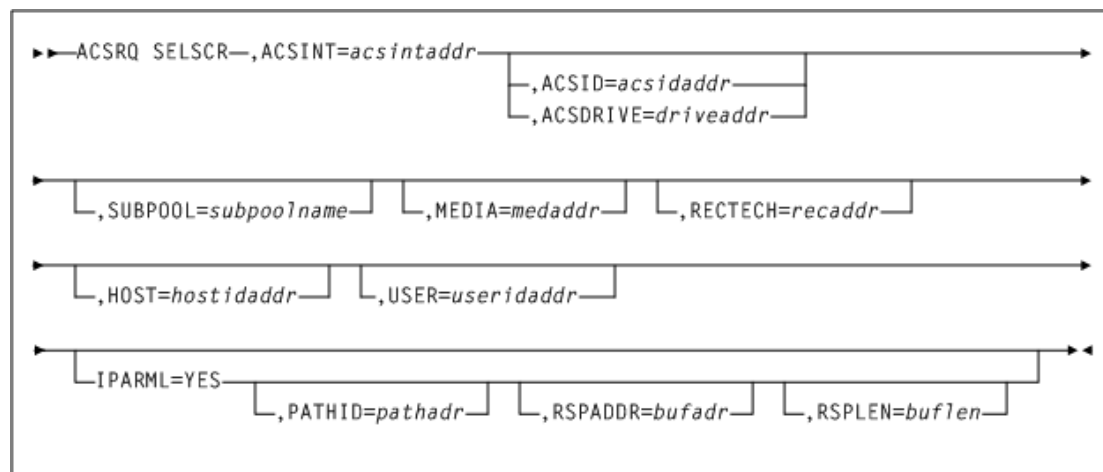
ボリュームの移動は発生しません。

ACSID も *DRIVE* も指定されていない場合、HSC はすべてのライブラリ LSM を検索して、もっとも多くスクラッチボリュームを格納する LSM からスクラッチボリュームを選択します。*ACSID* が指定されている場合、HSC は、指定された ACS 内でもっとも多くカートリッジを保持する LSM からスクラッチボリュームを選択します。*DRIVE* が指定されている場合、ドライブが自動モード LSM であれば、HSC はもっとも近い LSM からスクラッチボリュームを選択します。

構文

次の図に、*ACSRQ SELSCR* リクエストの構文を示します。

図9.14 ACSRQ SELSCR リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ SELSCR リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSID=acsidaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*ACSRQ* は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。*ACSRQ* は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

ACSDRIVE=driveaddr

オプションで、2 バイトのドライブ指定のアドレスを指定します (*ccua*)。

driveaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。

DRIVE は *ACSID* と相互に排他的です。これは、スクラッチボリュームが近いドライブを指定します。

MEDIA=medaddr

オプションで、選択したスクラッチカートリッジのメディアタイプを格納する 8 バイト文字フィールドのアドレスを指定します。*MEDIA* が指定されていない場合は、スクラッチカートリッジはメディアタイプに関係なく選択されます。

medaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

有効なメディアタイプ値のリストについては、「[メディアタイプ \(MEDIA\)](#)」を参照してください。

RECTECH=recaddr

オプションで、テープ面へのデータトラックの記録に使用される記録技法を格納する 8 バイトフィールドのアドレスを指定します。

RECTech が指定されていない場合、指定された *MEDIA* タイプに応じて、スクラッチカートリッジが選択されます。

recaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

有効な記録技法の値のリストについては、「[記録技法 \(RECTech\)](#)」を参照してください。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確認していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって *SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

SUBPOOL=subpoolname

オプションで、スクラッチサブプールの名前を含む 13 文字フィールドのアドレスを指定します。

subpoolname はデータの RX タイプアドレスまたはデータのアドレスを格納するレジスタの番号です。*SCRPOOL* (サブプールインデックス) はサポートされなくなります。*SUBPOOL* パラメータを使用してスクラッチプールを選択する必要があります。

SUBPOOL は *SCRATCH=YES* が指定されている場合にのみ有効です。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

リクエストの応答

SELSCR への応答には応答ヘッダーおよびボリューム情報要素が含まれます。応答ヘッダーには操作が成功したことを示すリターンコード (*SLXCMDRC*) が含まれます。ボリューム情報要素は、選択されたボリュームについて記述します。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

UNSCRATCH

UNSCRATCH リクエストによって、ボリュームが制御データセット内のスクラッチステータスから削除されます。

考慮事項

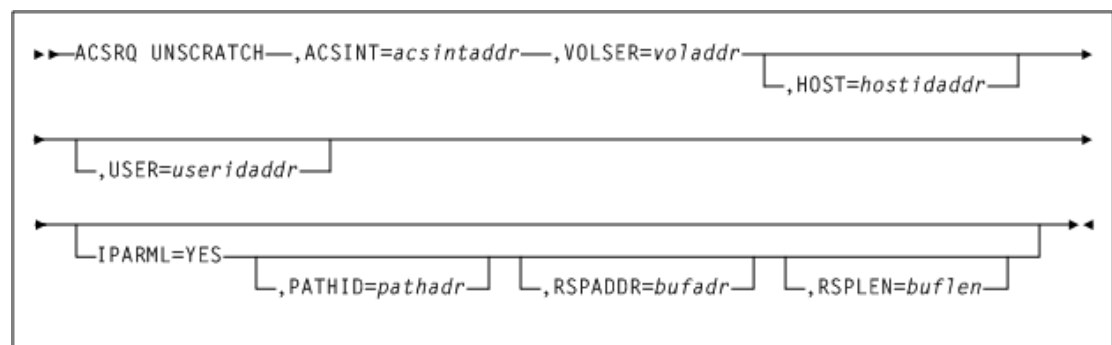
制御データセットに定義されていないボリュームをスクラッチ解除するリクエストは無効であるとみなされます。

実際のボリュームの場合、*UNSCRATCH* リクエストのため、カートリッジの移動が発生しません。ただし、*UNSCRATCH* リクエスト処理では、状態を変更するボリュームを選択する必要があります (つまり、ボリュームの排他的使用を取得する必要があります)。結果として、ボリュームが実際のドライブまたは仮想ドライブにマウントされている場合、*UNSCRATCH* リクエストは失敗します ([「考慮事項」](#)を参照してください)。

構文

次の図に、*ACSRQ UNSCRATCH* リクエストの構文を示します。

図9.15 *ACSRQ UNSCRATCH* リクエストの構文



パラメータ

ACSRQ UNSCRATCH リクエストには次のパラメータが含まれます。

ACSINT=acsintaddr

VM Client サービスマシンに送信されるデータ領域のアドレスを指定します。このパラメータは必須です。

acsintaddr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。ACSRQ は、データの入力時にこのアドレスにある *ACSINT* を参照します。

HOSTID=hostidaddr

オプションで、左揃えの空白がパディングされた 8 文字のホスト ID のアドレスを指定します。このパラメータが指定されていない場合、リクエストを実行しているホスト ID が使用されます。

hostidaddr は、RX タイプホスト ID アドレスまたはホスト ID アドレスを格納するレジスタ (2) - (12) です。

IPARML=YES

オプションで、リクエストが *IUCV IPARML* へのアドレス指定機能を確立していることと *IPARML* が初期化されていることを指定します。

PATHID=pathadr

オプションで、ライブラリサービスマシンの 2 バイトの *IUCV* パス ID のアドレスを指定します。

pathadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND PATHID* 文で使用されます。

PATHID は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*PATHID* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPADDR=bufadr

オプションで、*IUCV* 回答バッファのアドレスを指定します。

bufadr は RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは *IUCV SEND ANSBUF* 文で使用されます。

RSPADDR は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPADDR* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。

RSPLEN=buflen

オプションで、*IUCV* 回答バッファの長さのアドレスを指定します。

buflen は 2 バイトフィールドの RX タイプデータアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。このデータは、*IUCV SEND ANSLEN* 文で使用されます。

RSPLEN は *IPARML=YES* が指定されている場合にのみ有効です。*RSPLEN* が指定されていない場合、後続の *IUCV SEND* でそれを指定する必要があります。応答の長さは、*QCONFIG* によって、*SLXZDISM* に返される値以上である必要があります。

USER=useridaddr

オプションで、リクエストのコンソール ID に関連付けられた 8 バイトのユーザー ID を指定します。

useridaddr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

USER が指定されていない場合、リクエストを実行するユーザー ID が使用されます。

VOLSER=voladdr

オプションで、6 文字のポリウムラベルのアドレスを指定します。

voladdr はデータの RX タイプアドレスまたはデータアドレスを格納するレジスタの番号です。

VOLSER または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。このパラメータは、マウントされるポリウムの *VOLSER* を指定します。*VOLSER* または *SCRATCH=YES* を指定する必要があります。

リクエストの応答

UNSCRATCH への応答には、応答ヘッダーのみが含まれます。

SLX マクロについては、「[SLX マクロマッピング](#)」を参照してください。

インタフェースデータ領域

このセクションでは、*SLX* マクロのインタフェースデータ領域について説明します。

SLX マクロ

応答は常にヘッダーから始まります。ヘッダーのあとに 1 つ以上のセクションが続く場合があります。各セクションは、特定のタイプの「要素」(ポリウム情報要素など) の表です。応答ヘッダーがダブルワード境界に整列されている場合、後続のすべてのセクションと要素もダブルワード境界で開始することが保証されます。

応答にいずれかのタイプのセクションが含まれていない場合でも、セクションディレクトリ(数/オフセット/長さ)が、可能なセクションタイプごとに応答ヘッダーに定義されます。ヘッダー内でセクションディレクトリが表示される順序は、ヘッダーのあとのセクションが物理的に配置されている順序には関係ありません。

セクションディレクトリの数は、実際に応答内に存在するそのタイプの要素の数を示します。セクションディレクトリの数がゼロ以外の場合、そのセクションディレクトリのオフセットは、応答ヘッダーの先頭から、そのタイプの最初(または唯一)の要素までのオフセットを示します。セクションディレクトリの数が1よりも大きい場合、そのタイプの1つの要素の長さを指定するセクションディレクトリの長さを使用して、そのタイプの2つ目以降の要素にアクセスする必要があります。たとえば、2番目の要素へのオフセットを取得するには、オフセットに長さを追加し、3番目の要素へのオフセットを取得するには、再度長さを追加するというようになります。各セクション内の要素の数は可変です。次の表に、特定のリクエストで返される応答のセクションを示します。

次の表に、SLS マクロパラメータマトリックスを示します。

表9.1 SLS マクロ - パラメータマトリックス

応答セクション	ヘッダー	構成	CAP	ボリューム	ドライブ	LSM	メッセージテキスト
<i>DISMOUNT</i>	1	なし	なし	なし	なし	なし	1
<i>EJECT</i>	1	なし	なし	*	なし	なし	*
<i>MOUNT</i>	1	なし	なし	1 (スクラッチの場合)	なし	なし	1
<i>MOVE</i>	1	なし	なし	1 (成功した場合)	なし	なし	1
<i>QCAP</i>	1	なし	1+	なし	なし	なし	なし
<i>QCONFIG</i>	1	1	なし	なし	なし	なし	なし
<i>QDRIVES</i>	1	なし	なし	なし	1+	1+	なし
<i>QDRLIST</i>	1	なし	なし	1 (スクラッチでない場合)	1+	なし	なし
<i>QEJECT</i>	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし
<i>QREQUEST</i>	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし
<i>QSCRATCH</i>	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし
<i>QVOLUME</i>	1	なし	なし	*	なし	なし	なし
<i>QVOLUSE</i>	1	なし	なし	*	なし	なし	なし
<i>SCRATCH</i>	1	なし	なし	なし	なし	1+	なし
<i>SELSCR</i>	1	なし	なし	1	なし	なし	なし
<i>UNSCRATCH</i>	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし

注:

- 1 は 1 であり、1 のみに等しくなります。
- * (EJECT および QVOLUME) は SLX 応答領域に含まれているボリューム情報要素の数 (最大 500) に制限されます。
- 1+ は、ライブラリの構成に応じて 1 から n までの数を示します。

SLX マクロマッピング

次の例は、SLX レコード形式の出力を示しています。

例9.4 SLX レコード形式

SLX - VM CLIENT EXTERNAL INTERFACE REPLY

FUNCTION:

MAPS A REPLY AREA RETURNED BY ONE OF THE FOLLOWING VM CLIENT REQUESTS:

DISMOUNT - DISMOUNT A VOLUME

EJECT - EJECT A VOLUME FROM THE LIBRARY

MOUNT - MOUNT A VOLUME

MOVE - MOVE A VOLUME

QCAP - RETURN CAP SUMMARY

QCONFIG - RETURN CONFIGURATION SUMMARY

QDRIVES - RETURN DRIVE AND LSM INFORMATION

QDRLIST - RETURN DRIVE INFORMATION, ORDERED BY PREFERENCE

QSCRATCH - RETURN LSM INFORMATION, ORDERED BY PREFERENCE

QVOLUME - RETURN VOLUME INFORMATION

SCRATCH - CHANGE A VOLUME'S STATUS TO 'SCRATCH'

SELSCR - SELECT A SCRATCH VOLUME

SPECIAL CONSIDERATIONS:

A REPLY ALWAYS BEGINS WITH A HEADER. THE HEADER MAY BE FOLLOWED BY ONE OR MORE "SECTIONS". EACH SECTION IS A TABLE OF "ELEMENTS" OF A PARTICULAR TYPE (E.G. VOLUME INFORMATION ELEMENT). IF THE REPLY HEADER IS ALIGNED ON A DOUBLEWORD BOUNDARY, THEN ALL SUBSEQUENT SECTIONS AND ELEMENTS ARE GUARANTEED TO ALSO BEGIN ON DOUBLEWORD BOUNDARIES.

A SECTION DIRECTORY (NUMBER/OFFSET/LENGTH) IS DEFINED IN THE REPLY HEADER FOR EACH POSSIBLE SECTION TYPE, EVEN THOUGH NO REPLY WILL EVER CONTAIN ALL TYPES OF SECTIONS. THE ORDER IN WHICH THE SECTION DIRECTORIES APPEAR WITHIN THE HEADER HAS NO RELATIONSHIP TO THE ORDER IN WHICH SECTIONS ARE PHYSICALLY ARRANGED AFTER THE HEADER.

A SECTION DIRECTORY'S NUMBER SPECIFIES HOW MANY ELEMENTS OF THAT TYPE ARE ACTUALLY PRESENT IN THE REPLY. IF A SECTION DIRECTORY'S NUMBER IS NONZERO, THEN THAT SECTION DIRECTORY'S OFFSET SPECIFIES THE OFFSET, FROM THE START OF THE REPLY HEADER, TO THE FIRST (OR ONLY) ELEMENT OF THAT TYPE. IF A SECTION DIRECTORY'S NUMBER IS GREATER THAN ONE, THEN THAT SECTION DIRECTORY'S LENGTH, WHICH SPECIFIES THE LENGTH OF A SINGLE ELEMENT OF THAT TYPE, MUST BE USED TO ACCESS THE SECOND AND SUBSEQUENT ELEMENTS OF THAT TYPE: ADD THE LENGTH TO THE OFFSET TO GET THE OFFSET TO THE SECOND ELEMENT; ADD IN THE LENGTH AGAIN TO GET THE OFFSET TO THE THIRD ELEMENT; AND SO ON.

HEADER

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
0	(0)	STRUCTURE		SLX	
0	(0)	AREA	1	SLXRPLY	REPLY HEADER
0	(0)	CHARACTER	3	SLXHID	HEADER IDENTIFIER
3	(3)	A-ADDR	1	SLXCMDRC	RETURN CODE:
0	(00)	CONST		SLXR0K	REQUEST PROCESSED SUCCESSFULLY

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
4	(04)	CONST		SLXRWARN	REQUEST SUCCESSFUL WITH WARNING SLXSRC WILL PROVIDE THE SPECIFIC REASON FOR THE WARNING
8	(08)	CONST		SLXRBADP	REQUEST FAILED; THE REQUEST BLOCK (MAPPED BY ACSINT) CONTAINED INVALID DATA (E.G., INCOMPATIBLE OPTIONS); SLXSRC (REASON CODE) WILL PROVIDE THE OFFSET OF THE ACSINT FIELD FOUND TO BE IN ERROR.
12	(0C)	CONST		SLXRIERR	REQUEST FAILED; AN UNRECOVERABLE INTERNAL ERROR OCCURRED WHILE PROCESSING THE REQUEST.
16	(10)	CONST		SLXRFAIL	REQUEST FAILED; SLXSRC WILL PROVIDE THE SPECIFIC REASON FOR THE FAILURE.
20	(14)	CONST		SLXRNHSC	REQUEST FAILED - HSC NOT AVAILABLE
44	(2C)	CONST		SLXRBADL	REQUEST FAILED; REPLY AREA PROVIDED BY REQUESTOR WAS TOO SMALL TO CONTAIN ALL REPLY DATA ASSOCIATED WITH THE REQUEST. IF FIELD SLXCRLN IS NON-ZERO, IT CONTAINS THE LENGTH VALUE THAT SHOULD BE SPECIFIED FOR THE REPLY AREA FOR THIS REQUEST.
48	(30)	CONST		SLXRNVCI	VCIRQST AND VCIRESP NOT SUPPORTED. EITHER VTCS IS NOT INSTALLED - OR - IS NOT AT THE REQUIRED LEVEL TO SUPPORT THE PGMI VCI RESPONSES.
4	(04)	A-ADDR	1	SLXVERS	REPLY VERSION CODE:
7	(07)	CONST	3	SLXVCODE	THIS IS VERSION 9 OF THE REPLY AREA.
5	(5)	HEXSTRING	4	-RESERVED-	RESERVED.
8	(8)	SIGNED-FWORD		SLXSRC	REASON CODE FOR FAILED OPERATION.
32818	(8032)	CONST		SLXTINTR	PGMI TASK INTERRUPTED.
32822	(8036)	CONST		SLXSANF	SEARCH ARGUMENT NOT FOUND.
32826	(803A)	CONST		SLXMSTT	MISMATCHED TOKEN TYPES.
32832	(8040)	CONST		SLXTRNF	TOKEN AREA NOT FOUND.
32848	(8050)	CONST		SLXSFUL	REPLY AREA FULL.
32849	(8051)	CONST		SLXDVMM	MEDIA INCOMPATIBLE WITH DEVICE TYPE.
12	(C)	SIGNED-FWORD	4	SLXCRLN	IF RETURN CODE (SLXCMDRC) IS 2C (SLXRBADL), THEN THIS FIELD CONTAINS EITHER THE MINIMUM ACCEPTABLE REPLY AREA LENGTH FOR THE REQUEST, OR 0

16	(10)	SIGNED-FWORD	4	SLXPEOFF	IF THE MINIMUM LENGTH COULDN'T BE DETERMINED. OTHERWISE (I.E., RETURN CODE ISN'T 2C), THIS FIELD CONTAINS THE ACTUAL LENGTH OF THIS REPLY.
20	(14)	LENGTH		SLXHL	PARAMETER ERROR OFFSET IF SLSXRC <> 0 THEN THIS POINTS TO AN ELEMENT IN A LIST WHERE PROCESSING STOPPED WHEN THE REQUEST WAS "QCAP". TO MAKE COMPATIBLE WITH MVS CODE
CONFIGURATION SUMMARY SECTION DIRECTORY					
DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
20	(14)	SIGNED-FWORD	4	SLXXCFGN	NUMBER OF CONFIGURATION ELEMENTS PRESENT IN THIS REPLY.
24	(18)	SIGNED-FWORD	4	SLXXCFG0	OFFSET TO CONFIGURATION SECTION, FROM START OF REPLY, OR 0 IF REPLY DOESN'T CONTAIN ANY CONFIGURATION ELEMENTS.
28	(1C)	SIGNED-FWORD	4	SLXXCFGL	LENGTH OF A CONFIGURATION ELEMENT.
VOLUME INFORMATION SECTION DIRECTORY					
DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
32	(20)	SIGNED-FWORD	4	SLXXVOLN	NUMBER OF VOLUME ELEMENTS PRESENT IN THIS REPLY.
36	(24)	SIGNED-FWORD	4	SLXXVOLO	OFFSET TO VOLUME SECTION, FROM START OF REPLY, OR 0 IF REPLY DOESN'T CONTAIN ANY VOLUME ELEMENTS.
40	(28)	SIGNED-FWORD	4	SLXXVOLL	LENGTH OF A VOLUME ELEMENT.
DRIVE INFORMATION SECTION DIRECTORY					
DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
44	(2C)	SIGNED-FWORD	4	SLXXDRVN	NUMBER OF DRIVE ELEMENTS PRESENT IN THIS REPLY.
48	(30)	SIGNED-FWORD	4	SLXXDRVO	OFFSET TO DRIVE SECTION, FROM START OF REPLY, OR 0 IF REPLY DOESN'T CONTAIN ANY DRIVE ELEMENTS.
52	(34)	SIGNED-FWORD	4	SLXXDRVL	LENGTH OF A DRIVE ELEMENT.
LSM INFORMATION SECTION DIRECTORY					
DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
56	(38)	SIGNED-FWORD	4	SLXXLSMN	NUMBER OF LSM ELEMENTS PRESENT IN THIS REPLY
60	(3C)	SIGNED-FWORD	4	SLXXLSMO	OFFSET TO LSM SECTION, FROM START OF REPLY, OR 0 IF REPLY DOESN'T CONTAIN ANY LSM ELEMENTS.
64	(40)	SIGNED-FWORD	4	SLXXLSML	LENGTH OF AN LSM ELEMENT.
MESSAGE TEXT SECTION DIRECTORY					

WARNING: THIS DIRECTORY DOES NOT EXIST WHEN THE VALUE IN THE REPLY VERSION NUMBER FIELD, SLXVERS, IS LESS THAN 2.

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
68	(44)	SIGNED-FWORD	4	SLXXMSGN	NUMBER OF MESSAGE ELEMENTS PRESENT IN THIS REPLY.
72	(48)	SIGNED-FWORD	4	SLXXMSGO	OFFSET TO MESSAGE SECTION, FROM START OF REPLY, OR 0 IF REPLY DOESN'T CONTAIN ANY MESSAGE ELEMENTS.
76	(4C)	SIGNED-FWORD	4	SLXXMSGL	LENGTH OF A MESSAGE ELEMENT

QCAP INFORMATION SECTION DIRECTORY

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
80	(50)	SIGNED-FWORD	4	SLXXCAPN	NUMBER OF CAP ELEMENTS PRESENT IN THIS REPLY.
84	(54)	SIGNED-FWORD	4	SLXXCAPO	OFFSET TO CAP SECTION FROM START OF REPLY.
88	(58)	SIGNED-FWORD	4	SLXXCAPL	LENGTH OF A CAP ELEMENT.
					CONFIGURATION SUMMARY ELEMENT THIS ELEMENT APPEARS IN THE REPLY TO A QCONFIG REQUEST AND SUPPLIES SUMMARY INFORMATION ABOUT THE LIBRARY AND ABOUT REPLY LENGTHS NECESSARY FOR OTHER TYPES OF REQUESTS.
0	(0)	STRUCTURE		SLXSCFG	CONFIGURATION SUMMARY ELEMENT.
0	(0)	CHARACTER	3	SLXLID	ELEMENT IDENTIFIER.
3	(3)	HEXSTRING	1	-RESERVED-	RESERVED.
4	(4)	CHARACTER	8	SLXLHNAM	HOST NAME.
12	(C)	SIGNED-FWORD	4	SLXLHHBT	HOST PULSE VALUE.
16	(10)	SIGNED-FWORD	4	SLXLRSTM	RESERVE TIMEOUT LIMIT.
20	(14)	CHARACTER	8	SLXLQNAM	ENQ MAJOR NAME.
28	(1C)	CHARACTER	8	SLXLEJPS	EJECT COMMAND PASSWORD (ENCRYPTED)
36	(24)	CHARACTER	1	SLXLCMPF	COMMAND PREFIX CHARACTER.
37	(25)	A-ADDR	1	SLXLSCLB	LIBRARY DEFAULT SCRATCH LABEL TYPE CODE:
1	(01)	CONST		SLXLLBSL	STANDARD (SL).
2	(02)	CONST		SLXLLBAL	ASCII (AL).
3	(03)	CONST		SLXLLBNL	NON-LABELED (NL).
4	(04)	CONST		SLXLLBNS	NON-STANDARD LABEL (NSL)
38	(26)	A-ADDR	1	SLXLSMF	SMF RECORD TYPE
39	(27)	HEXSTRING	1	-RESERVED-	RESERVED.
40	(28)	SIGNED-FWORD	4	SLXQMDR	LARGEST NUMBER OF DRIVES IN ANY ACS.
44	(2C)	SIGNED-FWORD	4	SLXQDRCT	NUMBER OF DRIVES IN THE LIBRARY.
48	(30)	SIGNED-FWORD	4	SLXQACNT	NUMBER OF ACSS IN THE LIBRARY.
52	(34)	SIGNED-FWORD	4	SLXQLCNT	NUMBER OF LSMS IN THE LIBRARY.
56	(38)	SIGNED-FWORD	4	SLXZVOL	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A QVOLUME REQUEST THAT SPECIFIES THE LARGEST SUPPORTED NUMBER OF VOLUMES (500).
60	(3C)	SIGNED-FWORD	4	SLXZQDRV	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A QDRIVES REQUEST.

64	(40)	SIGNED-FWORD	4	SLXZQDRL	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A QDRLIST REQUEST.
68	(44)	SIGNED-FWORD	4	SLXQVOL	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A QVOLUME REQUEST THAT SPECIFIES ONLY 1 VOLUME.
72	(48)	SIGNED-FWORD	4	SLXZGSCR	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A SELSCR REQUEST.
76	(4C)	SIGNED-FWORD	4	SLXZMDM	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A MOUNT REQUEST.
80	(50)	SIGNED-FWORD	4	SLXZQSCR	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A QSCRATCH REQUEST.
84	(54)	SIGNED-FWORD	4	SLXZDISM	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A DISMOUNT REQUEST.
88	(58)	SIGNED-FWORD	4	SLXZEJCT	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO AN EJECT REQUEST THAT SPECIFIES THE LARGEST SUPPORTED NUMBER OF VOLUMES (500).
92	(5C)	SIGNED-FWORD	4	SLXZSCR	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A SCRATCH REQUEST.

WARNING: THE REMAINING FIELDS OF THIS ELEMENT ARE AVAILABLE FOR VERSION(S) 3 AND ABOVE.

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
108	(6C)	SIGNED-FWORD	4	SLXZMOVE	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO AN MOVE REQUEST.
112	(70)	SIGNED-FWORD	4	SLXZEJC1	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO AN EJECT REQUEST FOR ONLY 1 VOLUME.

WARNING: THE REMAINING FIELDS OF THIS ELEMENT ARE AVAILABLE FOR VERSION(S) 6 AND ABOVE.

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
116	(74)	A-ADDR	4	SLXQUCSA	MVS -- ADDRESS OF SLSUXCSA.
120	(78)	SIGNED-FWORD	4	-RESERVED-	RESERVED.
124	(7C)	SIGNED-FWORD	4	SLXQLCAP	NUMBER OF CAPS IN LIBRARY.
128	(80)	SIGNED-FWORD	4	SLXEXLM0	ExLM R15
132	(84)	SIGNED-FWORD	4	SLXEXLM1	ExLM R1
136	(88)	SIGNED-FWORD	4	SLXEXLM2	ExLM R2
140	(8C)	SIGNED-FWORD	4	SLXZQCAP	MAXIMUM LENGTH OF REPLY DATA RETURNED IN RESPONSE TO A QCAP REQUEST.
156	(9C)	SIGNED-FWORD	4	-RESERVED-	RESERVED FUTURE USE.
160	(A0)	SIGNED-HWORD	2	SLXHSCV	HSC VERSION NUMBER
162	(A2)	HEXSTRING	6	-RESERVED-	
168	(A8)	CONST		SLXSFCGL	LENGTH OF A CONFIGURATION ELEMENT.

QDSN INFORMATION ELEMENT

THIS ELEMENT APPEARS IN THE REPLY TO A QDSN REQUEST AND SUPPLIES SUMMARY INFORMATION ABOUT THE CURRENT REFERENCED DATASETS USED BY THE HSC.

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
0	(0)	STRUCTURE		SLXDSNIM	DATASET INFORMATION MAP.
0	(0)	CHARACTER	3	SLXQDID	SECTION IDENTIFIER.
3	(03)	BITSTRING	1	SLXDSFLG	DATASET TYPE.

1	(01)	CONST		SLXDSPRM	CDS PRIMARY.
2	(02)	CONST		SLXDSSEC	CDS SECONDARY.
3	(03)	CONST		SLXDSSBY	CDS STANDBY.
4	(04)	CONST		SLXD SVAT	VOLUME ATTRIBUTES.
5	(05)	CONST		SLXD SUAT	UNIT ATTRIBUTES.
6	(06)	CONST		SLXDSTRQ	TAPEREQS.
7	(07)	CONST		SLXD SPLB	PARMLIB.
8	(08)	CONST		SLXD SJNP	PRIMARY JOURNAL.
9	(09)	CONST		SLXD SJNA	ALTERNATE JOURNAL.
9	(09)	CONST		SLXD SMAX	MAX NUMBER OF QDS RETURNED.
4	(04)	CHARACTER	44	SLXD SNAM	DATASET NAME.
48	(30)	CHARACTER	8	SLXD SMBR	MEMBER NAME.
56	(38)	CHARACTER	6	SLXD SVOL	VOLUME NAME.
62	(3E)	CHARACTER	8	SLXD SUNT	UNIT NAME.
70	(46)	CHARACTER	2	-RESERVED-	RESERVED.
72	(48)	CHARACTER	96	-RESERVED-	RESERVED.
168	(A8)	AREA	8	-RESERVED-	ALIGN
168	(A8)	LENGTH		SLXD SNEL	LENGTH OF ONE DATASET ENTRY.

CAP INFORMATION ELEMENT

THIS ELEMENT SUPPLIES INFORMATION ABOUT A SINGLE LIBRARY CAP

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
0	(0)	STRUCTURE		SLXSCAP	
0	(0)	CHARACTER	4	SLXCID	SECTION IDENTIFIER.
4	(4)	HEXSTRING	1	SLXCACS	ACS ADDRESS.
5	(5)	HEXSTRING	1	SLXC LSM	LSM ADDRESS.
6	(6)	HEXSTRING	1	SLXC CAP	CAP NUMBER.
7	(7)	HEXSTRING	1	-RESERVED-	RESERVED.
8	(8)	AREA	2	SLXC STAT	CAP STATUS.
8	(8)	BITSTRING	1	SLXC STB1	CAP STATUS.
		1... X'80'		SLXC STCA	CAP IS ACTIVE.
		.1... X'40'		SLXC STNR	CAP NEEDS RECOVERY.
		..1... X'20'		SLXC STAM	CAP IS IN AUTOMATIC MODE.
		...1... X'10'		SLXC STCL	CAP IS LINKED.
	 1... X'08'		SLXC STCO	CAP IS ONLINE.
9	(9)	BITSTRING	1	SLXC STB2	CAP MODE.
		1... X'80'		SLXC STIE	CAP IS ENTERING.
		.1... X'40'		SLXC STID	CAP IS DRAINING.
		..1... X'20'		SLXC STIJ	CAP IS EJECTING.
		...1... X'10'		SLXC STIC	CAP IS CLEANING.
	 1... X'08'		SLXC STII	CAP IS IDLE .
10	(A)	BITSTRING	1	SLXTYPE	TYPE OF CAP.
		1... X'80'		SLXCTPC	PRIORITY CAP
	1 X'01'		SLXCTCIM	CIMARRON
	1 X'02'		SLXCTCLP	CLIPPER.
	11 X'03'		SLXCTTWS	STANDARD CLIPPER
	1.. X'04'		SLXCTTWO	OPTIONAL CLIPPER
	1.1 X'05'		SLXCTTIM	(9740/TimberWolf)
12	(C)	SIGNED-HWORD	2	SLXCCELL	CELLS IN CAP.
14	(E)	HEXSTRING	1	SLXC NROW	ROWS.
15	(F)	HEXSTRING	1	SLXC NCOL	COLUMNS.
16	(10)	HEXSTRING	1	SLXC CMAG	MAGAZINES.
17	(11)	HEXSTRING	1	SLXC CMGC	CELLS IN MAGAZINE.
DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
18	(12)	CHARACTER	8	SLXC JOB	JOBNAME OF OWNER.
26	(1A)	HEXSTRING	6	-RESERVED-	ALIGN TO DOUBLE WORD
32	(20)	CONST		SLXS CAPL	LENGTH OF A CAP ELEMENT.

VOLUME INFORMATION ELEMENT

THIS ELEMENT SUPPLIES INFORMATION ABOUT A SINGLE VOLUME AND IS REPEATED FOR EACH VOLUME ASSOCIATED WITH A REQUEST. THIS ELEMENT MAY APPEAR IN REPLIES TO THE FOLLOWING REQUESTS:

QDRLIST - RETURN DRIVE INFORMATION, ORDERED BY PREFERENCE

QVOLUME - RETURN VOLUME INFORMATION
 SELSCR - SELECT A SCRATCH VOLUME
 EJECT - EJECT VOLUMES

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
0	(0)	STRUCTURE		SLXSVOL	VOLUME INFORMATION ELEMENT.
0	(0)	CHARACTER	3	SLXVID	ELEMENT IDENTIFIER.
3	(3)	BITSTRING	1	SLXVSTA	VOLUME STATUS:
		1... .. X'80'		SLXVILB	VOLUME IS IN LIBRARY
		. .1... .. X'40'		SLXVOHST	VOLUME IS IN USE BY ANOTHER HOST
		. . .1. X'20'		SLXVSCR	VOLUME IS CONSIDERED SCRATCH
		. . .1 X'10'		SLXVMAL	VOLUME IS IN MANUAL-MODE LSM.
	 1... X'08'		SLXVDSC	VOLUME IS IN DISCONNECTED ACS.
	1.. X'04'		SLXVMNT	VOLUME IS MOUNTED ON A DRIVE.
	1. X'02'		SLXVERR	VOLUME IS 'ERRANT' (I.E., ITS LOCATION WITHIN THE LIBRARY IS UNCERTAIN).
	1 X'01'		SLXVTV	VOLUME IS A VTCS VIRTUAL VOLUME
4	(4)	CHARACTER	6	SLXVSER	VOLUME SERIAL.
10	(A)	A-ADDR	1	SLXVLC	VOLUME LOCATION CODE:
0	(0)	CONST		SLXVUNK	LOCATION DATA UNAVAILABLE (SLXVLOC IS 0).
1	(1)	CONST		SLXVCEL	LOCATION DATA DESCRIBES A CELL.
2	(02)	CONST		SLXVDRV	LOCATION DATA DESCRIBES A DRIVE.
11	(B)	AREA	5	SLXVLOC	VOLUME LOCATION DATA:
11	(B)	A-ADDR	1	SLXVACS	ACS ID.
12	(C)	A-ADDR	1	SLXVLSM	LSM ID.
13	(D)	A-ADDR	3	SLXVPNL	CELL'S PANEL ID, ROW ID, COLUMN ID.
13	(D)	A-ADDR	2	SLXVDRIV	DRIVE ADDRESS (0CUU).
15	(F)	BITSTRING	1	SLXVSTA2	MORE VOLUME STATUS: EQU X'E0' RESERVED.
		...1 X'10'		SLXVMLMU	VOLUME MEDIA TYPE CAME FROM LMU. EQU X'08' RESERVED.
	1.. X'04'		SLXVMUNR	VOLUME MEDIA TYPE UNREADABLE.
	1. X'02'		SLXVMVLA	VOLUME MEDIA TYPE CAME FROM VOLATTR.
	1 X'01'		SLXVMDFL	VOLUME MEDIA TYPE DEFAULT ASSIGNED.
16	(10)	AREA	8	SLXVTSSN	VTSS NAME
16	(10)	SIGNED-FWORD	4	SLXVDATI	HI-WORD OF TOD AT INSERTION.
20	(14)	SIGNED-FWORD	4	SLXVDATL	HI-WORD OF TOD LAST SELECTION.
24	(18)	SIGNED-FWORD	4	SLXVSCNT	SELECTION COUNT.
28	(1C)	SIGNED-FWORD	4	SLXVDATD	HI-WORD OF TOD LAST MOUNT.
32	(20)	CHARACTER	8	SLXVMED	TYPE OF MEDIA.
DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
40	(28)	CONST		SLXSVOLN	LENGTH OF A VOLUME ELEMENT.
40	(28)	CONST		SLXSVOLL	LENGTH OF A VOLUME ELEMENT.

DRIVE INFORMATION ELEMENT
 THIS ELEMENT SUPPLIES INFORMATION ABOUT A SINGLE LIBRARY TAPE DRIVE AND IS REPEATED FOR EACH DRIVE ASSOCIATED WITH A REQUEST. THIS ELEMENT MAY APPEAR IN REPLIES TO THE FOLLOWING REQUESTS:

QDRIVES - RETURN DRIVE AND LSM INFORMATION
 QDRLIST - RETURN DRIVE INFORMATION, ORDEREDBY PREFERENCE

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
0	(0)	STRUCTURE		SLXSDRV	DRIVE INFORMATION ELEMENT.
0	(0)	CHARACTER	3	SLXDID	ELEMENT IDENTIFIER

3	(3)	BITSTRING	1	SLXDSTA	LIBRARY STATUS:
		...1 X'10'		SLXDMANU	LSM IS IN MANUAL MODE.
	 1... X'08'		SLXDDISC	ACS IS DISCONNECTED.
4	(4)	A-ADDR	1	SLXQDEAC	ACS ID.
5	(5)	A-ADDR	1	SLXQDELS	LSM ID.
6	(6)	A-ADDR	2	SLXQDECU	DRIVE ADDRESS (0CUU).
8	(8)	CHARACTER	8	SLXQDRT	RECORDING TECHNIQUE OF DRIVE
16	(10)	CONST		SLXSDRVL	LENGTH OF A DRIVE ELEMENT.

LSM INFORMATION ELEMENT

THIS ELEMENT SUPPLIES INFORMATION ABOUT A SINGLE LSM (LIBRARY STORAGE MODULE) AND IS REPEATED FOR EACH LSM ASSOCIATED WITH A REQUEST. THIS ELEMENT MAY APPEAR IN REPLIES TO THE FOLLOWING REQUESTS:

QDRIVES - RETURN DRIVE AND LSM INFORMATION

QSCRATCH - RETURN LSM INFORMATION, ORDERED BY PREFERENCE

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
0	(0)	STRUCTURE		SLXSLSM	LSM INFORMATION ELEMENT
0	(0)	CHARACTER	3	SLXMID	ELEMENT IDENTIFIER.
3	(3)	BITSTRING	1	SLXMSTAT	LIBRARY STATUS:
		...1 X'10'		SLXMANUL	LSM IS IN MANUAL MODE
	 1... X'08'		SLXMDISC	ACS IS DISCONNECTED.
4	(4)	A-ADDR	1	SLXMACS	ACS ID.
5	(5)	A-ADDR	1	SLXMLSM	LSM ID.
6	(6)	SIGNED-FWORD	1	SLXMADJN	NUMBER OF ADJACENT LSMS.
7	(7)	A-ADDR	1	SLXMADJ(4)	LIST OF LSM IDS OF ADJACENT LSMS (ONLY THE FIRST N IDS ARE VALID, WHERE N IS THE VALUE IN SLXMADJN).
11	(B)	HEXSTRING	1	-RESERVED-	RESERVED.
12	(C)	SIGNED-FWORD	4	SLXMNSCR	NUMBER OF SCRATCH VOLUMES IN THIS LSM.
16	(10)	SIGNED-FWORD	4	SLXMTCEL	TOTAL CELLS IN LSM.
20	(14)	SIGNED-FWORD	4	SLXMFCEL	FREE CELLS IN LSM.
24	(18)	CONST		SLXSLSML	LENGTH OF AN LSM ELEMENT.

MESSAGE TEXT ELEMENT THIS ELEMENT SUPPLIES THE COMPLETE TEXT OF THE MESSAGE WHOSE BINARY MESSAGE ID NUMBER IS REPORTED IN HEADER FIELD SLXSRC. THIS ELEMENT MAY APPEAR IN REPLIES TO THE FOLLOWING REQUESTS: DISMOUNT - DISMOUNT A VOLUME MOUNT - MOUNT A

VOLUMEMOVE - MOVE A VOLUME EJECT - EJECT VOLUMES

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
0	(0)	STRUCTURE		SLXSMSG	MESSAGE TEXT ELEMENT.
0	(0)	CHARACTER	3	SLXGID	ELEMENT IDENTIFIER.
3	(3)	CHARACTER	125	SLXGTEXT	TEXT OF THE MESSAGE WHOSE NUMBER IS IN FIELD SLXSRC OF THE REPLY HEADER.
0	(0)	STRUCTURE		SLXSMSG	
128	(80)	CONST		SLXSMSG	LENGTH OF A MESSAGE ELEMENT.

相互参照

次の表に、SLX マクロの相互参照を示します。

表9.2 SLX マクロの相互参照

名前	長さ	オフセット値
SLXCACS	000001	04
SLXCCAP	000001	06

名前	長さ	オフセット値
SLXCCELL	000002	0C
SLXCCMAG	000001	10
SLXC CMGC	000001	11
SLXCID	000004	00
SLXCJOB	000008	12
SLXC LSM	000001	05
SLXC MDRC	000001	03
SLXCNCOL	000001	0F
SLXC NROW	000001	0E
SLXCRLN	000004	0C
SLXCSTAM	なし	20
SLXCSTAT	000002	08
SLXCSTB1	000001	08
SLXCSTB2	000001	09
SLXCSTCA	なし	80
SLXCSTCL	なし	10
SLXCSTCO	なし	08
SLXCSTIC	なし	10
SLXCSTID	なし	40
SLXCSTIE	なし	80
SLXCSTII	なし	08
SLXCSTIJ	なし	20
SLXCSTNR	なし	40
SLXCCTCIM	なし	01
SLXCCTCLP	なし	02
SLXCCTPC	なし	80
SLXCCTTIM	なし	05
SLXCCTTWO	なし	04
SLXCCTTWS	なし	03

名前	長さ	オフセット値
SLXHL	なし	14
SLXHSCV	000002	A0
SLXL	なし	B0
SLXLCMPF	000001	24
SLXLEJPS	000008	1C
SLXLHHBT	000004	0C
SLXLHNAM	000008	04
SLXLID	000003	00
SLXLLBAL	なし	02
SLXLLBNL	なし	03
SLXLLBNS	なし	04
SLXLLBSL	なし	01
SLXLOCKD	なし	20
SLXLQNAM	000008	14
SLXLRSTM	000004	10
SLXLSCLB	000001	25
SLXLSMF	000001	26
SLXMACS	000001	04
SLXMADJI	000001	07
SLXMADJN	000001	06
SLXMANUL	なし	10
SLXMDISC	なし	08
SLXMFCEL	000004	14
SLXMID	000003	00
SLXMLSM	000001	05
SLXMNSCR	000004	0C
SLXMSTAT	000001	03
SLXMSTT	なし	803A
SLXMTCEL	000004	10

名前	長さ	オフセット値
<i>SLXNORSP</i>	なし	28
<i>SLXNTCB</i>	なし	1C
<i>SLXPEOFF</i>	000004	10
<i>SLXQACNT</i>	000004	30
<i>SLXQDEAC</i>	000001	04
<i>SLXQDECU</i>	000002	06
<i>SLXQDELS</i>	000001	05
<i>SLXQDID</i>	000003	00
<i>SLXQDRCT</i>	000004	2C
<i>SLXQDRT</i>	000008	08
<i>SLXQID</i>	000004	00
<i>SLXQJTC</i>	000004	08
<i>SLXQJTD</i>	なし	00
<i>SLXQJTL</i>	なし	18
<i>SLXQJTN</i>	なし	FFFF
<i>SLXQJTS</i>	000002	0C
<i>SLXQJTT</i>	000004	04
<i>SLXQJTV</i>	000006	0E
<i>SLXQLCAP</i>	000004	7C
<i>SLXQLCNT</i>	000004	34
<i>SLXQMDR</i>	000004	28
<i>SLXQUCSA</i>	000004	74
<i>SLXRBADL</i>	なし	2C
<i>SLXRBADP</i>	なし	08
<i>SLXRBТОK</i>	なし	3C
<i>SLXREOV</i>	なし	34
<i>SLXRFAIL</i>	なし	10
<i>SLXRIERR</i>	なし	0C
<i>SLXRNAUT</i>	なし	18

名前	長さ	オフセット値
SLXRNHSC	なし	14
SLXRNVCI	なし	30
SLXR0K	なし	00
SLXRPLY	000001	00
SLXRVNV	なし	38
SLXRWARN	なし	04
SLXSANF	なし	8036
SLXSCAPL	なし	20
SLXSCFGL	なし	A8
SLXSDRVL	なし	10
SLXSFUL	なし	8050
SLXSID	000004	00
SLXSLSML	なし	18
SLXSMSG	なし	80
SLXSRC	000004	08
SLXSTPE	なし	EE
SLXSTPK	なし	00
SLXSTPL	なし	10
SLXSTPN	なし	FF
SLXSTPS	000001	09
SLXSTPT	000004	04
SLXSTPY	000001	08
SLXSVOLL	なし	28
SLXSVOLN	なし	28
SLXTINTR	なし	8032
SLXTPROT	なし	24
SLXTRNF	なし	8040
SLXVACS	000001	0B
SLXVCEL	なし	01

名前	長さ	オフセット値
<i>SLXVCODE</i>	なし	07
<i>SLXVDATD</i>	000004	1C
<i>SLXVDATI</i>	000004	10
<i>SLXVDATL</i>	000004	14
<i>SLXVDRIV</i>	000002	0D
<i>SLXVDRV</i>	なし	02
<i>SLXVDSC</i>	なし	08
<i>SLXVERR</i>	なし	02
<i>SLXVERS</i>	000001	04
<i>SLXVID</i>	000003	00
<i>SLXVILB</i>	なし	80
<i>SLXVLC</i>	000001	0A
<i>SLXVLOC</i>	000005	0B
<i>SLXVLSM</i>	000001	0C
<i>SLXVMAL</i>	なし	10
<i>SLXVMDFL</i>	なし	01
<i>SLXVMED</i>	000008	20
<i>SLXVMLMU</i>	なし	10
<i>SLXVMNT</i>	なし	04
<i>SLXVMUNR</i>	なし	04
<i>SLXVMVLA</i>	なし	02
<i>SLXVOHST</i>	なし	40
<i>SLXVPNL</i>	000003	0D
<i>SLXVSCNT</i>	000004	18
<i>SLXVSCR</i>	なし	20
<i>SLXVSER</i>	000006	04
<i>SLXVSTA</i>	000001	03
<i>SLXVSTA2</i>	000001	0F
<i>SLXVTSSN</i>	000008	10

名前	長さ	オフセット値
SLXVTV	なし	01
SLXVUNK	なし	00
SLXXCAPL	000004	58
SLXXCAPN	000004	50
SLXXCAPO	000004	54
SLXXCFGH	000004	1C
SLXXCFGN	000004	14
SLXXCFG0	000004	18
SLXXDRVH	000004	34
SLXXDRVN	000004	2C
SLXXDRVO	000004	30
SLXXLSML	000004	40
SLXXLSMN	000004	38
SLXXLSMO	000004	3C
SLXXMSGH	000004	4C
SLXXMSGN	000004	44
SLXXMSG0	000004	48
SLXXQDSL	000004	7C
SLXXQDSN	000004	74
SLXXQDS0	000004	78
SLXXQJTL	000004	64
SLXXQJTN	000004	5C
SLXXQJTO	000004	60
SLXXSDL	なし	B0
SLXXSTPL	000004	70
SLXXSTPN	000004	68
SLXXSTPO	000004	6C
SLXXVCIL	000004	88
SLXXVCIN	000004	80

名前	長さ	オフセット値
<i>SLXXVCIO</i>	000004	84
<i>SLXXVOLL</i>	000004	28
<i>SLXXVOLN</i>	000004	20
<i>SLXXVOLO</i>	000004	24
<i>SLXZDEFP</i>	000004	60
<i>SLXZDEFS</i>	000004	64
<i>SLXZDISM</i>	000004	54
<i>SLXZEJCT</i>	000004	58
<i>SLXZEJC1</i>	000004	70
<i>SLXZGSCR</i>	000004	48
<i>SLXZMDM</i>	000004	4C
<i>SLXZMOVE</i>	000004	6C
<i>SLXZQCAP</i>	000004	8C
<i>SLXZQDRL</i>	000004	40
<i>SLXZQDRV</i>	000004	3C
<i>SLXZQDSN</i>	000004	98
<i>SLXZQEJT</i>	000004	90
<i>SLXZQSCR</i>	000004	50
<i>SLXZQVOL</i>	000004	44
<i>SLXZSCR</i>	000004	5C
<i>SLXZSET0</i>	000004	68
<i>SLXZSTOP</i>	000004	94
<i>SLXZVOL</i>	000004	38

ACSINT リクエスト DSECT

ACSINT により、TMS と ACS サービスマシン間で情報を渡すことができます。これは、*DSECT=YES* が指定されており、IUCV を使用して送信される場合に ACSRQ マクロによって構築されます。

注:

次の DSECT には VM Client でサポートされていないいくつかのパラメータが含まれています。これらは、完全性および互換性のためにのみ含まれています。

次の例は、ACSINT レコード形式の出力を示しています。

例9.5 ACSINT レコード形式

```

ACSINT - TMS INTERFACE REQUEST PARAMETER LIST
FUNCTION: THIS DEFINES THE DATA PASSED TO THE TMS VIA IUCV IT DEFINES THE VARIOUS
FUNCTIONS THAT CAN BE REQUESTED AND THE STRUCTURE PASSED.
DEC  HEX      TYPE          LENGTH  LABEL          DESCRIPTION
0    (0)      STRUCTURE          ACSINT        TMS INTERFACE PARAMETER LIST:
0    (0)      CHARACTER         4    ACSIHDR       PARAMETER LIST IDENTIFIER.
'ACSI'(C1C3E2C9)CHAR CONST    ACSIID
4    (4)      SIGNED-FWORD     4    ACSILEN       PARAMETER LIST LENGTH.
8    (8)      A-ADDR           1    ACSIVER       PARAMETER LIST VERSION
                                NUMBER.
7    (07)     CONST                                ACSIVN       CURRENT VERSION.
9    (9)      A-ADDR           1    ACSIRT       FUNCTION CODE:
0    (00)     CONST                                ACSINOOP     NOOP - NO OPERATION.
1    (01)     CONST                                ASCIRS01     RESERVED - MVS ONLY.
2    (02)     CONST                                ASCIRS02     RESERVED - MVS ONLY.
3    (03)     CONST                                ASCIRS03     RESERVED - MVS ONLY.
4    (04)     CONST                                ASCISTOP     STOP - STOP AN INTERRUPTABLE
                                PGMI TASK.
5    (05)     CONST                                ACSISOPR     SETOPER - SET OPERATOR
                                INTERACTION MODE.
20   (14)     CONST                                ACSIQCNF     QCONFIG - RETURN
                                CONFIGURATION SUMMARY.
21   (15)     CONST                                ACSIQDRV     QDRIVES - RETURN DRIVE AND
                                LSM INFO.
22   (16)     CONST                                ACSIQDRL     QDRLIST - RETURN DRIVE
                                INFORMATION, X .
23   (17)     CONST                                ACSIQSCR     QSCRATCH - RETURN SCRATCH
                                COUNT INFO.
24   (18)     CONST                                ACSIQVOL     QVOLUME - RETURN VOLUME
                                INFORMATION.
25   (19)     CONST                                ACSIQEJT     QEJECT - RETURN EJECT STATUS.
26   (1A)     CONST                                ACSIQCAP     QCAP - QUERY CAP STATUS.
27   (1B)     CONST                                ACSIQVLU     QVOLUME - RETURN MOUNTED
                                VOLUMES.
28   (1C)     CONST                                ACSIQRQS     QREQUEST - RETURN PENDING
                                REQUESTS.
29   (1D)     CONST                                ACSIQDSN     QDSN - QUERY DATASET.
40   (29)     CONST                                ACSIMNT     MOUNT - MOUNT VOLUME.
41   (29)     CONST                                ACSIMOVE     MOVE - MOVE A CARTRIDGE TO AN
                                LSMID X.
42   (2A)     CONST                                ACSIDSM     DISMOUNT - DISMOUNT VOLUME.
43   (2B)     CONST                                ACSIEJCT     EJECT - EJECT A VOL FROM THE
                                LIBRARY.
60   (3C)     CONST                                ACSISSCR     SELSCR - SELECT A SCRATCH
                                VOLUME.
61   (3D)     CONST                                ACSISCRA     SCRATCH - CHANGE VOL STATUS
                                TO 'SCRATCH'.
62   (3E)     CONST                                ACSIUWSC     UNSCRATCH- CHANGE VOLUME
                                STATUS TO NOT X.
63   (3F)     CONST                                ACSIDSCR     DEFSCR - SPECIFY NO. OF
                                SCRATCH POOLS.
64   (40)     CONST                                ACSIDPOL     DEFPOOL - SPECIFY A SCRATCH
    
```

10	(A)	BITSTRING	1	ACSIFLG1	POOL'S VOLSER RANGE. FLAG BYTE 1: (PGMI CONTROL 1) 1
		1... X'80'		ACSIF180	RESERVED MVS OPTION=SYNC
		.1... X'40'		ACSIVUSR	USER= SPECIFIED; ACSIUUSER CONTAINS NAME
		..1... X'20'		ACSIMANO	DIALOG=OFF SPECIFIED.
		...1... X'10'		ACSIWTOR	DIALOG=ON SPECIFIED.
	 1... X'08'		ACSINDEL	NOTIFY=INSDDEL SPECIFIED.
	1... X'04'		ACSINNDL	NOTIFY=NOINSDDEL SPECIFIED.
	1. X'02'		ACSIACC1	ACCT1= SPECIFIED ACCOUNTING TOKEN.
	1 X'01'		ACSIACC2	ACCT2= SPECIFIED ACCOUNTING TOKEN.
11	(B)	HEXSTRING	1	ACSIFLG2	FLAG BYTE 2: (PGMI CONTROL 2).
12	(C)	BITSTRING	1	ACSIFLG3	FLAG BYTE 3: (MOVEMENT CONTROL 1).
		1... X'80'		ACSIVHST	ACSIHOST CONTAINS HOST_ID.
		.1... X'40'		ACSIVACS	ACSIACS CONTAINS AN ACSID.
		..1... X'20'		ACSIVLSM	ACSILSMI CONTAINS LSMID.
		...1... X'10'		ACSIVCAP	ACSICAP CONTAINS CAP_ID.
	 1... X'08'		ACSIF308	RESERVED FUTURE USE.
	1... X'04'		ACSIVVOL	ACSIVOLS CONTAINS A VOLSER.
	1. X'02'		ACSIVLST	ACSILOFF CONTAINS LIST OFFSET.
	1 X'01'		ACSIVCNT	ACSICNT CONTAINS LIST COUNT.
13	(D)	BITSTRING	1	ACSIFLG4	FLAG BYTE 4: (MOVEMENT CONTROL 2).
		1... X'80'		ACSIVTLM	ACSITLSM CONTAINS TO LSM_ID.
		.1... X'40'		ACSIVTPN	ACSITPAN CONTAINS TO PANEL.
		..1... X'20'		ACSIF420	RESERVED FUTURE USE.
		...1... X'10'		ACSIF410	RESERVED FUTURE USE.
	 1... X'08'		ACSIVPAN	ACSIPAN CONTAINS PANEL NUMBER
	1... X'04'		ACSIVROW	ACSIROW CONTAINS ROW NUMBER.
	1. X'02'		ACSIVCOL	ACSICOL CONTAINS COLUMN NUMBER.
	1 X'01'		ACSIVDRV	ACSIDRIV CONTAINS DRIVE DEVICE NUMBER.
14	(E)	HEXSTRING	1	ACSIFLG5	FLAG BYTE 5: (MOVEMENT CONTROL 3).
15	(F)	BITSTRING	1	ACSIFLG6	FLAG BYTE 6: (MISCELLANOUS CONTROL 1).
		1... X'80'		ACSIPROT	PROTECT=YES SPECIFIED.
		.1... X'40'		ACSISCR	SCRATCH=YES SPECIFIED.
		..1... X'20'		ACSIVSCP	ACSIPOOL CONTAINS SCRATCH POOL NUMBER.
		...1... X'10'		ACSISUBN	ACSISUBP CONTAINS SUBPOOL NAME.
	 1... X'08'		ACSIVTKN	ACSITKNO CONTAINS TOKEN NUMBER.
	1... X'04'		ACSIVTXT	ACSITEXT CONTAINS TEXT STRING.
	1. X'02'		ACSIF602	RESERVED FUTURE USE.
	1 X'01'		ACSIF601	RESERVED FUTURE USE.
16	(10)	HEXSTRING	1	ACSIFLG7	FLAG BYTE 7: (MISCELLANOUS CONTROL 2).
17	(11)	A-ADDR	1	ACSILABT	SCRATCH LABEL TYPE LTYPE= PARAMETER.
	 X'00'		ACSILLDT	LDT (LIBRARY DEFAULT TYPE).
	1. X'01'		ACSILSL	SL (STANDARD LABEL).
	1. X'02'		ACSILAL	AL (ANSI LABEL).
	11 X'03'		ACSILNL	NL (NON-LABELED).

18	(12)1.. X'04'	8	ACSIUSER	NSL (NON-STANDARD LABEL). USER NAME USED TO ASSOCIATE CONSOLE ID.
26	(1A)	CHARACTER	8	ACSIACT1	ACCOUNTING TOKEN 1.
34	(22)	CHARACTER	8	ACSIACT2	ACCOUNTING TOKEN 2.
42	(2A)	HEXSTRING	2	-RESERVED-	RESERVE SLACK BYTES.
44	(2C)	SIGNED-FWORD	4	-RESERVED-	RESERVED MVS.
48	(30)	HEXSTRING	4	ACSITKNO	PASS THROUGH TOKEN NUMBER.
52	(34)	A-ADDR	4	-RESERVED-	RESERVED MVS.
56	(38)	SIGNED-HWORD	2	ACSICNT	COUNT FROM COUNT= PARAMETER.
58	(3A)	SIGNED-HWORD	2	ACSILOFF	OFFSET, FROM START OF PARAMETER LIST, TO START OF THE ELEMENT LIST AREA.
60	(3C)	CHARACTER			CHARACTER 6 ACSIVOLS VOLSER FROM VOLSER= PARAMETER.
66	(42)	CHARACTER	8	ACSIHOST	ASSOCIATED HOST FROM HOSTID= PARAMETER.
74	(4A)	AREA	4	ACSIALC	ACS / LSM / CAP IDENTIFICATION.
74	(4A)	HEXSTRING	1	ACSIACS	ACS ID NUMBER (AA).
74	(4A)	HEXSTRING	2	ACSILSMI	LSM ID NUMBER (AA0L).
74	(4A)	HEXSTRING	4	ACSICAP	CAP ID NUMBER (AA0LCC00).
74	(4A)	HEXSTRING	3	-RESERVED-	
77	(4D)	HEXSTRING	1	-RESERVED-	NOT IMPLEMENTED (ALWAYS X'00')
78	(4E)	HEXSTRING	1	ACSIPAN	PANEL FROM PAN= PARAMETER.
79	(4F)	HEXSTRING	1	ACSIROW	ROW FROM ROW= PARAMETER.
80	(50)	HEXSTRING	1	ACSICOL	COLUMN FROM COL= PARAMETER.
81	(51)	HEXSTRING	1	ACSITPAN	TO PANEL FROM TOPAN= PARAMETER.
82	(52)	HEXSTRING	2	ACSITLSM	TO LSM FROM TOLSM= PARAMETER.
84	(54)	A-ADDR	2	ACSIDRIV	DRIVE DEVICE NUMBER FROM DRIVE= PARAMETER.
86	(56)	A-ADDR	1	ACSIPOOL	SCRATCH POOL NUMBER, SCRPOOL= PARAMETER.
87	(57)	CHARACTER	32	ACSITEXT	TEXT ASSOCIATED WITH REQUEST.
119	(77)	CHARACTER	13	ACSI SUBP	NAME FROM SUBPOOL= KEYWORD.

TAPEREQ INPUT KEY VALUES.THE FOLLOWING VALUES ARE USED AS THE KEY IN SEARCHING THE CURRENT TAPEREQ PARAMETER FILE.

DEC	HEX	TYPE	LENGTH	LABEL	DESCRIPTION
132	(84)	BITSTRING	1	ACSIFLG8	FLAG BYTE 8: (TAPEREQ CONTROL 1).
		1... .. X'80'		ACSIFJOB	ACSIJOBN PRESENT.
		.1.. .. X'40'		ACSIFSTP	ACSISTEP PRESENT.
		..1. X'20'		ACSIFPGM	ACSIPGMN PRESENT.
		...1 X'10'		ACSIFDSN	ACSIDSN PRESENT.
	 1... X'08'		ACSIFEXP	ACSIEXPD PRESENT.
	1.. X'04'		ACSIFRET	ACSIRETP PRESENT.
	1. X'02'		ACSIFVOL	ACSIVOLT PRESENT.
133	(85)	OFFSET		ACSITRI	TAPEREQ INPUT VALUES.
133	(85)	CHARACTER	8	ACSIJOBN	STRING TO MATCH TAPEREQ JOBNAME VALUE.
141	(8D)	CHARACTER	8	ACSISTEP	STRING TO MATCH TAPEREQ STEPNAME VALUE.
149	(95)	CHARACTER	8	ACSIPGMN	STRING TO MATCH TAPEREQ PROGNAME VALUE.
157	(9D)	CHARACTER	44	ACSIDSN	STRING TO MATCH TAPEREQ DSN VALUE.
201	(C0)	HEXSTRING	3	ACSIEXPD	VALUE TO MATCH TAPEREQ EXPDT VALUE
204	(CC)	HEXSTRING	2	ACSIRETP	VALUE TO MATCH TAPEREQ RETPD VALUE.

206	(CE)	CHARACTER	1	ACSIVOLT	STRING TO MATCH TAPEREQ VOLTYPE VALUE.
74	(4A)	LENGTH		ACSITRIL	TAPEREQ OUTPUT VALUES.
THE FOLLOWING VALUES ARE USED AS OVERRIDE (OR SPECIFIC) VALUES TO THE VALUES FOUND IN THE CURRENT TAPEREQ PARAMETER FILE.					
207	(CF)	BITSTRING	1	ACSIFLG9	FLAG BYTE 9: (TAPEREQ CONTROL 2).
		1... .X'80'		ACSIFREC	ACSIRECT PRESENT.
		.1... .X'40'		ACSIFMED	ACSIMED PRESENT.
208	(D0)	CHARACTER	8	ACSIRECT	RECORDING TECHNIQUE.
216	(D8)	CHARACTER	8	ACSIMED	MEDIA.
224	(E0)	HEXSTRING	256	-RESERVED-	RESERVED FOR FUTURE PARM EXPANSION.
480	(1E0)	AREA	8	-RESERVED-	ALIGNMENT.
480	(1E0)	LENGTH		ACSIHLN	LENGTH OF FIXED AREA.
480	(1E0)	AREA	1	ACSILIST	ELEMENT LIST DESIGNATED BY LIST= PARAMETER BEGINS HERE (FIELD ACSICNT CONTAINS THE NUMBER OF ELEMENTS IN THIS LIST).
2	(02)	CONST		ACSILDRL	LENGTH OF EACH ELEMENT (DRIVE DEVICE NUMBER) IN THE LIST USED BY THE QDRLIST FUNCTION.
1500	(5DC)	CONST		ACSIMDRL	MAXIMUM NUMBER OF ELEMENTS ALLOWED IN THE LIST USED BY THE QDRLIST FUNCTION.
6	(06)	CONST		ACSILVSL	LENGTH OF EACH ELEMENT (VOLSER) IN THE LIST USED BY THE QVOLUME FUNCTION.
500	(1F4)	CONST		ACSIMVSL	MAXIMUM NUMBER OF ELEMENTS ALLOWED IN THE LIST USED BY THE QVOLUME AND EJECT.
12	(0C)	CONST		ACSILPOL	LENGTH OF EACH ELEMENT (VOLSER RANGE PAIR) IN THE LIST USED BY THE DEFPOOL FUNCTION.
250	(FA)	CONST		ACSIMPOL	MAXIMUM NUMBER OF ELEMENTS ALLOWED IN THE LIST USED BY THE DEFPOOL FUNCTION.
4	(04)	CONST		ACSILCAP	LENGTH OF EACH ELEMENT (CAP IDENTIFIER) IN THE LIST USED BY THE QCAP FUNCTION.
500	(1F4)	CONST		ACSIMCAP	MAXIMUM NUMBER OF ELEMENTS ALLOWED IN THE LIST USED BY THE QCAP FUNCTION.
4	(04)	CONST		ACSILTOK	LENGTH OF EACH ELEMENT (UNIQUE TOKEN) IN THE LIST USED BY THE QCAP FUNCTION.
500	(1F4)	CONST		ACSIMTOK	MAXIMUM NUMBER OF ELEMENTS ALLOWED IN THE LIST USED BY THE QEJECT/STOP FUNCTIONS.

相互参照

次の表に、ACSINT マクロの相互参照を示します。

表9.3 ACSINT マクロの相互参照

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSIACC1</i>	なし	02
<i>ACSIACC2</i>	なし	01
<i>ACSIACS</i>	000001	4A
<i>ACSIACT1</i>	000008	1A
<i>ACSIACT2</i>	000008	22
<i>ACSIALC</i>	000004	4A
<i>ACSICAP</i>	000004	4A
<i>ACSICNT</i>	000002	38
<i>ACSICOL</i>	000001	50
<i>ACSIDPOL</i>	なし	40
<i>ACSIDRIV</i>	000002	54
<i>ACSIDSCR</i>	なし	3F
<i>ACSIDSM</i>	なし	2A
<i>ACSIDSN</i>	000044	9D
<i>ACSI EJCT</i>	なし	2B
<i>ACSI EXPD</i>	000003	C9
<i>ACSI FDSN</i>	なし	10
<i>ACSI FEXP</i>	なし	08
<i>ACSI FJOB</i>	なし	80
<i>ACSI FLG1</i>	000001	0A
<i>ACSI FLG2</i>	000001	0B
<i>ACSI FLG3</i>	000001	0C
<i>ACSI FLG4</i>	000001	0D
<i>ACSI FLG5</i>	000001	0E
<i>ACSI FLG6</i>	000001	0F
<i>ACSI FLG7</i>	000001	10
<i>ACSI FLG8</i>	000001	84
<i>ACSI FLG9</i>	000001	CF

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSIFMED</i>	なし	40
<i>ACSIFMED</i>	なし	40
<i>ACSIFREC</i>	なし	80
<i>ACSIMED</i>	000008	D8
<i>ACSIMNT</i>	なし	28
<i>ACSIMOVE</i>	なし	29
<i>ACSIMPOL</i>	なし	FA
<i>ACSIMTOK</i>	なし	1F4
<i>ACSIFRET</i>	なし	04
<i>ACSIFSTP</i>	なし	40
<i>ACSIFVOL</i>	なし	02
<i>ACSIF180</i>	なし	80
<i>ACSIF308</i>	なし	08
<i>ACSIF410</i>	なし	10
<i>ACSIF420</i>	なし	20
<i>ACSIF601</i>	なし	01
<i>ACSIF602</i>	なし	02
<i>ACSIHDR</i>	000004	00
<i>ACSIHLN</i>	なし	1E0
<i>ACSIHOST</i>	000008	42
<i>ACSID</i>	なし	'CVAL'
<i>ACSIJOBN</i>	000008	85
<i>ACSILABT</i>	000001	11
<i>ACSILAL</i>	なし	02
<i>ACSILCAP</i>	なし	04
<i>ACSILDRL</i>	なし	02
<i>ACSILIST</i>	000001	1E0
<i>ACSILLDT</i>	なし	00
<i>ACSILNL</i>	なし	03

名前	長さ	オフセット値
<i>ACFILNS</i>	なし	04
<i>ACFILOFF</i>	000002	3A
<i>ACFILPOL</i>	なし	0C
<i>ACFILSL</i>	なし	01
<i>ACFILSMI</i>	000002	4A
<i>ACFILTOK</i>	なし	04
<i>ACFILVSL</i>	なし	06
<i>ACSIMANO</i>	なし	20
<i>ACSIMCAP</i>	なし	1F4
<i>ACSIMDRL</i>	なし	5DC
<i>ACSIIVTPN</i>	なし	40
<i>ACSIIVTXT</i>	なし	04
<i>ACSIIVUSR</i>	なし	40
<i>ACSIIVVOL</i>	なし	04
<i>ACSIWTOR</i>	なし	10
<i>ACSIMVSL</i>	なし	1F4
<i>ACSIINDEL</i>	なし	08
<i>ACSIINNDL</i>	なし	04
<i>ACSIINOOP</i>	なし	00
<i>ACSIIPAN</i>	000001	4E
<i>ACSIIPGMN</i>	000008	95
<i>ACSIPOOL</i>	000001	56
<i>ACSIIPROT</i>	なし	80
<i>ACSIQCAP</i>	なし	1A
<i>ACSIQCNF</i>	なし	14
<i>ACSIQDRL</i>	なし	16
<i>ACSIQDRV</i>	なし	15
<i>ACSIQDSN</i>	なし	1D
<i>ACSIQEJT</i>	なし	19

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSIQRQS</i>	なし	1C
<i>ACSIVDRV</i>	なし	01
<i>ACSIVER</i>	000001	08
<i>ACSIVHST</i>	なし	80
<i>ACSIVLSM</i>	なし	20
<i>ACSIVLST</i>	なし	02
<i>ACSIVN</i>	なし	07
<i>ACSIVOLS</i>	000006	3C
<i>ACSIVOLT</i>	000001	CE
<i>ACSIVPAN</i>	なし	08
<i>ACSIVROW</i>	なし	04
<i>ACSIVSCP</i>	なし	20
<i>ACSIVTKN</i>	なし	08
<i>ACSIVTLM</i>	なし	80
<i>ACSIROW</i>	000001	4F
<i>ACSIRS01</i>	なし	01
<i>ACSIRS02</i>	なし	02
<i>ACSIRS03</i>	なし	03
<i>ACSIRT</i>	000001	09
<i>ACSISCR</i>	なし	40
<i>ACSISCRA</i>	なし	3D
<i>ACSISOPR</i>	なし	05
<i>ACSISSCR</i>	なし	3C
<i>ACSISTEP</i>	000008	8D
<i>ACSISTOP</i>	なし	04
<i>ACSISUBN</i>	なし	10
<i>ACSISUBP</i>	000013	77
<i>ACSITEXT</i>	000032	57
<i>ACSITKNO</i>	000004	30

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSITLSM</i>	000002	52
<i>ACSITPAN</i>	000001	51
<i>ACSITRI</i>	なし	85
<i>ACSITRIL</i>	なし	4A
<i>ACSIUNSC</i>	なし	3E
<i>ACSIUSER</i>	000008	12
<i>ACSIVACS</i>	なし	40
<i>ACSIVCAP</i>	なし	10
<i>ACSIVCNT</i>	なし	01
<i>ACSIVCOL</i>	なし	02

IUB レコード形式

IUB - IUCV リクエストブロック

IUB は、IUCV 操作からの結果としての未処理の IUCV リクエストを記述しています。IUB データ構造体には、リクエストと最終ステータスの両方が格納されます。IUB は、IUCV の、デバイス管理で使用される「IOBLOK」構造体に対応するものです。

次の表に、IUB IUCV リクエストブロックの相互参照を示します。

表9.4 IUB リクエストブロックリファレンス

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSIACC1</i>	なし	02
<i>ACSIACC2</i>	なし	01
<i>ACSIACS</i>	000001	4A
<i>ACSIACT1</i>	000008	1A
<i>ACSIACT2</i>	000008	22
<i>ACSIALC</i>	000004	4A
<i>ACSICAP</i>	000004	4A
<i>ACSICNT</i>	000002	38
<i>ACSICOL</i>	000001	50

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSIDPOL</i>	なし	40
<i>ACSIDRIV</i>	000002	54
<i>ACSIDSCR</i>	なし	3F
<i>ACSIDSM</i>	なし	2A
<i>ACSIDSN</i>	000044	9D
<i>ACSI EJCT</i>	なし	2B
<i>ACSI EXPD</i>	000003	C9
<i>ACSIFDSN</i>	なし	10
<i>ACSIFEXP</i>	なし	08
<i>ACSIFJOB</i>	なし	80
<i>ACSIFLG1</i>	000001	0A
<i>ACSIFLG2</i>	000001	0B
<i>ACSIFLG3</i>	000001	0C
<i>ACSIFLG4</i>	000001	0D
<i>ACSIFLG5</i>	000001	0E
<i>ACSIFLG6</i>	000001	0F
<i>ACSIFLG7</i>	000001	10
<i>ACSIFLG8</i>	000001	84
<i>ACSIFLG9</i>	000001	CF
<i>ACSIFMED</i>	なし	40
<i>ACSIFPGM</i>	なし	20
<i>ACSIFRET</i>	なし	04
<i>ACSIFSTP</i>	なし	40
<i>ACSIFVOL</i>	なし	02
<i>ACSIF180</i>	なし	80
<i>ACSIF308</i>	なし	08
<i>ACSIF410</i>	なし	10
<i>ACSIF420</i>	なし	20
<i>ACSIF601</i>	なし	01

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSIF602</i>	なし	02
<i>ACSIHDR</i>	000004	00
<i>ACSIHLN</i>	なし	1E0
<i>ACSIHOST</i>	000008	42
<i>ACSIID</i>	なし	'CVAL'
<i>ACSIJOBN</i>	000008	85
<i>ACSILABT</i>	000001	11
<i>ACSILAL</i>	なし	02
<i>ACSILCAP</i>	なし	04
<i>ACSILDRL</i>	なし	02
<i>ACSILIST</i>	000001	1E0
<i>ACSILLDT</i>	なし	00
<i>ACSILNL</i>	なし	03
<i>ACSILNS</i>	なし	04
<i>ACSILOFF</i>	000002	3A
<i>ACSILPOL</i>	なし	0C
<i>ACSILSL</i>	なし	01
<i>ACSILSMI</i>	000002	4A
<i>ACSILTOK</i>	なし	04
<i>ACSILVSL</i>	なし	06
<i>ACSIMANO</i>	なし	20
<i>ACSIMCAP</i>	なし	1F4
<i>ACSIFREC</i>	なし	80
<i>ACSIMED</i>	000008	D8
<i>ACSIMNT</i>	なし	28
<i>ACSIMOVE</i>	なし	29
<i>ACSIMPOL</i>	なし	FA
<i>ACSIMTOK</i>	なし	1F4
<i>ACSIMVSL</i>	なし	1F4

名前	長さ	オフセット値
<i>ACSinDEL</i>	なし	08
<i>ACSinNDL</i>	なし	04
<i>ACSinOOP</i>	なし	00
<i>ACSiPAN</i>	000001	4E
<i>ACSiPGMN</i>	000008	95
<i>ACSiPOOL</i>	000001	56
<i>ACSiPROT</i>	なし	80
<i>ACSiQCAP</i>	なし	1A
<i>ACSiQCNF</i>	なし	14
<i>ACSiQDRL</i>	なし	16
<i>ACSiQDRV</i>	なし	15
<i>ACSiQDSN</i>	なし	1D
<i>ACSiQEJT</i>	なし	19
<i>ACSiQRQS</i>	なし	1C
<i>ACSiVDRV</i>	なし	01
<i>ACSiVER</i>	000001	08
<i>ACSiVHST</i>	なし	80
<i>ACSiVLSM</i>	なし	20
<i>ACSiVLST</i>	なし	02
<i>ACSiVN</i>	なし	07
<i>ACSiVOLS</i>	000006	3C
<i>ACSiVOLT</i>	000001	CE
<i>ACSiVPAN</i>	なし	08
<i>ACSiVROW</i>	なし	04
<i>ACSiVSCP</i>	なし	20
<i>ACSiVTKN</i>	なし	08
<i>ACSiVTLM</i>	なし	80
<i>ACSiMDRL</i>	なし	5DC
<i>ACSiVTPN</i>	なし	40

名前	長さ	オフセット値
ACSIVTXT	なし	04
ACSIVUSR	なし	40
ACSIVVOL	なし	04
ACSIWTOR	なし	10
ACSIROW	000001	4F
ACSIRS01	なし	01
ACSIRS02	なし	02
ACSIRS03	なし	03
ACSIRT	000001	09
ACSISCR	なし	40
ACSISCRA	なし	3D
ACSISOPR	なし	05
ACSISSCR	なし	3C
ACSISTEP	000008	8D
ACSISTOP	なし	04
ACSISUBN	なし	10
ACSISUBP	000013	77
ACSITEXT	000032	57
ACSITKNO	000004	30
ACSITLSM	000002	52
ACSITPAN	000001	51
ACSITRI	なし	85
ACSITRIL	なし	4A
ACSIUNSC	なし	3E
ACSIUSER	000008	12
ACSIVACS	なし	40
ACSIVCAP	なし	10
ACSIVCNT	なし	01
ACSIVCOL	なし	02

相互参照

次の表に、IUB の相互参照を示します。

表9.5 IUB の相互参照

名前	長さ	オフセット値
<i>IUBCC</i>	000001	31
<i>IUBCONN</i>	なし	10
<i>IUBDABQ</i>	000016	10
<i>IUBDAVL</i>	000001	20
<i>IUBDCBPT</i>	000004	44
<i>IUBECBKY</i>	000001	21
<i>IUBBECBT</i>	000004	34
<i>IUBEXT</i>	000040	78
<i>IUBEXT1</i>	000008	78
<i>IUBEXT2</i>	000008	80
<i>IUBEXT3</i>	000008	88
<i>IUBEXT4</i>	000008	90
<i>IUBEXT5</i>	000008	98
<i>IUBEYE</i>	000004	0C
<i>IUBFLG1</i>	000001	30
<i>IUBFLG2</i>	000001	32
<i>IUBHCOMM</i>	なし	20
<i>IUBIRT</i>	000004	2C
<i>IUBIUBPT</i>	なし	24
<i>IUBLEN</i>	なし	A0
<i>IUBLOK</i>	なし	08
<i>IUBNPOST</i>	なし	40
<i>IUBORGID</i>	000004	3C
<i>IUBPARML</i>	000040	50
<i>IUBPARM1</i>	000008	50

名前	長さ	オフセット値
<i>IUBPARAM2</i>	000008	58
<i>IUBPARAM3</i>	000008	60
<i>IUBPARAM4</i>	000008	68
<i>IUBPARAM5</i>	000008	70
<i>IUBQ</i>	000016	00
<i>IUBREAD</i>	なし	80
<i>IUBREJCT</i>	なし	08
<i>IUBREPLY</i>	なし	20
<i>IUBSEND</i>	なし	40
<i>IUBSENT</i>	なし	80
<i>IUBTASK</i>	000004	28

付録A MEDia、RECtech、および MODEl の値

この付録では、MEDia、RECtech、および MODEl パラメータの値を示します。これらのパラメータにより、トランスポートとメディアの特性を指定できます。それらは、さまざまな VM Client コマンドおよび TMI リクエストで指定されます。

注:

- SL8500 ライブラリは T9840A/B/C/D、T9940B、LTO、SDLT、および T10000A/B/C メディアタイプと記録技法のみをサポートしています。
- SL3000 ライブラリは、T9840C/D、LTO、SDLT、および T10000A/B/C メディアタイプと記録技法のみをサポートしています。
- LTO および SDLT ドライブは MVS 環境でサポートされていません。これらのドライブは、HSC によって認識されますが、LibraryStation を使用したオープンシステムクライアントからのみアクセスできません。

メディアタイプ (MEDia)

メディアタイプ、つまり MEDia により、データセットに使用される目的のメディアのタイプを指定できます。次の VM Client コマンドおよび TMI リクエストで指定されます。

- MOUNT コマンド
- QDRLIST TMI リクエスト
- QSCRATCH TMI リクエスト
- SELSCR TMI リクエスト

次の表に、有効なメディアタイプについて説明します。

表A.1 メディアタイプ

メディアタイプ	説明
LONGitud	任意の標準または拡張 (ECART) 容量カートリッジを示します。
ZLONGI	標準、拡張 (ECART)、または追加拡張 (ZCART) 容量カートリッジを示します。
Standard	標準長、3480 カートリッジを示します。任意の水平方式のドライブ (4480、4490、9490、9490EE) で読み取ることができます。データは、36トラックモードで 4490、9490、または 9490EE ドライブに

メディアタイプ	説明
	書き込むことができますが、18トラック (4480) ドライブでは読み取ることができません。同義語には、 <i>CST</i> 、 <i>MEDIA1</i> 、 <i>STD</i> 、 <i>1</i> 、および <i>3480</i> が含まれます。
<i>ECART</i>	3490E、拡張容量カートリッジを示します。36トラックドライブ (4490、9490、9490EE) でのみ使用できます。同義語には、 <i>E</i> 、 <i>ECCST</i> 、 <i>ETAPE</i> 、 <i>Long</i> 、 <i>MEDIA2</i> 、 <i>3490E</i> が含まれます。
<i>ZCART</i>	3490E、追加拡張容量カートリッジを示します。9490EE ドライブでのみ使用できます。 <i>ZCART</i> は <i>Z</i> と短縮できます。
<i>Virtual</i>	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされた VTV (仮想テープボリューム) を示します。
<i>HELical</i>	<p>ヘリカルカートリッジを示します。ヘリカルカートリッジは RedWood ドライブでのみ使用できます。次のサブタイプと短縮形はヘリカルカートリッジを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>DD3</i> は任意の <i>DD3A</i>、<i>DD3B</i>、または <i>DD3C</i> ヘリカルカートリッジを示します。 • <i>DD3A</i> または <i>A</i> は 10G バイトメディア容量のヘリカルカートリッジを示します。 • <i>DD3B</i> または <i>B</i> は 25G バイトメディア容量のヘリカルカートリッジを示します。 • <i>DD3C</i> または <i>C</i> は 50G バイトメディア容量のヘリカルカートリッジを示します。 <p>外部ラベルの 7 番目の位置は、カートリッジタイプ (つまり、<i>A</i>、<i>B</i>、または <i>C</i>) でエンコードされます。</p>
<i>STK1</i>	任意の T9840 カートリッジを示します。
<i>STK1R</i>	<p>T9840 データカートリッジを示します。外部ラベル内のメディアインジケータは、カートリッジタイプ (<i>R</i>) でエンコードされません。<i>STK1R</i> は <i>R</i> と短縮できます。</p> <p>T9840 カートリッジのメディア容量は 20G バイト (T9840A および T9840B)、40G バイト (T9840C)、または 75G バイト (T9840D) です。</p>
<i>STK1U</i>	T9840A、T9840B、または T9840C クリーニングカートリッジを示します。 <i>STK1U</i> は <i>U</i> と短縮できます。

メディアタイプ	説明
STK1Y	T9840D クリーニングカートリッジを示します。STK1Y は Y と短縮できます。
STK2	任意の T9940 カートリッジを示します。
STK2P	T9940 データカートリッジを示します。STK2P は P と短縮できます。 T9940 カートリッジのメディア容量は 60G バイト (T9940A) または 200G バイト (T9940B) です。
STK2W	T9940 クリーニングカートリッジを示します。STK2W は W と短縮できます。
T10000T1	全容量 500G バイト T10000A または 1T バイト T10000B カートリッジを示します。T10000T1 は T1 と短縮できます。
T10000TS	少ない容量の 120G バイト T10000A または 240G バイト T10000B カートリッジを示します。T10000TS は TS と短縮できません。
T10000CT	T10000A または T10000B クリーニングカートリッジを示します。T10000CT は CT と短縮できます。
T10000T2	全容量 5T バイト T10000C カートリッジを示します。T10000T2 は T2 と短縮できます。
T10000TT	少ない容量の 1T バイト T10000C カートリッジを示します。T10000TT は TT と短縮できます。
T10000CL	T10000A、T10000B、または T10000C クリーニングカートリッジを示します。T10000CL は CL と短縮できます。

注:

- T10000C ドライブは T10000T1 または T10000TS メディアを読み取ることはできますが、そのメディアに書き込むことはできません。
- T10000C ドライブは T10000T2 または T10000TT メディアにのみ書き込むことができます。

MEDia パラメータが指定されていない場合、デフォルトは RECTech パラメータの値に基づいて選択されます。次の表に、MEDia が省略されている場合に使用されるデフォルト値を示します。

表A.2 メディアタイプのデフォルト

入力された RECtech	MEDia のデフォルト
18track	Standard
36track、36Atrack、 36Btrack	LONGitud
36Ctrack	ZLONGI
LONGitud	LONGitud
DD3、Helical	DD3A
STK1R、STK1R34、 STK1R35、STK1RA、 STK1RA34、STK1RA35、 STK1RB、STK1RB34、 STK1RB35、STK1RAB、 STK1RAB34、STK1RAB35、 STK1RC、STK1RC34、 STK1RC35、STK1RD、 STK1RDE、STK1RDN、 STK1RD34、STK1RD35、 STK1RDE4、STK1RDE5	STK1R
STK2P、STK2P34、 STK2P35、STK2PA、 STK2PA34、STK2PA35、 STK2PB、STK2PB34、 STK2PB35	STK2P
T10K、T10KN、T10KE、 T10KA、T10KAN、 T1A34、T1A35、T10KAE、 T1AE34、T1AE35、 T10KC、T10KCN、 T1C34、T1C35、T10KCE、 T1CE34、T1CE35	T10000T1

注:

- T10000Cドライブは T10000T1 または T10000TS メディアを読み取ることはできますが、そのメディアに書き込むことはできません。
- T10000Cドライブは T10000T2 または T10000TT メディアにのみ書き込むことができます。

記録技法 (RECtech)

記録技法、つまり RECtech により、目的のデータセットについて、テープ面にデータトラックを記録するための方法を指定できます。これは次の VM Client TMI リクエストで指定されます。

- QDRLIST
- QSCRATCH
- SELSCR

次の表に、有効な記録技法について説明します。

表A.3 記録技法

記録技法	説明
LONGitud	水平記録方式を使用する任意のデバイスを示します。デバイスには 4480、4490、9490 および 9490EE ドライブが含まれます。
18track	4480 ドライブを示します。
36track	4490、9490、または 9490EE ドライブ (36トラックモードで記録する任意のデバイス) を示します。
36Atrack	4490 (Silverton) ドライブを示します。
36Btrack	9490 (TimberLine) ドライブを示します。
36Ctrack	9490EE ドライブを示します。
HELical	ヘリカル記録を使用するデバイスを示します。
DD3	ヘリカル記録を使用するデバイスを示します。
STK1R	任意の T9840 ドライブを示します。
STK1R34	3490E イメージ T9840 ドライブを示します。
STK1R35	3590 イメージ T9840 ドライブを示します。
STK1RA	任意の T9840A ドライブを示します。
STK1RA34	3490E イメージ T9840A ドライブを示します。

記録技法	説明
STK1RA35	3590 イメージ T9840A ドライブを示します。
STK1RB	任意の T9840B ドライブを示します。
STK1RB34	3490E イメージ T9840B ドライブを示します。
STK1RB35	3590 イメージ T9840B ドライブを示します。
STK1RAB	任意の T9840A または T9840B ドライブを示します。
STK1RAB4	3490E イメージ T9840A または T9840B ドライブを示します。
STK1RAB5	3590 イメージ T9840A または T9840B ドライブを示します。
STK1RC	任意の T9840C ドライブを示します。
STK1RC34	3490E イメージ T9840C ドライブを示します。
STK1RC35	3590 イメージ T9840C ドライブを示します。
STK1RD	任意の T9840D ドライブを示します。
STK1RDE	暗号化対応 T9840D ドライブを示します。
STK1RDN	非暗号化対応 T9840D ドライブを示します。
STK1RD34	非暗号化対応 3490E イメージ T9840D ドライブを示します。
STK1RD35	非暗号化対応 3590 イメージ T9840D ドライブを示します。
STK1RDE4	暗号化対応 3490E イメージ T9840D ドライブを示します。
STK1RDE5	暗号化対応 3590 イメージ T9840D ドライブを示します。
STK2P	任意の T9940 ドライブを示します。
STK2P34	3490E イメージ T9940 ドライブを示します。
STK2P35	3590 イメージ T9940 ドライブを示します。
STK2PA	任意の T9940A ドライブを示します。
STK2PA34	3490E イメージ T9940A ドライブを示します。
STK2PA35	3590 イメージ T9940A ドライブを示します。
STK2PB	任意の T9940B ドライブを示します。
STK2PB34	3490E イメージ T9940B ドライブを示します。
STK2PB35	3590 イメージ T9940B ドライブを示します。
T10K	任意の T10000 ドライブを示します。
T10KN	すべての非暗号化 T10000 ドライブを示します。
T10KE	すべての暗号化 T10000 ドライブを示します。

記録技法	説明
T10KA	任意の T10000A ドライブを示します。
T10KAN	非暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T1A34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000A ドライブを示します。
T1A35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T10KAE	暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T1AE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000A ドライブを示します。
T1AE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T10KB	任意の T10000B ドライブを示します。
T10KBN	非暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T1B34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000B ドライブを示します。
T1B35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T10KBE	暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T1BE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000B ドライブを示します。
T1BE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T10KC	任意の T10000C ドライブを示します。
T10KCN	非暗号化 3490E または 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
T1C34	非暗号化 3490E イメージ T10000C ドライブを示します。
T1C35	非暗号化 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
T10KCE	暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
TICE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000C ドライブを示します。
TICE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
Virtual	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされた VTV (仮想テープボリューム) を示します。

RECtech パラメータが指定されていない場合、デフォルトは MEDia パラメータの値に基づいて選択されます。次の表に、RECtech が省略されている場合に使用されるデフォルト値を示します。

表A.4 記録技法のデフォルト

入力された MEDia	RECtech のデフォルト
<i>LONGItud</i>	<i>LONGItud</i>
<i>ZLONGI</i>	<i>LONGItud</i>
<i>Standard</i>	<i>LONGItud</i>
<i>ECART</i>	<i>36track</i>
<i>ZCART</i>	<i>36Ctrack</i>
<i>DD3A, DD3B, DD3C, DD3D</i>	<i>DD3</i>
<i>STKR, STK1U, STKY</i>	<i>STK1R</i>
<i>STK2P, STK2W</i>	<i>STK2P</i>
<i>T10000T1, T10000TS, T10000TK</i>	
<i>T10000CT</i>	<i>T10KA</i> および <i>T10KB</i>
<i>T10000T2, T10000TT</i>	<i>T10KC</i>
<i>Virtual</i>	<i>Virtual</i>

モデルタイプ (MODE1)

モデルタイプ、つまり *MODE1* により、トランスポート (ドライブ) またはドライブのモデル番号を指定できます。*MODE1* は *RECtech* と同じタイプの情報を提供しますが、ユーザーには記録技法より、トランスポートモデルを指定する方が便利な場合もあります。

注:

- *MODE1* と *RECtech* は相互に排他的です。
- SL8500 ライブラリは、T9840、T9940、および T10000 シリーズドライブに関連付けられたモデルタイプのみをサポートします。
- このパラメータには複数の値を指定できます。それぞれの値はコンマで区切ります。

次の表に、有効なモデルタイプについて説明します。

表A.5 モデルタイプ

モデルタイプ	説明
4480	4480 (18トラック)ドライブを示します。
4490	4490 (36トラック Silverton)ドライブを示します。
9490	9490 (36トラック TimberLine)ドライブを示します。
9490EE	9490EE (36トラック Timberline EE)ドライブを示します。
SD3	SD-3 (RedWood)ドライブを示します。
9840	3490E イメージ T9840Aドライブを示します。
984035	3590 イメージ T9840Aドライブを示します。
T9840B	3490E イメージ T9840Bドライブを示します。
T9840B35	3590 イメージ T9840Bドライブを示します。
T9840C	3490E イメージ T9840Cドライブを示します。
T9840C35	3590 イメージ T9840Cドライブを示します。
T9840D	非暗号化対応 3490E イメージ T9840Dドライブを示します。
T9840D35	非暗号化対応 3590E イメージ T9840Dドライブを示します。
T9840DE	暗号化対応 3490E イメージ T9840Dドライブを示します。
T9840DE5	暗号化対応 3590E イメージ T9840Dドライブを示します。
T9940A	3490E イメージ T9940Aドライブを示します。
T9940A35	3590 イメージ T9940Aドライブを示します。
T9940B	3490E イメージ T9940Bドライブを示します。
T9940B35	3590 イメージ T9940Bドライブを示します。
T1A34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000Aドライブを示します。
T1A35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000Aドライブを示します。
T1AE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000Aドライブを示します。
T1AE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000Aドライブを示します。
T1B34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000Bドライブを示します。
T1B35	非暗号化対応 3590E イメージ T10000Bドライブを示します。
T1BE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000Bドライブを示します。
T1BE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000Bドライブを示します。
T1C34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000Cドライブを示します。

モデルタイプ	説明
T1C35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
T1CE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000C ドライブを示します。
T1CE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
Virtual	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされた VTV (仮想テープボリューム) を示します。

付録B

付録B 診断

この付録では、オラクルに VM Client サポートについて連絡する際、提供が求められる可能性のある診断情報について説明します。

この情報には次のものが含まれます。

- *SMCCMDS* および *SMCPARMS* データセットファイル
- VM Client コンソールログ
- *TRACE* ファイル
- *MSGDEF LVL=28* の設定
- システム DUMPS
- VM Client 保守の表示 (*VMFINFO*)
- VM レベル (*Q CPLEVEL*)
- CMS レベル (*Q CMSLEVEL*)
- VM TMS 保守レベル

Oracle サポートの連絡先については、[はじめに](#) を参照してください。

索引

...

概要, 27, 27

機能、VM Client, 27

記録技法 (RECtech) 値, 233

構文

ACSRQ マクロ, 153

AUTHorize コマンド, 56

CMS コマンド, 57

COMMtest コマンド, 58

CP コマンド, 59

DISMount コマンド, 60

DISMOUNT リクエスト, 155, 155

Display DRive コマンド, 61

Display RC コマンド, 63, 64

Display Volume コマンド, 64

DRIVemap コマンド, 65

DUMP コマンド, 66

DUMPOpts コマンド, 67

EJECT リクエスト, 158

EXIT コマンド, 68

Help コマンド, 69

LlSt コマンド, 70

LOGdisk コマンド, 71

MOunt コマンド, 72

MOUNT リクエスト, 162

MOVE リクエスト, 165

MSGDef コマンド, 74

OPERator コマンド, 76

POOLmap コマンド, 77

QCAP リクエスト, 169

QCONFIG リクエスト, 172, 172

QDRIVES リクエスト, 174

QDRLIST リクエスト, 177

QSCRATCH リクエスト, 181

QVOLUME リクエスト, 184

QVOLUME リクエスト, 186

READ コマンド, 78

RESYNChronize コマンド, 79

Route コマンド, 80

SCRATCH リクエスト, 189

SELSCR リクエスト, 191

SERVer コマンド, 81

TAPEPlex コマンド, 85

TCPip コマンド, 87

TRace コマンド, 90

UNSCRATCH リクエスト, 194

診断, 239

保守、インストール, 45

あ

インストール

DASD の要件, 33

IBM VSES/E, 31, 37, 45

MVS の要件, 33

PPF オーバーライドファイルの作成, 39

VM Client のテスト, 43

VM Client の本番環境への配置, 43

VM Client サービスマシンの作成, 43

VM Client マシンファイルのカスタマイズ, 43

VM Client リソースの割り当て, 40

VM Client 実行可能コードのビルド, 42

VM Client 製品ファイルのインストール, 41

ソフトウェアおよびハードウェアの要件, 32

手順のサマリー, 37

インストールの内容, 32

インタフェースデータ領域, 196

か

コマンド

AUTHorize, 55

CMS, 57

COMMtest, 58

CP, 59

DISMount, 60

Display DRive, 61

Display RC, 62

DRIVemap, 64

DUMP, 66

DUMPOpts, 67

EXIT, 68

Help, 68

LlSt, 69

LOGdisk, 70

MOunt, 72

MSGDef, 74

OPERator, 76

POOLmap, 77

READ, 78

RESYNChronize, 79

Route, 80
SERVer, 81
TAPEPlex, 85
TCPIP, 87
TRace, 90
発行, 55
コマンドの発行, 55
コマンドファイル, 52

さ

サーバーに関する考慮事項, 93
サービスマシン、作成, 43
スクラッチサブプール, 93
ソフトウェア要件, 32

た

データフロー、VM Client, 28
テープ管理インタフェース (TMI), 137

は

ハードウェア要件, 32

ま

メッセージ, 97
メディアタイプ (MEDIA) 値, 229

A

ACSINTDSECT, 213
ACSLs サーバーへの XAPI Client インタフェース,
28
ACSLs、XAPI クライアントインタフェース, 28
ACSRQ マクロ
リクエスト
DISMOUNT, 155
EJECT, 157
MOUNT, 161
MOVE, 165
QCAP, 169
QCONFIG, 172
QDRIVES, 174
QSCRATCH, 180
QVOLUME, 183
QVOLUME, 186
SCRATCH, 188
SELSCR, 191
UNSCRATCH, 194

概要, 152
構文, 153
AUTHorize コマンド, 55

C

CD-ROM の内容, 32
CMS コマンド, 57
COMMtest コマンド, 58
CP コマンド, 59
CP DETACH のサポート, 54

D

DASD の要件, 33
DISMOUNT コマンド, 60
DISMOUNT リクエスト, 155
Display DRive コマンド, 61
Display RC コマンド, 62
DRIVemap コマンド, 64
DUMP コマンド, 66
DUMPOpts コマンド, 67

E

EJECT リクエスト, 157
ELS, 33
EXIT コマンド, 68

H

Help コマンド, 68
HTTP サーバー, 93

I

IUB レコード形式, 222
IUCV に関する注意事項, 142

L

LlSt コマンド, 69
LOGdisk コマンド, 70

M

MAXRC キーワード値ペア, 52
MODEl タイプ (MODEl) 値, 236
MOunt コマンド, 72
MOUNT リクエスト, 161
MOVE リクエスト, 165
MSGDef コマンド, 74

MVS の要件, 33

O

OPERATOR キーワード値ペア, 52
OPERator コマンド, 76

P

POOLmap コマンド, 77
PPF オーバーライドファイル、作成, 39

Q

QCAP リクエスト, 169
QCONFIG リクエスト, 172
QDRIVES リクエスト, 174
QSCRATCH リクエスト, 180
QVOLUME リクエスト, 183
QVOLUME リクエスト, 186

R

READ コマンド, 78
RESYNChronize コマンド, 79
Route コマンド, 80

S

SCRATCH リクエスト, 188
SELSCR リクエスト, 191
SERVer コマンド, 81
SLX マクロ, 196
SMC HTTP サーバー, 93
SMCBINT モジュールパラメータ, 51
SMCCMDS コマンドファイル, 53
SMCPARMS コマンドファイル, 53

T

TAPEPlex コマンド, 85
TCPip コマンド, 87
TMS
 VM Client との対話, 145
 概要, 138
 決定ポイント, 140
TRACE キーワード値ペア, 52
TRace コマンド, 90

U

UNSCRATCH リクエスト, 194

V

VM Client のテスト, 43
VM Client のリソース要件の決定, 38
VM Client の概要, 27
VM Client の起動, 51
VMSES/E, 31, 37, 45
VTCS 管理クラス, 94

Z

ZIP ファイルの内容, 32

